令和８年１１月１１日
地震調査研究推進本部
地震調査委員会

２０２６年１０月の地震活動の評価

１．主な地震活動

○　10 月 29 日に千葉県北東部でマグニチュード（M）5.5 の地震が発生した。この地震により千葉県で最大震度５弱を観測した。

２．各領域別の地震活動

（１）北海道地方

目立った活動はなかった。

（２）東北地方

○　10 月 24 日に岩手県沖の深さ約 15 km で M5.1 の地震が発生した。この地震の発震機構は北北東－南南西方向に張力軸を持つ正断層型で、陸のプレートの地殻内で発生した地震である。

三陸沖から岩手県沖にかけては、2025 年 11 月以降、2025 年 11 月９日の三陸沖（M6.9）、2026 年４月 20 日の三陸沖（M7.7）、2026 年６月 25 日の岩手県沖（M7.2）の地震活動が見られており、これら一連の地震活動域では、10 月中に震度１以上を観測した地震が 10 回発生した（９月は７回）。これらの地震活動域の東側では、2025 年 11 月４日の三陸沖の地震（M5.3）が発生して以降、微動活動が断続的に継続している。

ＧＮＳＳ観測によると、４月 20 日の M7.7 の地震の後、およそ６か月間で、岩手県の久慈観測点が東南東方向に約８cm 変動するなど、岩手県を中心に余効変動と考えられる水平変動が観測されている。余効変動から推定される余効すべりは、４月 20 日の M7.7 の地震活動域とその西側及び６月 25 日の M7.2 の地震活動域の東側で継続していると考えられる。また、その周辺では、繰り返し地震の解析から、非地震性すべりが継続していると考えられる。

６月 25 日の M7.2 の地震以降の地震活動は、「平成６年（1994 年）三陸はるか沖地震」（M7.6）の震源域の西端付近における最大余震（1995 年１月７日の M7.2）の震央付近で発生している。なお、これらの地震活動域を含む 2025 年 11 月からの三陸沖から岩手県沖にかけての一連の地震活動域、「平成６年（1994 年）三陸はるか沖地震」の震源域及び 2025 年 12 月８日の青森県東方沖（M7.5）の地震活動域は、「1968 年十勝沖地震」（M7.9）の震源域内のそれぞれ南部、中部及び北部に位置する。

（３）関東・中部地方

○　10 月１日に千葉県北東部の深さ約 50 km で M5.2 の地震、８日に千葉県東方沖（※１）の深さ約 50 km で M4.7 の地震、29 日に千葉県北東部の深さ約 50 km で M5.5 の地震が発生した。これらの地震の発震機構は東西または西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。これらの地震の震源付近では、10 月中に震度 1 以上を

観測した地震が 11 回発生した。

○　10 月４日に硫黄島近海で M6.0 の浅い地震が発生した。

○　10 月 25 日に小笠原諸島西方沖の深さ約 510 km で M6.8 の地震が発生した。この地震の発震機構は太平洋プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。

（４）近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

（５）九州・沖縄地方

○　７月 28 日 16 時 27 分に熊本県熊本地方で M7.1 の地震が発生した後、発生前に比べ地震回数は多い状態が継続しているが、大局的には緩やかに減少している。10 月中に震度１以上を観測した地震は 66 回（震度３：３回、震度２:19 回、震度１：44 回）発生した。

今回の地震活動域付近には布田川断層帯・日奈久断層帯が存在している。

ＧＮＳＳ観測によると、７月 28 日の M7.1 の地震の後、日奈久断層帯の日奈久区間の南西部を中心に、熊本県及びその周辺で余効変動と考えられる地殻変動が観測されている。

これまでの地震活動を踏まえると、平常時より地震発生数の多い状態は当分続くと考えられる。

○　10 月 25 日に日向灘で M5.2 の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

（６）南海トラフ周辺

○　南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。

（なお、これは、11 月９日に開催された定例の南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会における見解（補足説明参照）と同様である。）

補足（11 月１日以降の地震活動）

○　11 月７日、９日に茨城県沖の深さ約 30 km で、それぞれ M5.7、M5.8 の地震が発生した。これらの地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

この付近では、1982 年７月、2008 年５月、2021 年８月など、M5 以上の地震がまとまって発生した事例があり、2008 年の活動では、５月８日に M6.4 と M6.3 の地震が発生し、その直後に M7.0 の地震が発生した。

○　11 月８日に愛知県東部（※２）の深さ約 40 km で M5.7 の地震が発生した。この地震により、愛知県で最大震度５強を観測した。この地震の発震機構は東北東－西南西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。

ＧＮＳＳ観測によると、この地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。

揺れの強かった地域では、地震発生から１週間程度、最大震度５強程度の地震に注意が必要である。

※１：気象庁が情報発表に用いた震央地名は「千葉県北東部」である。
※２：気象庁が情報発表に用いた震央地名は「静岡県西部」である。
注：ＧＮＳＳとは、ＧＰＳをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

２０２６年１０月の地震活動の評価についての補足説明

令和８年１１月１１日
地 震 調 査 委 員 会

１．主な地震活動について

2026 年 10 月の日本及びその周辺域におけるマグニチュード（M）別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0 以上及び M5.0 以上の地震の発生は、それぞれ 91 回（９月は 91 回）及び 14 回（９月は９回）であった。また、M6.0 以上の地震の発生は２回（９月は１回）であった。

（参考）　M4.0 以上の月回数 81 回（69-104 回）
（1998-2017 年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）
M5.0 以上の月回数 10 回（７-14 回）
（1973-2017 年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）
M6.0 以上の月回数１回（０－２回）
（1919-2017 年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）
M6.0 以上の年回数 16 回（12-21 回）
（1919-2017 年の年回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）

2025 年 10 月以降 2026 年９月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあった。

－	根室半島南東沖	2025 年 10 月 25 日	M5.8（深さ約 40 km）
－	三陸沖	2025 年 11 月９日	M6.9（深さ約 15 km）
－	熊本県阿蘇地方	2025 年 11 月 25 日	M5.8（深さ約 10 km）
－	青森県東方沖	2025 年 12 月８日	M7.5（深さ約 55 km）
－	島根県東部	2026 年１月６日	M6.4（深さ約 10 km）
－	茨城県南部	2026 年４月１日	M5.0（深さ約 50 km）
－	長野県北部	2026 年４月 18 日	M5.0（深さ約 10 km）
－	長野県北部	2026 年４月 18 日	M5.1（深さ約 10 km）
－	三陸沖	2026 年４月 20 日	M7.7（深さ約 20 km）
－	十勝地方南部	2026 年４月 27 日	M6.2（深さ約 85 km）
－	宮城県沖	2026 年５月 15 日	M6.4（深さ約 45 km）
－	沖縄本島近海	2026 年５月 20 日	M5.9（深さ約 50 km）
－	フィリピン諸島、ミンダナオ	2026 年６月８日	Mw7.7
－	茨城県南部	2026 年６月 16 日	M5.5（深さ約 50 km）
－	岩手県沖	2026 年６月 25 日	M7.2（深さ約 45 km）
－	山梨県東部・富士五湖	2026 年６月 26 日	M5.6（深さ約 20 km）
－	令和８年熊本地震	2026 年７月 28 日	M7.1（深さ約 15 km）
－	令和８年熊本地震	2026 年８月１日	M4.7（深さ約 10 km）
－	茨城県南部	2026 年８月 23 日	M5.9（深さ約 70 km）

２．各領域別の地震活動

（１）北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

（２）東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

（３）関東・中部地方

－　ＧＮＳＳ観測によると、2022 年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されている。これは、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。すべりの中心は渥美半島周辺から浜名湖の東側に移動している。

－　東海から紀伊半島北部で 10 月２日から 18 日にかけて、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部で深部低周波地震（微動）を観測している。ひずみ及び傾斜データによると、その周辺では深部低周波地震（微動）とほぼ同期してわずかな地殻変動を観測している。これらは、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における短期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。

（４）近畿・中国・四国地方

－　2025 年２月から、山口県北部の地殻下部の深さ 25 km から 35 km 程度でまとまった微小地震活動が継続している。これら一連の微小地震活動に伴って、わずかな地殻変動が観測されている。また、2025 年半ば頃から、山口県北部の地殻内の深さ５km程度から 20 km程度でまとまった微小地震活動が継続しており、これまでの最大規模の地震は 10 月 19 日の M3.2 の地震（最大震度１）である。

－　ＧＮＳＳ観測によると、2026 年夏頃から、四国西部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されている。これは、四国西部周辺のフィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。

－　四国西部で９月 27 日から 10 月 14 日にかけて、また、10 月 19 日から 11 月１日にかけて、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で深部低周波地震（微動）を観測している。ひずみ及び傾斜データによると、その周辺では深部低周波地震（微動）とほぼ同期してわずかな地殻変動を観測している。これらは、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における短期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。

（５）九州・沖縄地方

九州・沖縄地方では特に補足する事項はない。

（６）南海トラフ周辺

－「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。」：

（なお、これは、11 月９日に開催された定例の南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会における見解（参考参照）と同様である。）

（参考）南海トラフ地震関連解説情報について－最近の南海トラフ周辺の地殻活動－（令和８年 11 月９日気象庁地震火山部）

「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（Ｍ８からＭ９クラス）は、「平常時」においても今後３

０年以内に発生する確率は高い(詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)」参照）と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約８０年が経過していることから切迫性の高い状態です。

１．地震の観測状況

(顕著な地震活動に関係する現象)

１０月２５日０８時５９分に日向灘を震源とするＭ５．２の地震が発生しました。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生しました。

１１月８日０１時０４分に愛知県東部の深さ４１ｋｍを震源とするＭ５．７の地震が発生しました。この地震は、発震機構が東北東－西南西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生しました。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震（微動）のうち、主なものは以下のとおりです。

（１）四国西部：９月２７日から１０月１４日
（２）東海から紀伊半島北部：１０月２日から１０月１８日
（３）四国西部：１０月１９日から１１月１日

２．地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記（１）から（３）の深部低周波地震（微動）とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られました。

ＧＮＳＳ観測によると、２０２２年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。また、２０２６年夏頃から、四国西部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。

(長期的な地殻変動)

ＧＮＳＳ観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

３．地殻活動の評価

(顕著な地震活動に関係する現象)

１０月２５日に発生した日向灘の地震及び１１月８日に発生した愛知県東部の地震は、その規模から南海トラフ沿いのプレート間の固着状況の特段の変化を示すものではないと考えられます。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記（１）から（３）の深部低周波地震（微動）と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

２０２２年初頭からの静岡県西部から愛知県東部にかけての地殻変動及び２０２６年夏頃からの四国西部の地殻変動は、それぞれ渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけて及び四国西部周辺のプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。このうち、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけての長期的ゆっくりすべりは、すべりの中心が渥美半島周辺から、浜名湖の東側に移動しています。

これらの深部低周波地震（微動）、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

(長期的な地殻変動)

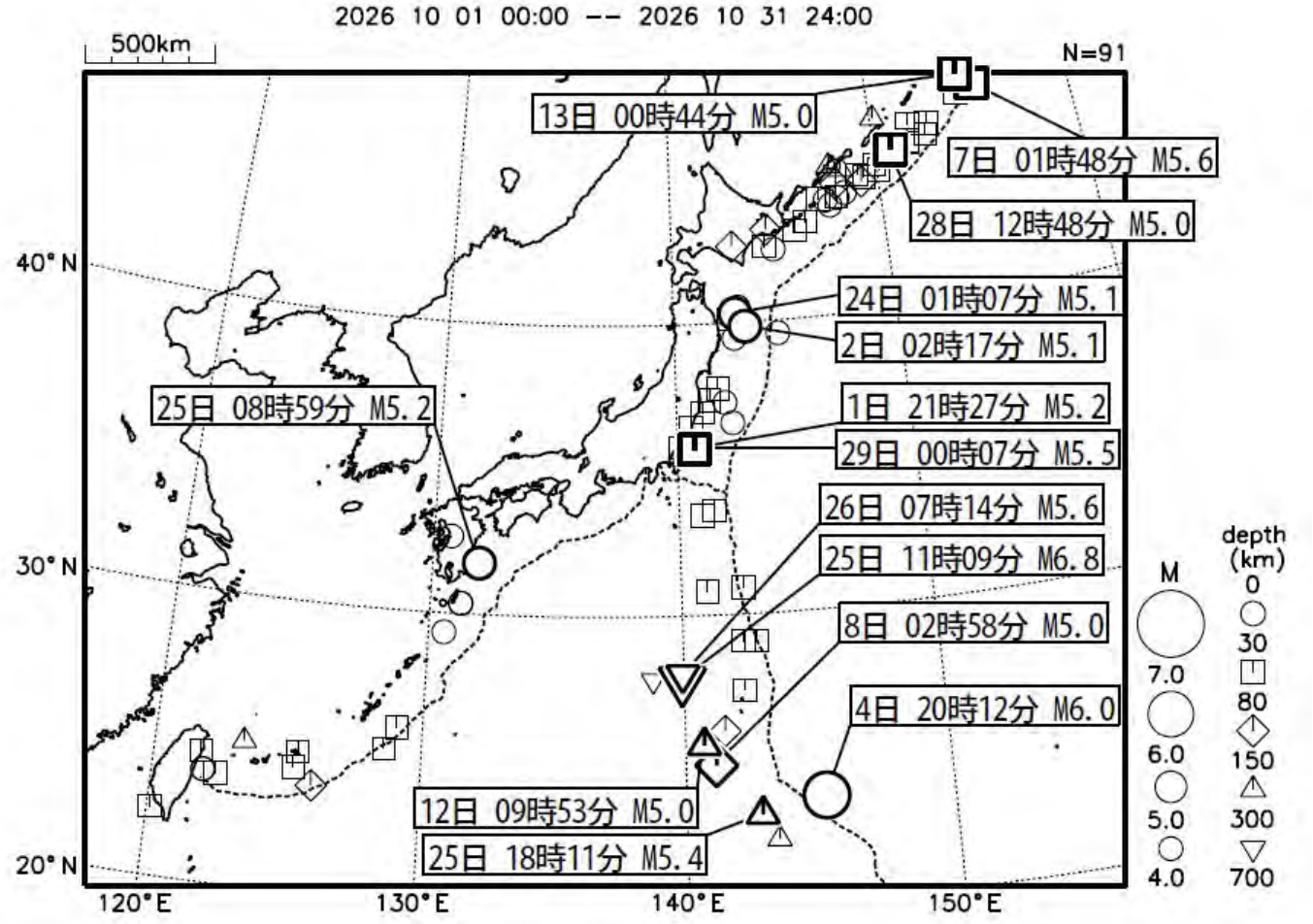
御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。」

参考１　「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安
①M6.0 以上または最大震度が４以上のもの。②内陸 M4.5 以上かつ最大震度が３以上のもの。
③海域 M5.0 以上かつ最大震度が３以上のもの。

参考２　「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安
１　「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
２　「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
３　評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。
４　一連で M6.0 以上が推定されたゆっくりすべりとそれに伴って発生した低周波地震(微動)。

2026 年 10 月の全国の地震活動
（マグニチュード 4.0 以上）



・10 月 4 日に硫黄島近海で M6.0 の地震（震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した。
・10 月 25 日に小笠原諸島西方沖で M6.8 の地震（最大震度 3）が発生した。
・10 月 29 日に千葉県北東部で M5.5 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。

（上記期間外）
・11 月 8 日に愛知県東部で M5.7 の地震（最大震度 5 強）が発生した。

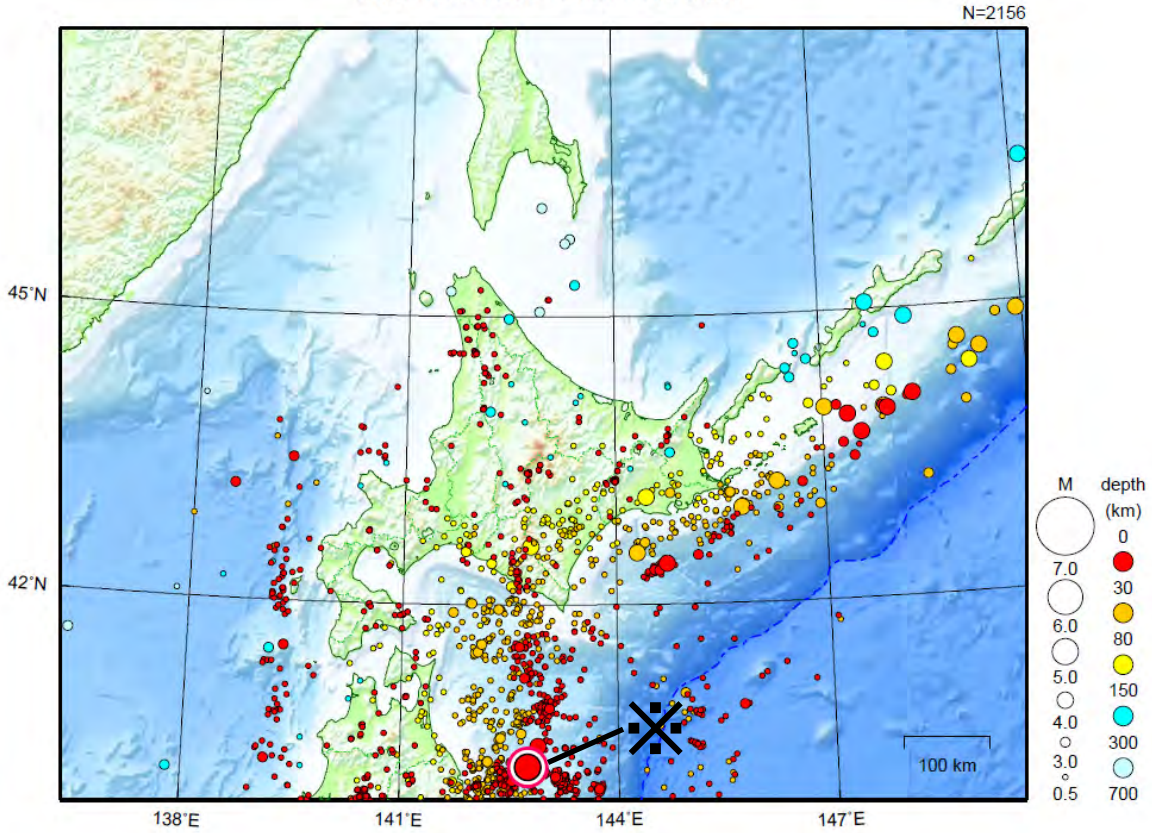
気象庁はこの地震に対して〔静岡県西部〕で情報発表した。

［図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。
また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。］

気象庁・文部科学省（気象庁作成資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています）

北海道地方

2026/10/01 00:00 ~ 2026/10/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

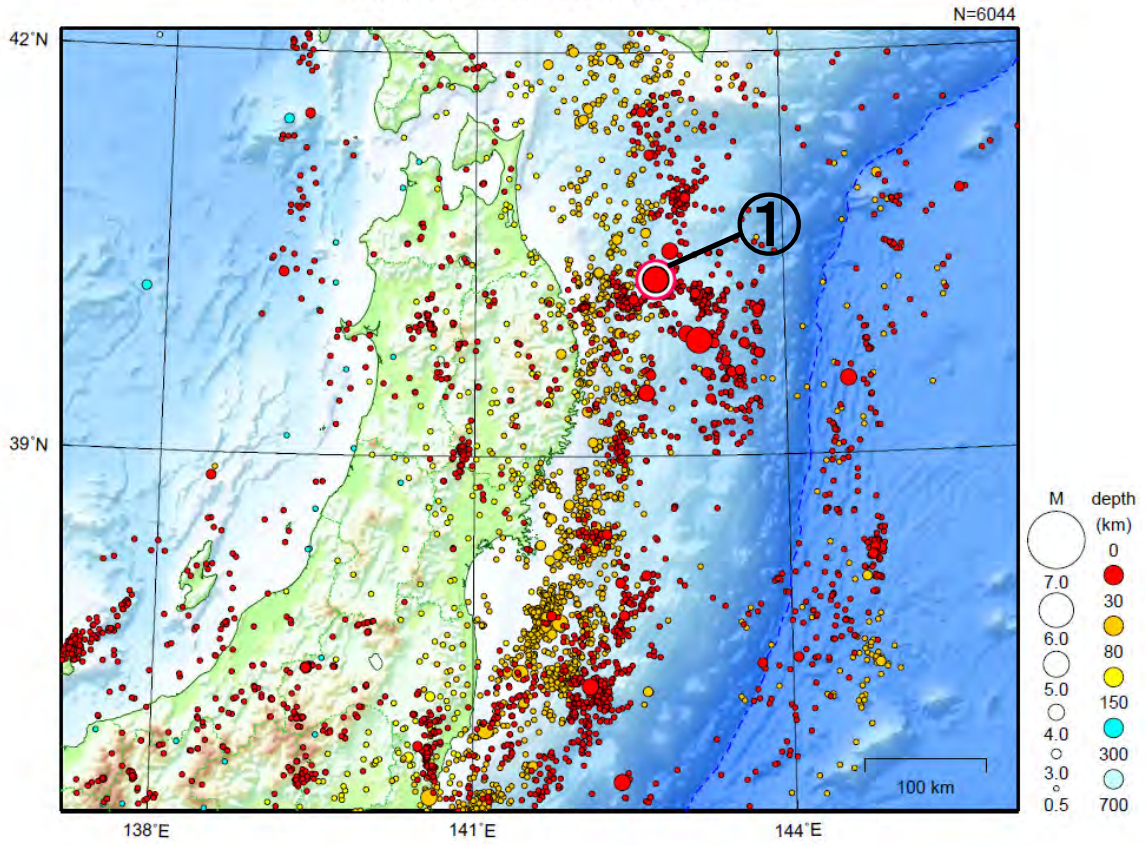
※で示した地震については東北地方の資料を参照。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

東北地方

2026/10/01 00:00 ~ 2026/10/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

① 10 月 24 日に岩手県沖で M5.1 の地震(最大震度３)が発生した。2025 年 11 月以降の三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動域では、10 月中に震度１以上を観測する地震が 10 回（震度３：１回、震度２：２回、震度１：７回）発生した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

10月24日 岩手県沖の地震

（2025年11月以降の三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動）

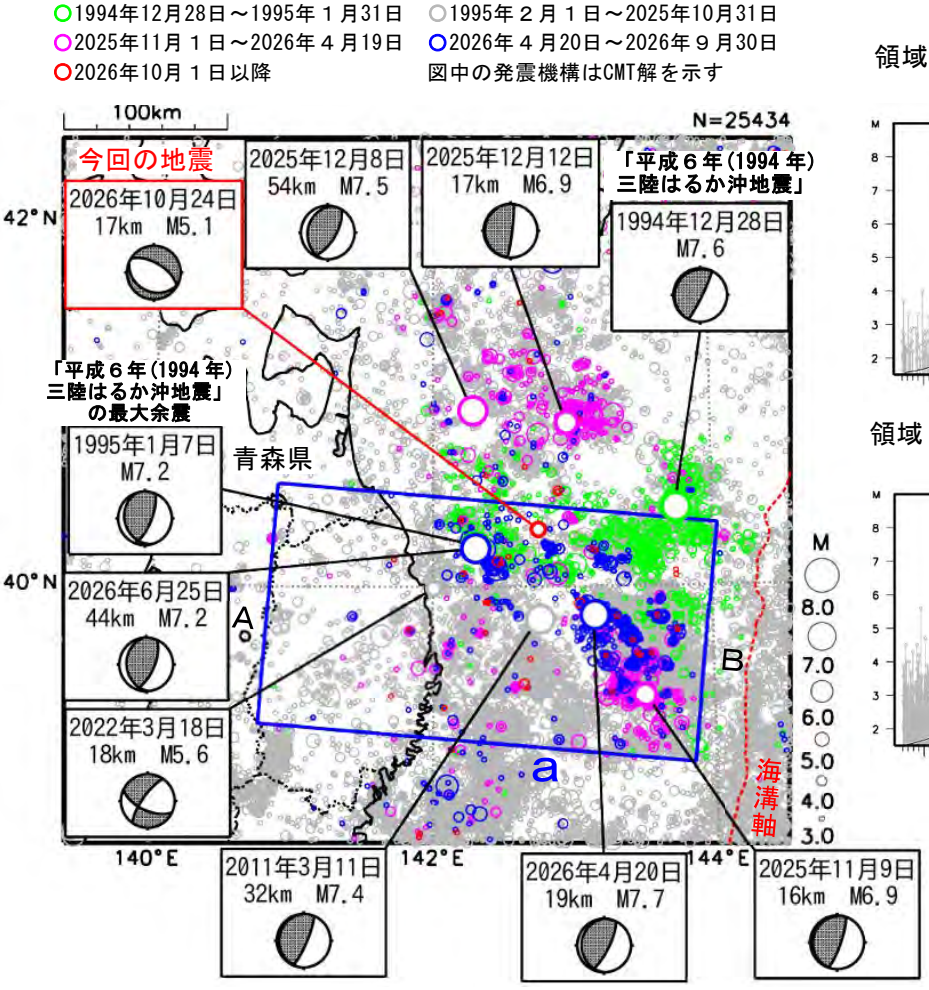
2026年10月24日01時07分に岩手県沖の深さ17kmでM5.1の地震（最大震度３）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が北北東－南南西方向に張力軸を持つ正断層型で、陸のプレートの地殻内で発生した。

2020年９月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）では、2022年３月18日に深さ18kmでM5.6の地震（最大震度５強）が発生し、住家一部破損１棟の被害が発生している（被害は総務省消防庁による）。また、この領域ｂでは2026年4月20日のM7.7の地震（最大震度５強）の発生以降、地震活動が活発となっている。

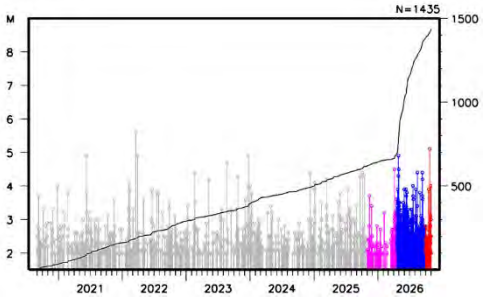
なお、今回の地震の震源周辺（領域ｃ）では、2025年11月９日にM6.9の地震（最大震度４）、2026年４月20日にM7.7の地震（最大震度５強）、同年６月25日にM7.2の地震（最大震度６強）など規模の大きな地震が相次いで発生しており、活発な地震活動が継続している。

1994年12月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺では、1995年１月７日にM7.2の地震（最大震度５、「平成６年（1994年）三陸はるか沖地震」の最大余震）が発生している。

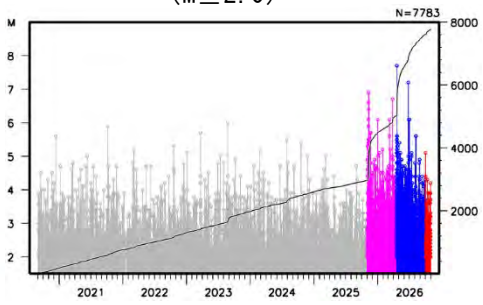
震央分布図
（1994年12月28日～2026年10月31日、深さ０～140km、M≧3.0）



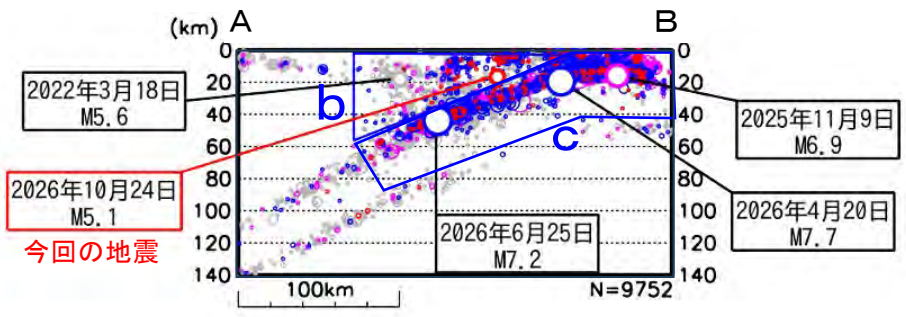
領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図
（M≧2.0）



領域ｃ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図
（M≧2.0）



領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）
（2020 年９月１日～2026 年 10 月 31 日、M≧2.0）



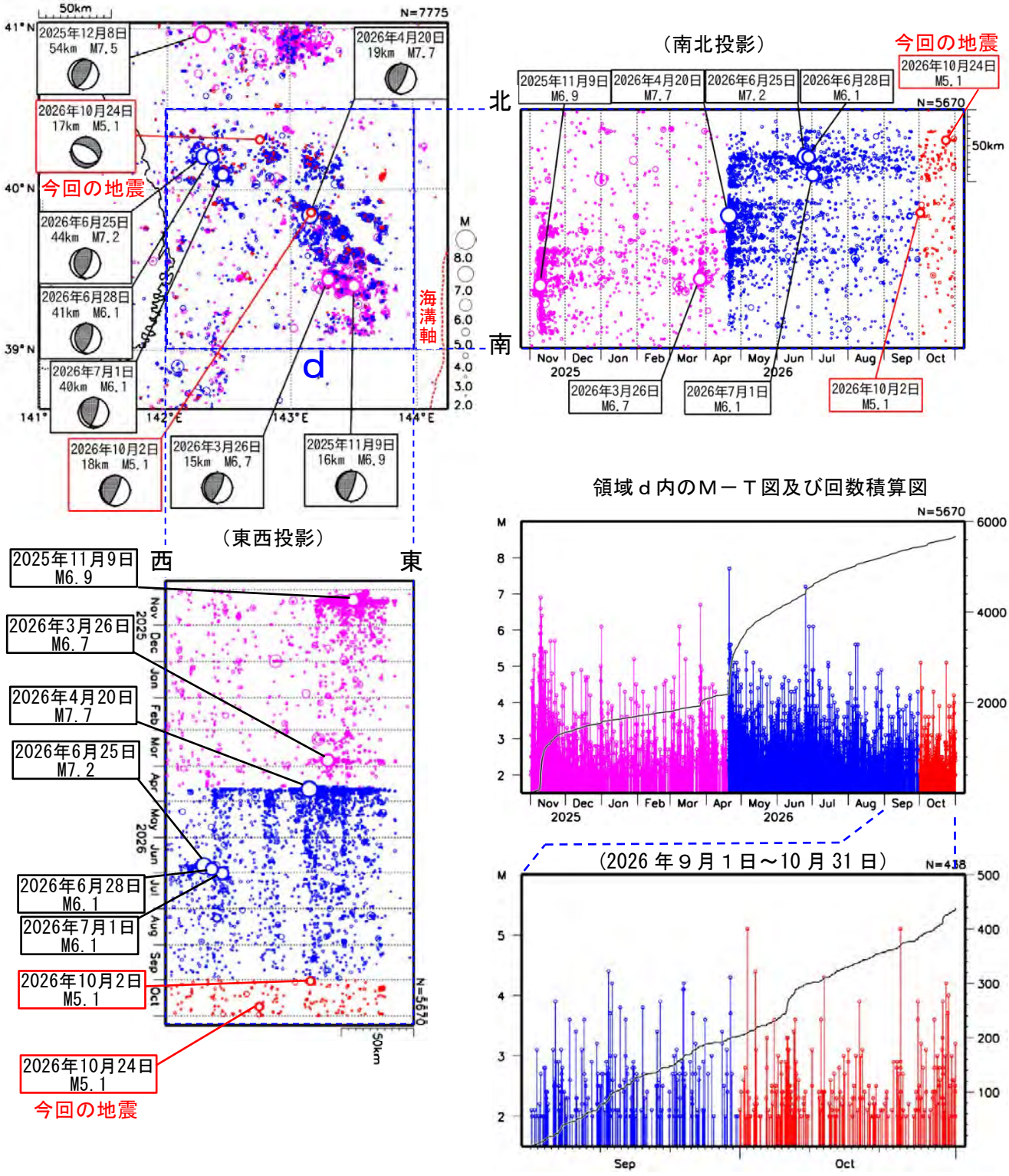
気象庁作成

2025年11月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域ｄ）では、2026年４月20日に発生したM7.7の地震以降、地震活動域が北西側に広がり、６月25日のM7.2の地震、今回のM5.1の地震が発生するなど、地震活動は活発な状態が続いている。

領域ｄでは、2026年10月１日から31日までに震度１以上を観測する地震が10回（震度３：１回、震度２：２回、震度１：７回）発生した。

震央分布図及び領域ｄ内の時空間分布図
（2025年11月１日～2026年10月31日、
深さ０～80km、M≧2.0）

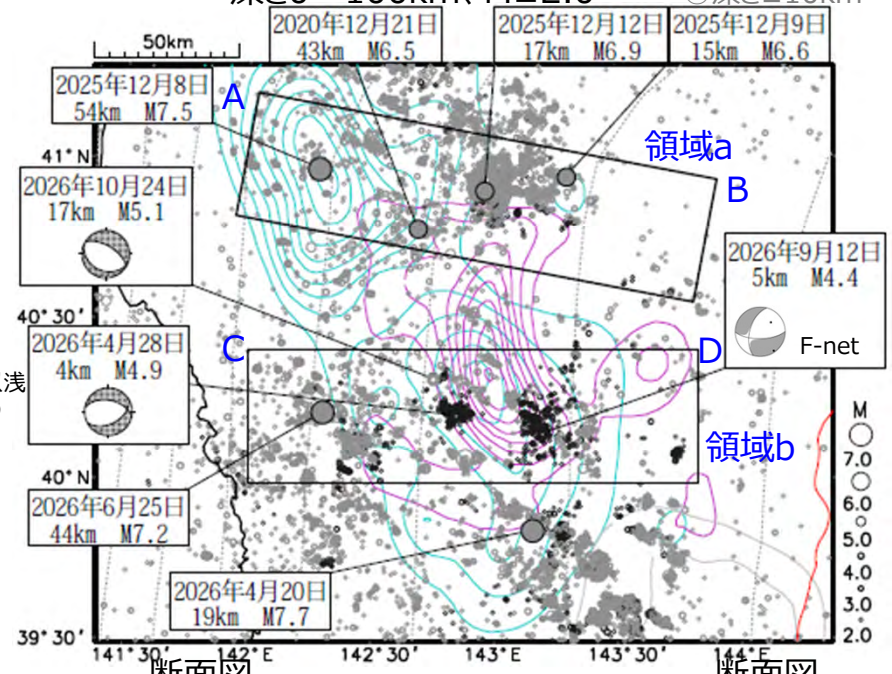
○2025年11月１日～2026年４月19日　○2026年４月20日～2026年９月30日
○2026年10月１日以降　図中の発震機構はCMT解を示す



気象庁作成

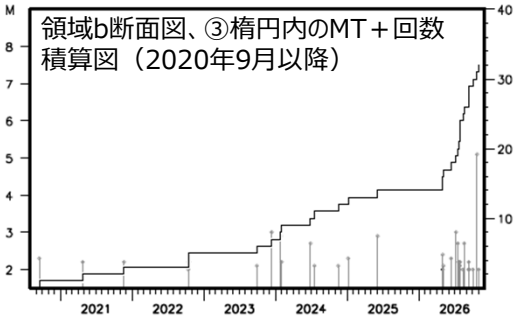
三陸沖　周辺の地震活動

震央分布図
2020年9月1日～2026年10月31日、深さ0～100km、M≧2.0
○深さ＜10km
○深さ≧10km

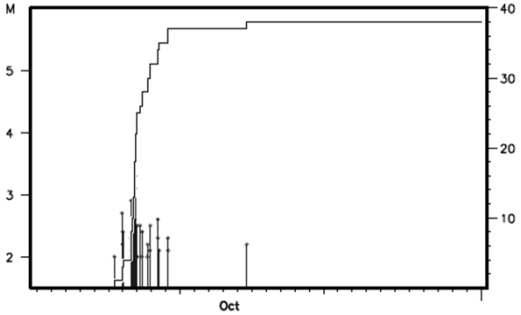


10km以浅の地震のCMT解

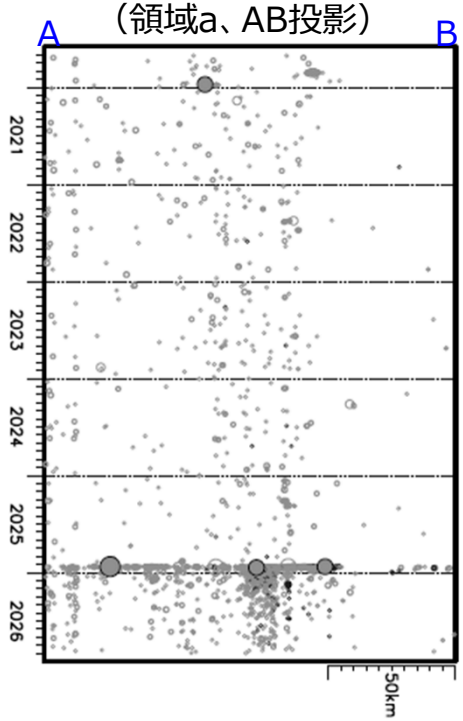
領域b断面図、③楕円内のMT＋回数積算図（2020年9月以降）



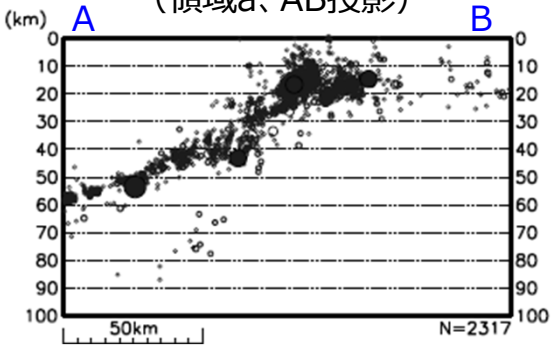
領域b時空間分布図④楕円内のMT＋回数積算図（2026年10月）



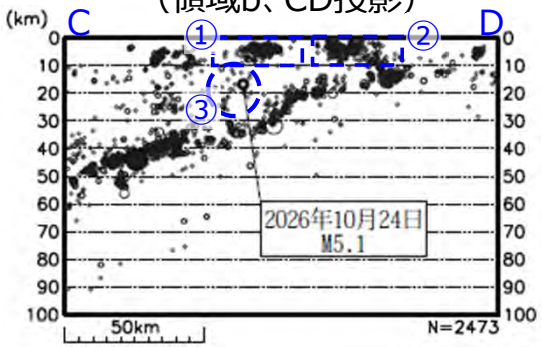
時空間分布図
（領域a、AB投影）



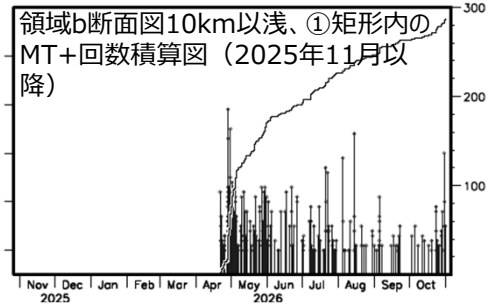
断面図
（領域a、AB投影）



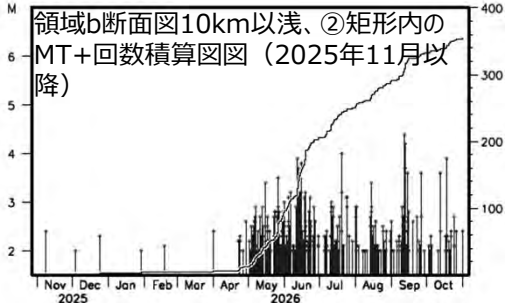
断面図
（領域b、CD投影）



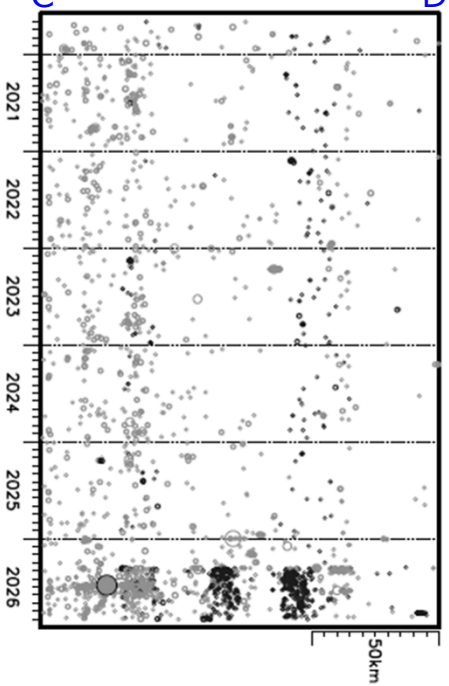
領域b断面図10km以浅、①矩形内のMT+回数積算図（2025年11月以降）



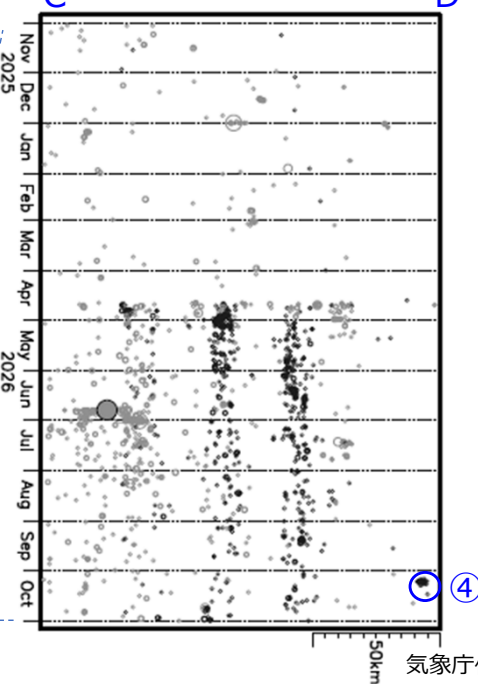
領域b断面図10km以浅、②矩形内のMT+回数積算図図（2025年11月以降）



時空間分布図
（領域b、CD投影）



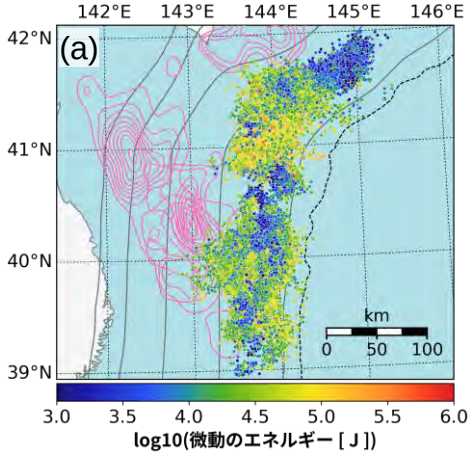
期間
2025年11月～26年9月

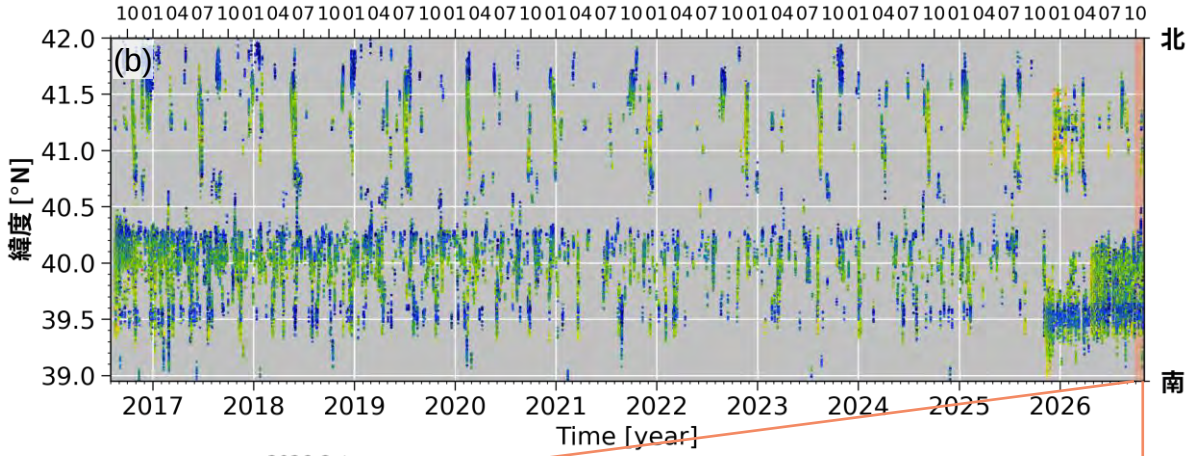


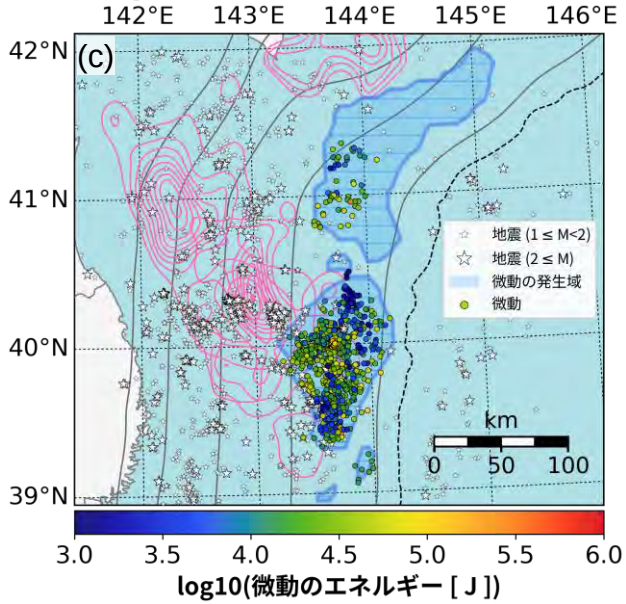
気象庁作成

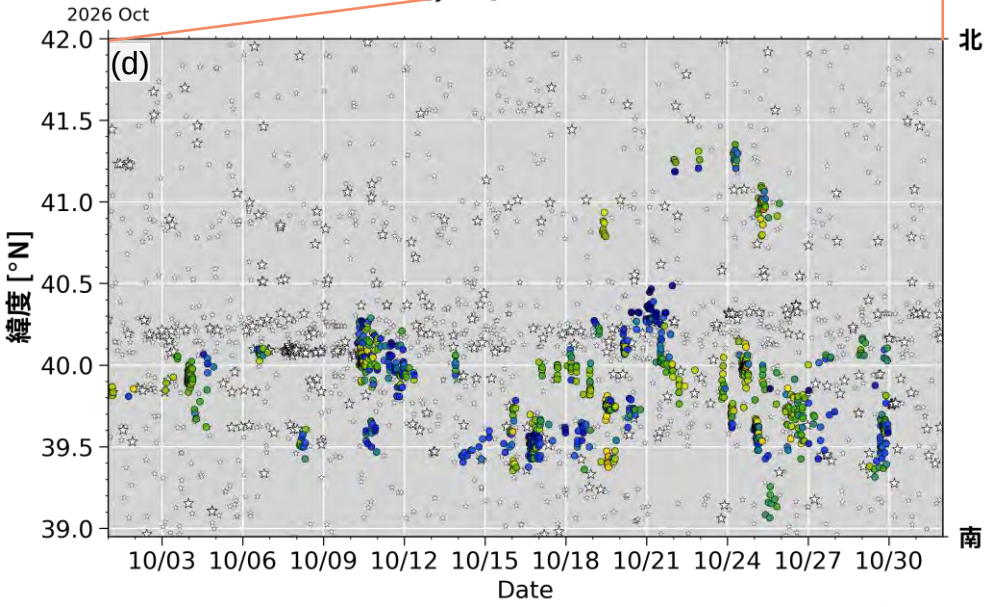
2026年10月の日本海溝北部における微動活動

- 三陸沖で活発な微動活動を観測
- 10月14～21日に、北緯39.4度から40.4度へ約15 km/日で北上する現象を観測









(a–b) 2016/08/15 から 2026/10/31までの微動分布
(c–d) 2026/10/01 から 2026/10/31までの微動分布
※ Sagae et al. (2025) の手法で解析した

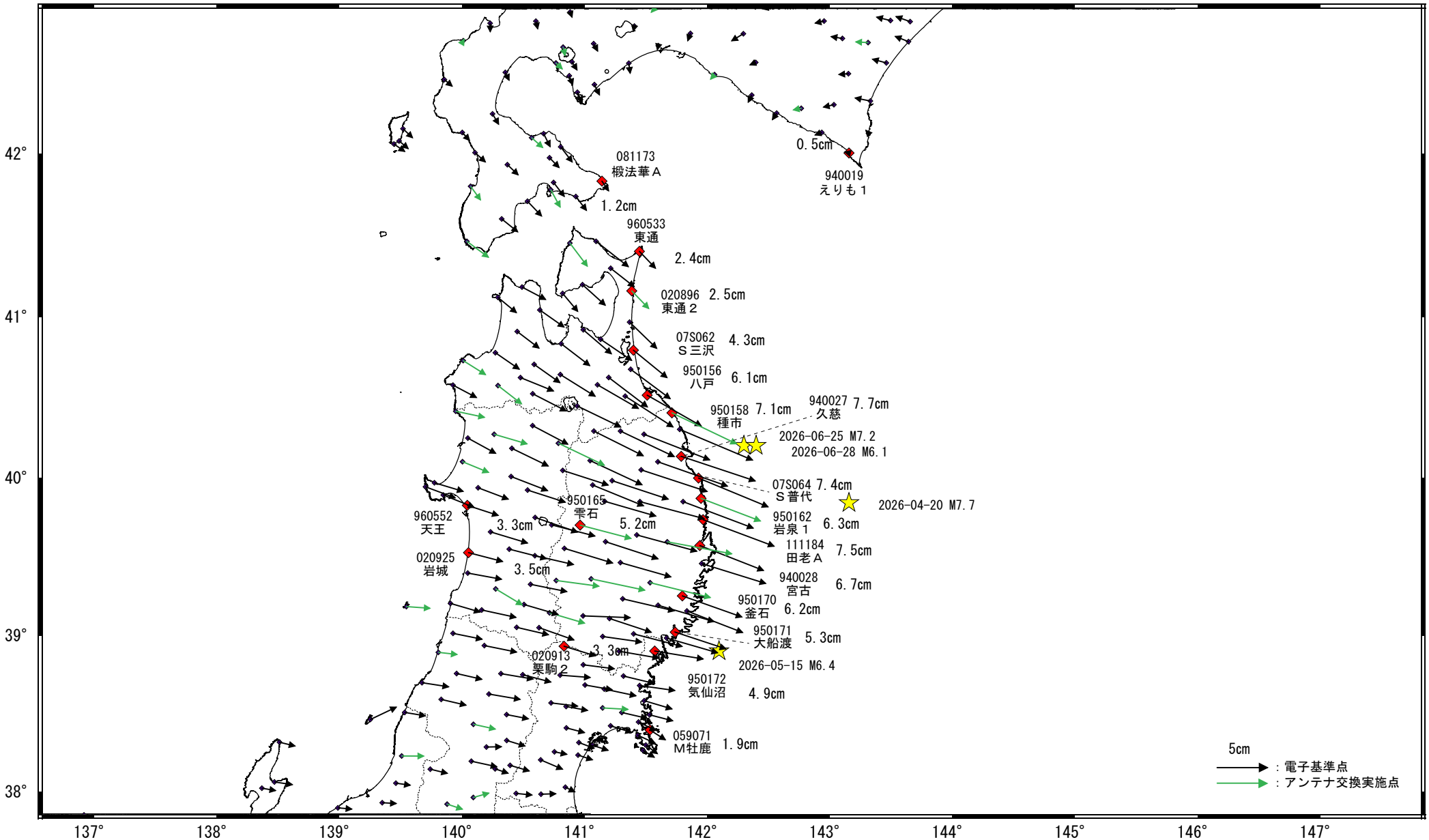
謝辞: 2026/10/01–2026/10/31 までの気象庁一元化震源カタログを使用しました。防災科学技術研究所S-netの地震波形データ、F-net Project による広帯域地震波形を用いたメカニズム解析結果を使用しました。文部科学省「情報科学を活用した地震活動・地震動評価技術の高度化事業」(JPJ013735)の助成を受けたものです。記して感謝申し上げます。

三陸沖の地震(4月20日 M7.7)後の観測データ(暫定)

この地震に伴い余効変動が観測されている.

地殻変動(水平)

基準期間:2026-04-21～2026-04-21[F5.1:最終解]
比較期間:2026-10-24～2026-10-25[R5.1:速報解]



☆震央　◆観測局（グラフ表示）

☆ 固定局:猿払(950101)（北海道）

※5月15日の宮城県沖の地震及び6月25日の岩手県沖の地震に伴う地殻変動を含んでいる.

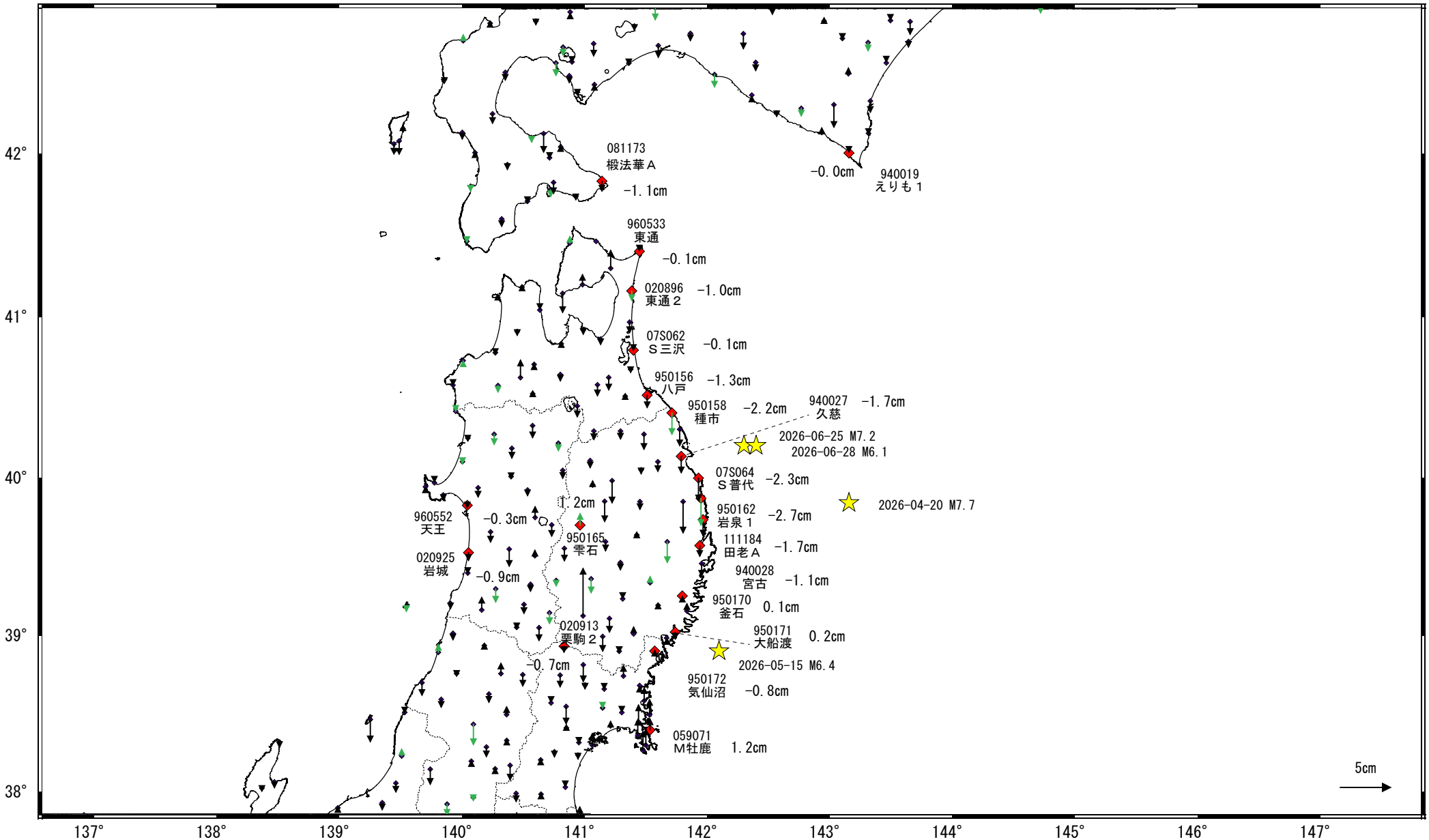
国土地理院

三陸沖の地震(4月20日 M7.7)後の観測データ(暫定)

この地震に伴い余効変動が観測されている.

地殻変動(上下)

基準期間:2026-04-21～2026-04-21[F5.1:最終解]
比較期間:2026-10-24～2026-10-25[R5.1:速報解]



☆震央　◆観測局（グラフ表示）

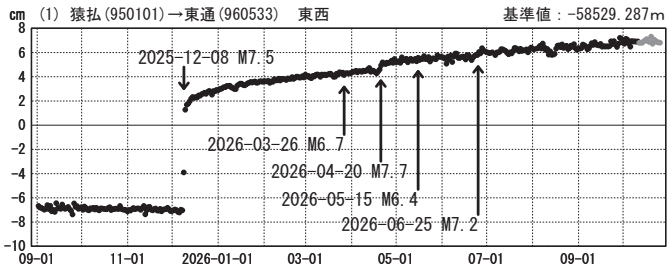
☆ 固定局:猿払(950101)（北海道）

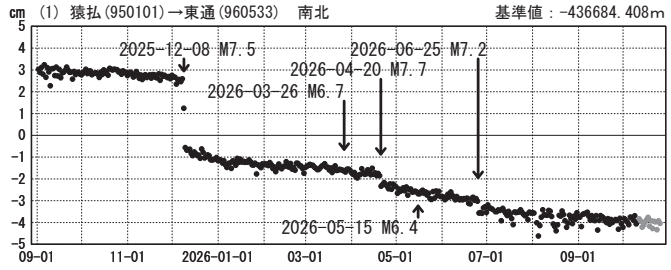
※5月15日の宮城県沖の地震及び6月25日の岩手県沖の地震に伴う地殻変動を含んでいる.

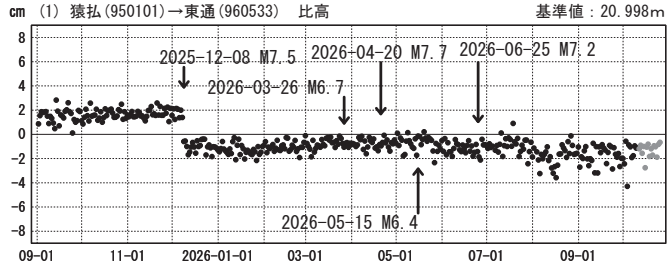
国土地理院

成分変化グラフ

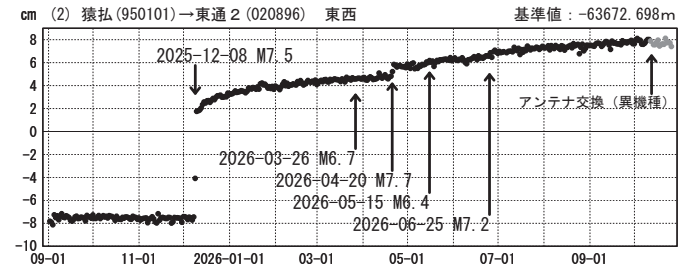
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

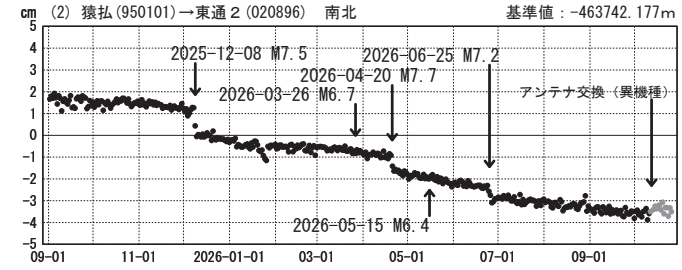


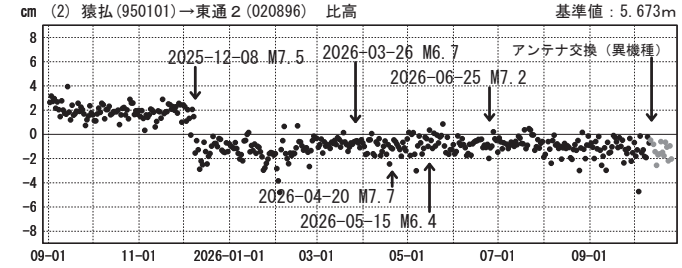




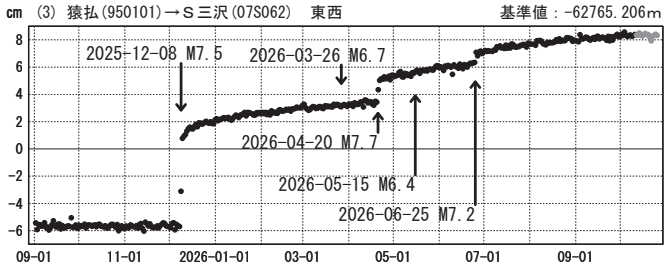
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

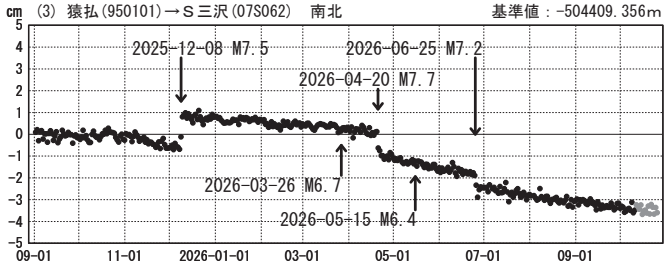


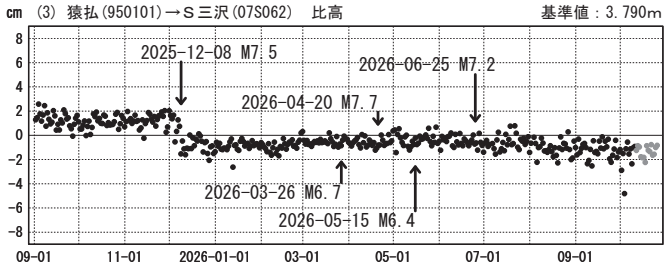




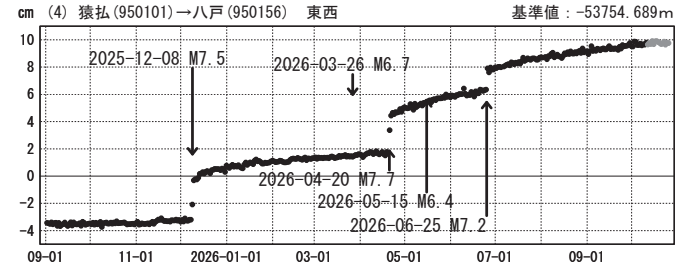
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

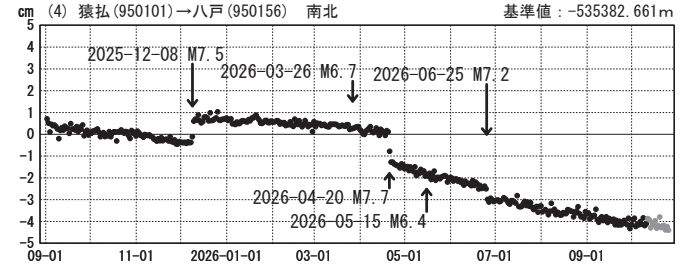


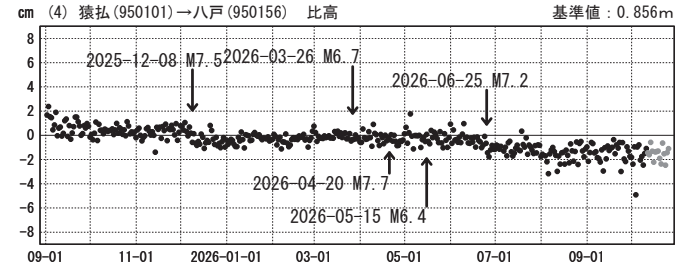




期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST





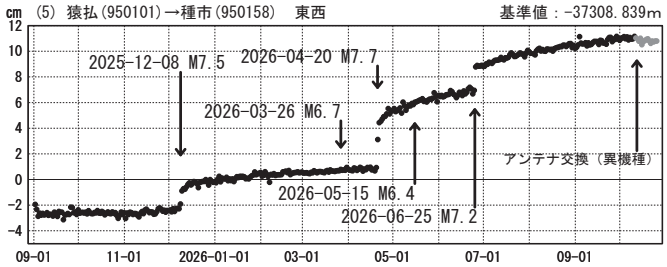


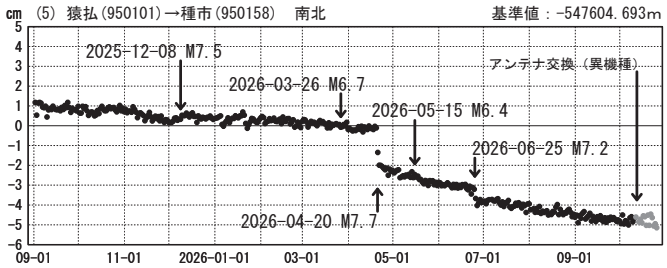
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

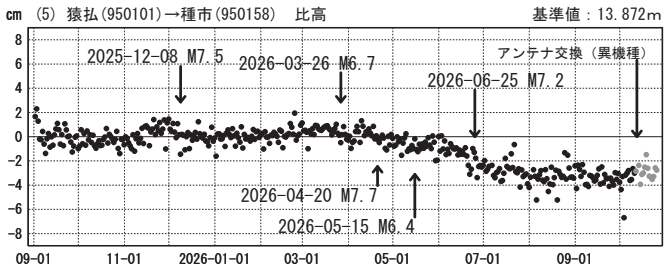
国土地理院

成分変化グラフ

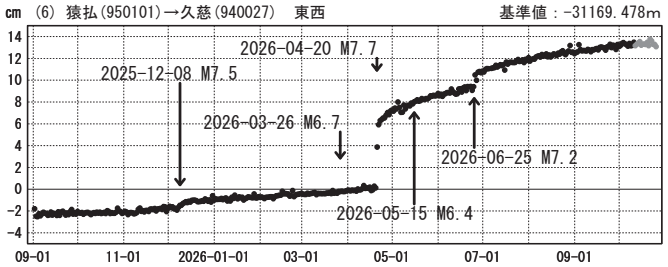
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

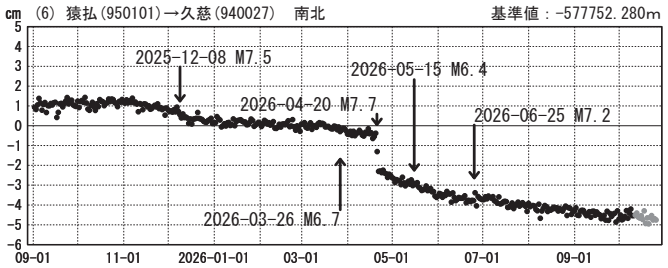


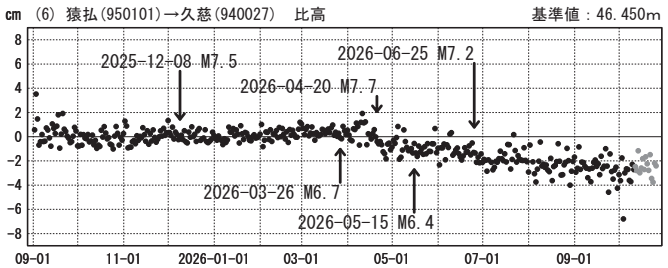




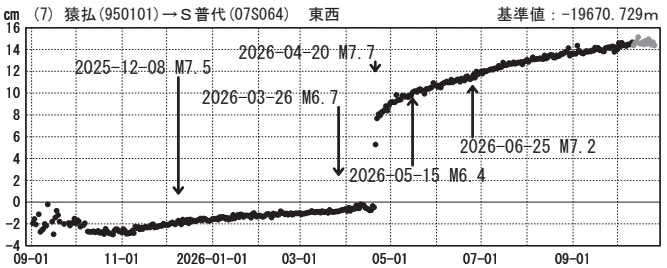
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

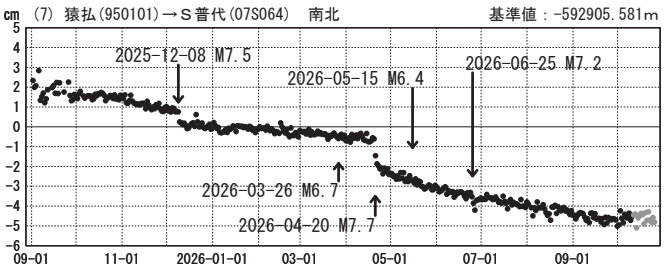


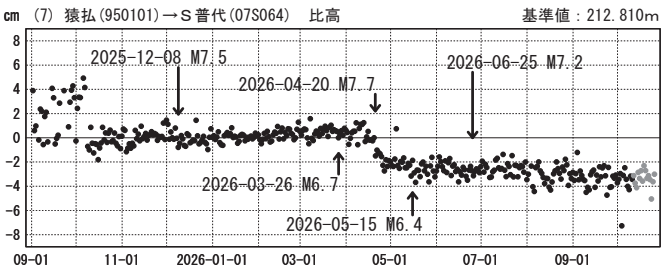




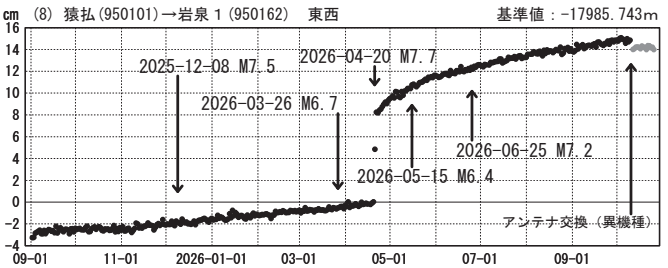
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

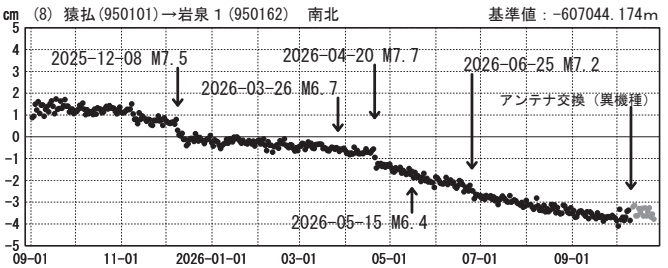


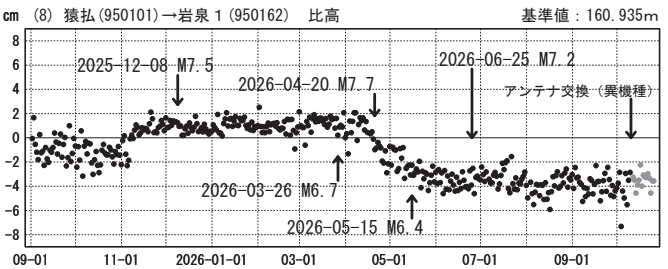




期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST





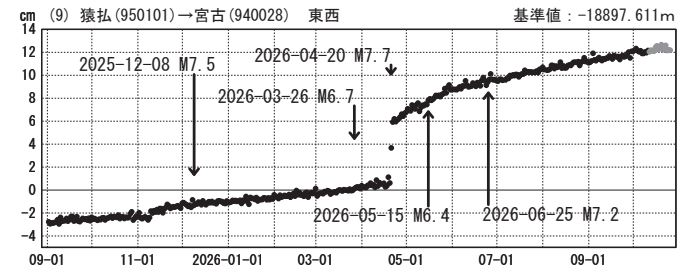


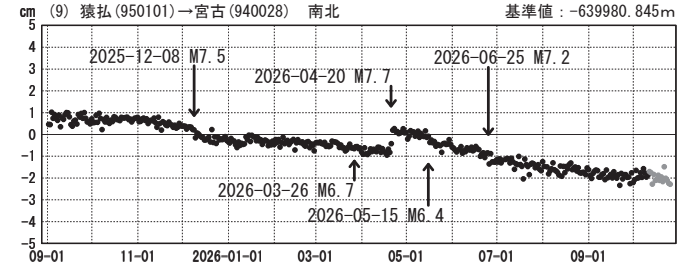
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

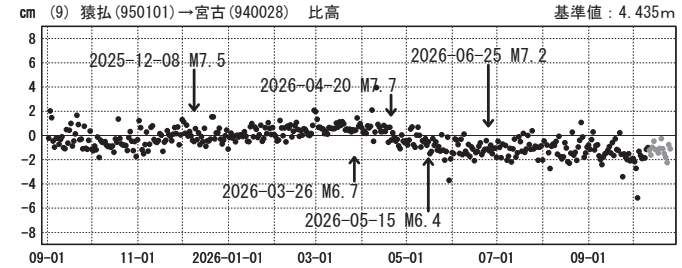
国土地理院

成分変化グラフ

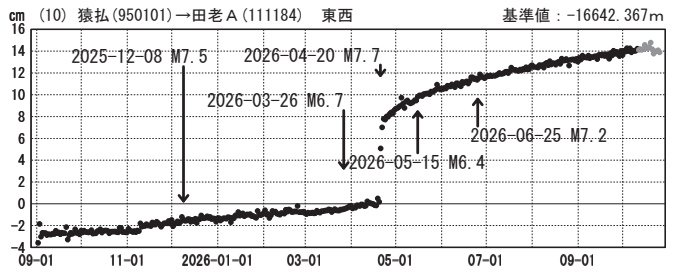
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

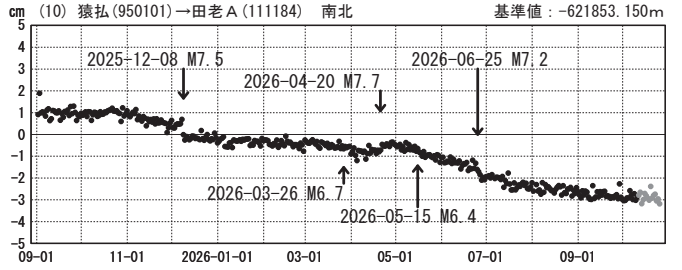


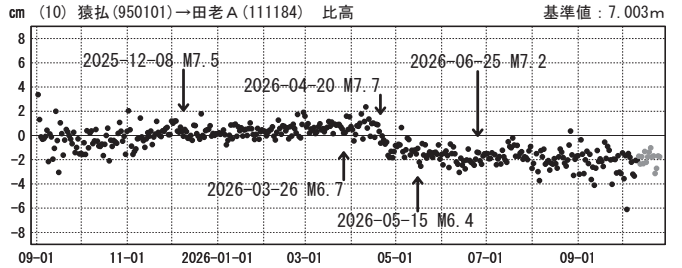




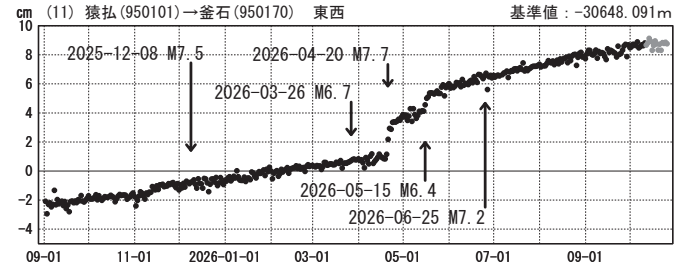
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

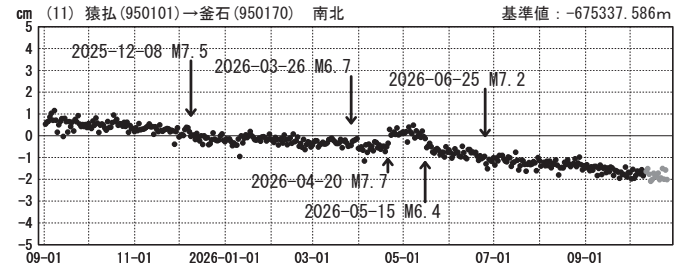


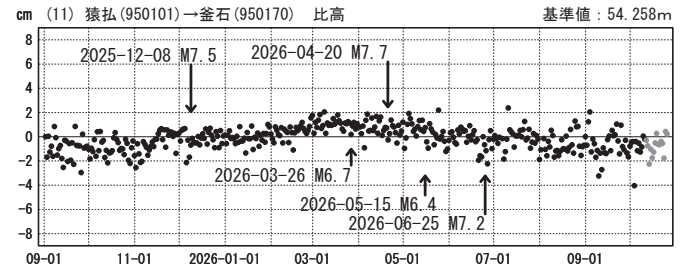




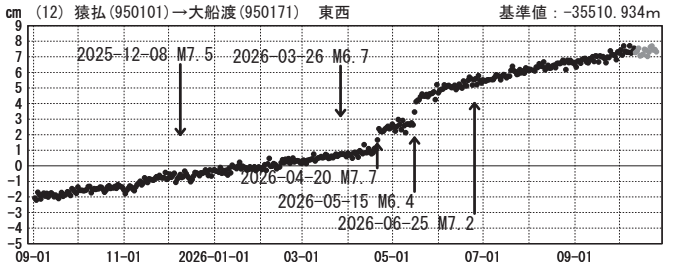
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

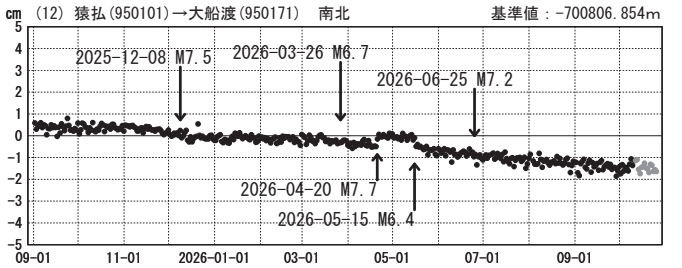


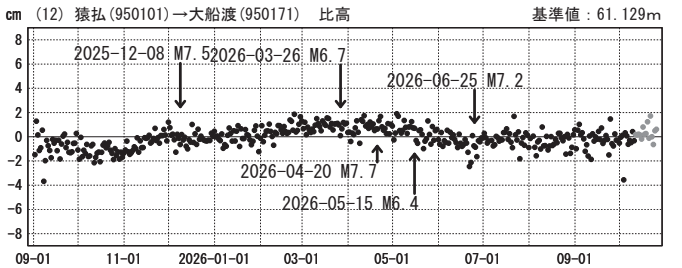




期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST





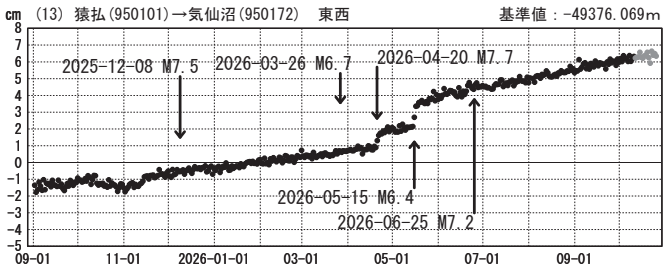


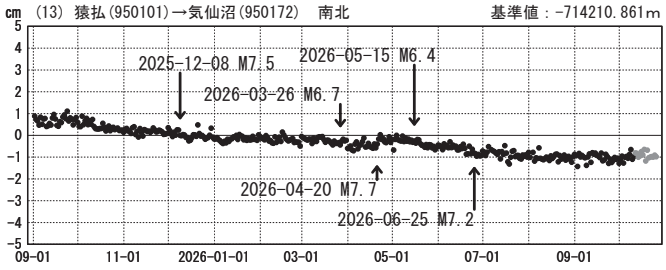
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

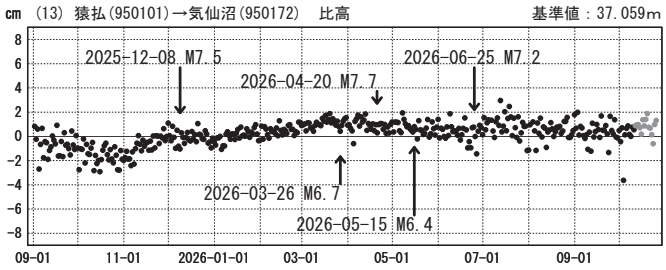
国土地理院

成分変化グラフ

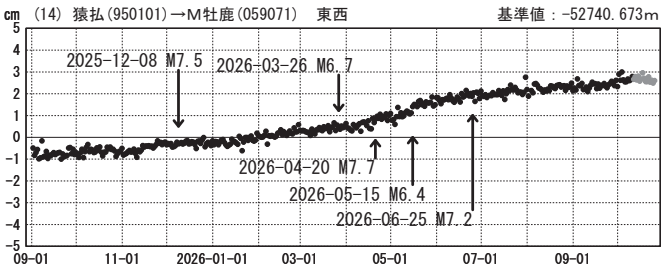
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

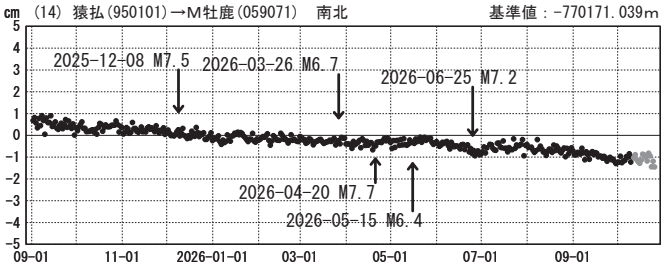


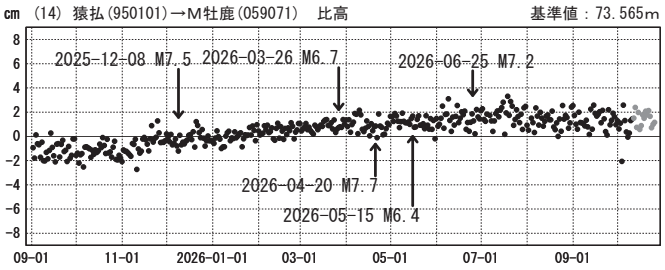




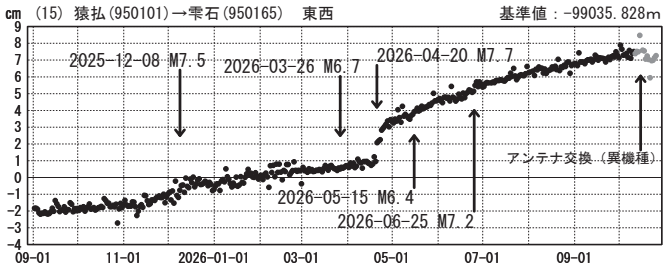
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

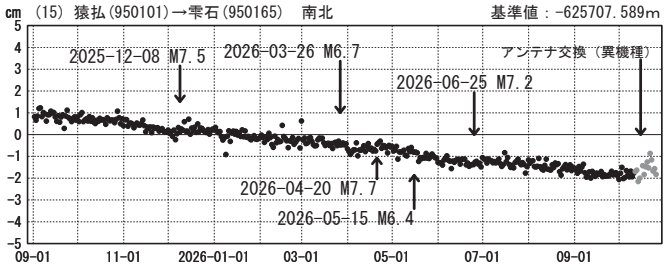


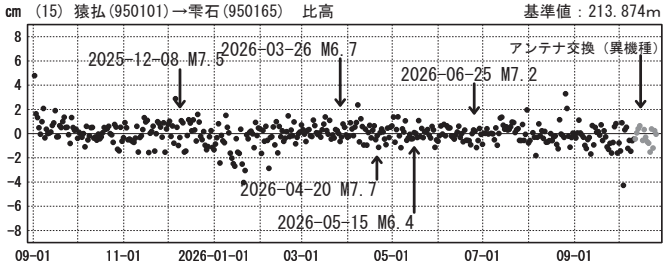




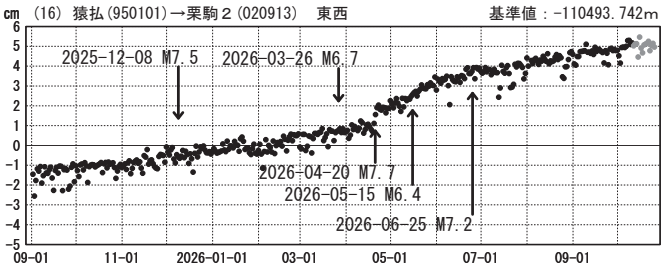
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

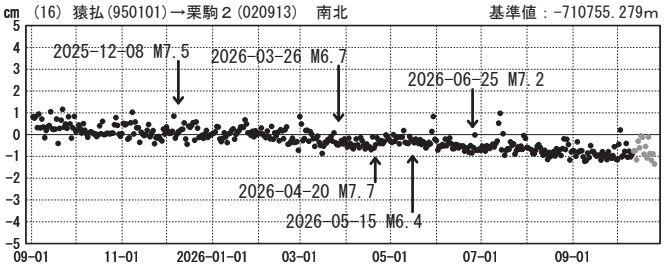


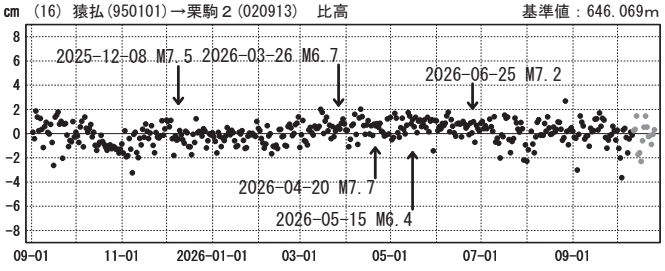




期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST





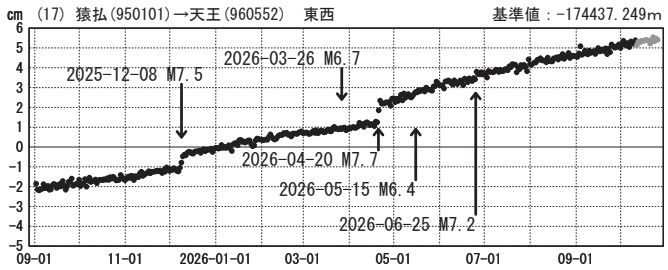


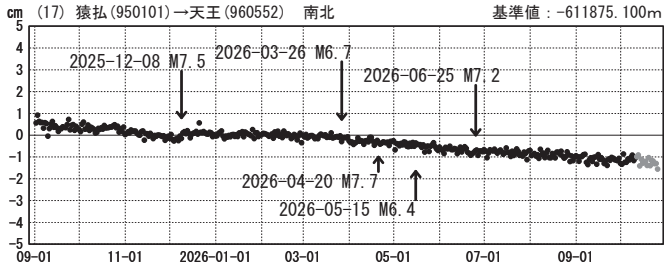
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

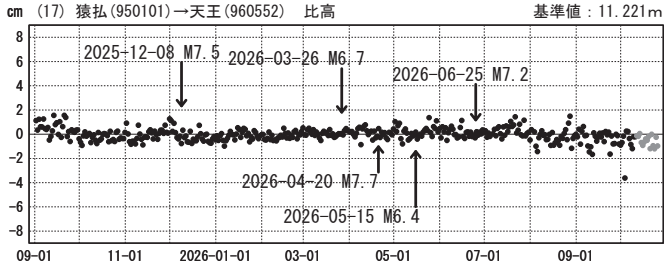
国土地理院

成分変化グラフ

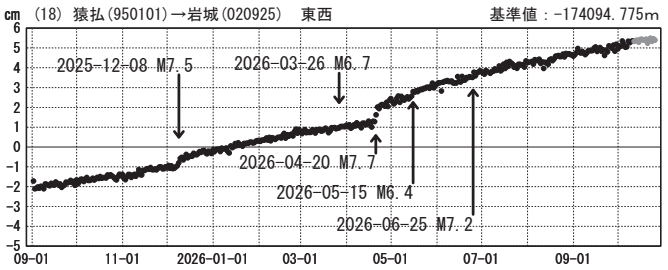
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

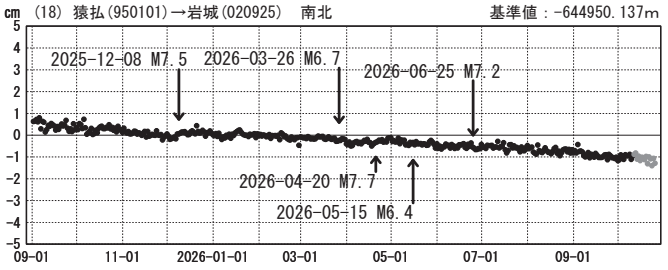


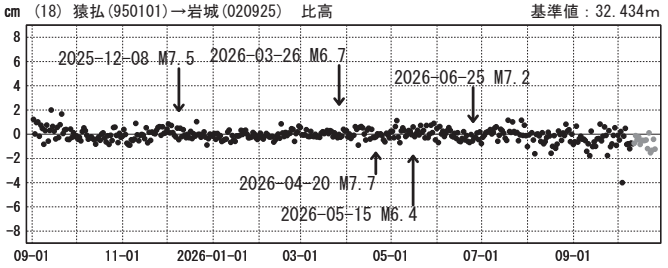




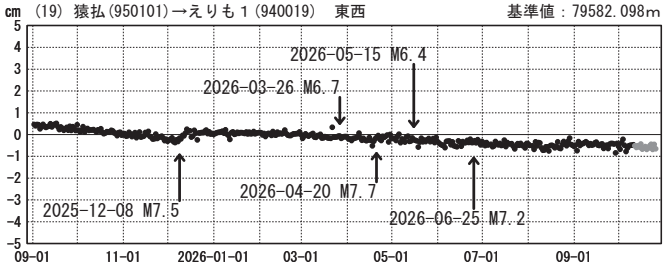
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

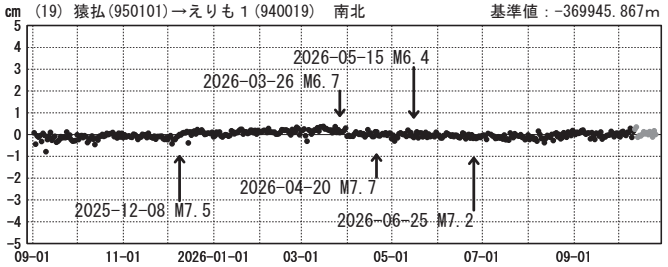


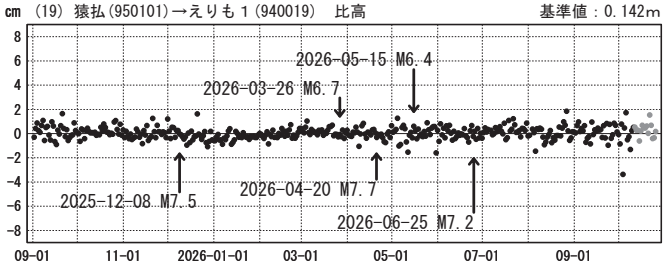




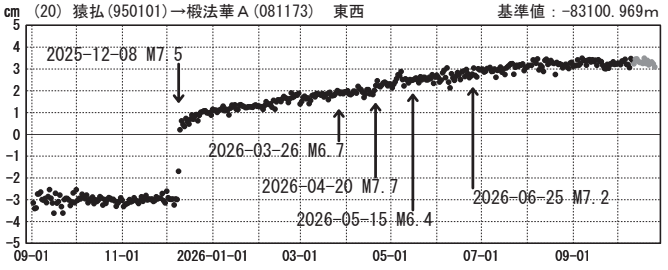
期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST

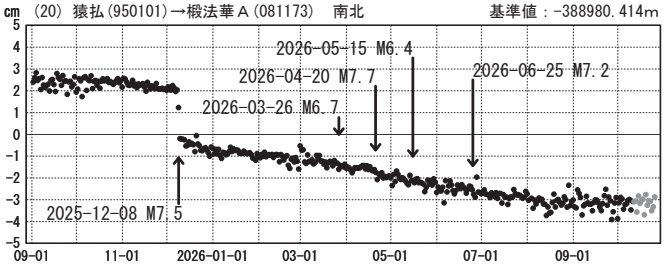


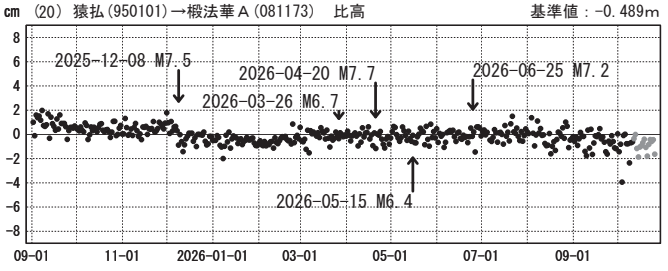




期間: 2025-09-01～2026-10-25 JST





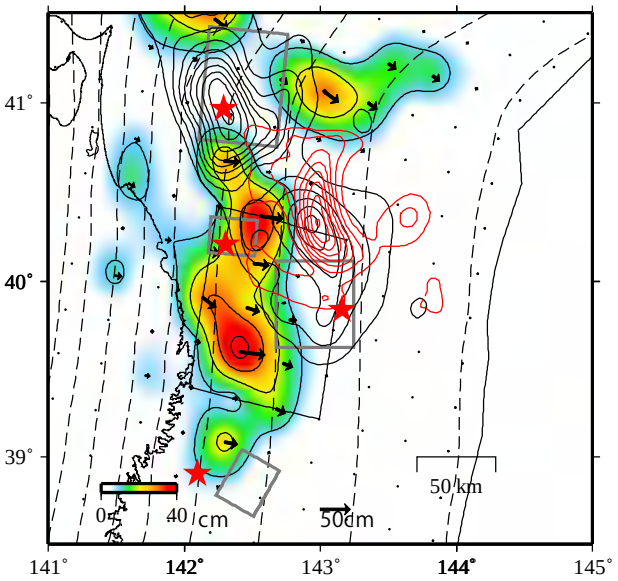


●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

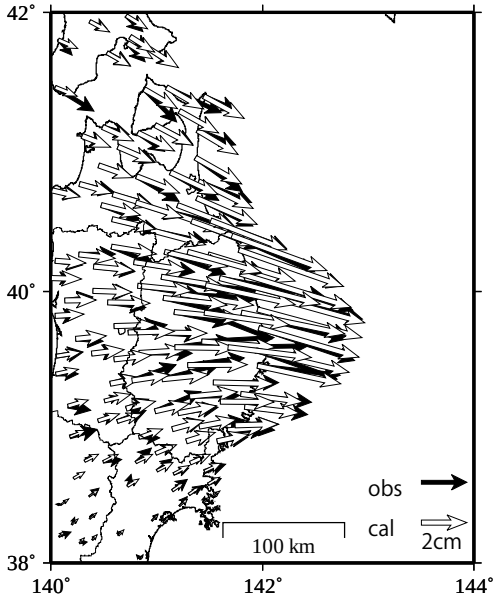
国土地理院

GNSSデータから推定された東北地方のゆっくりすべり（暫定）

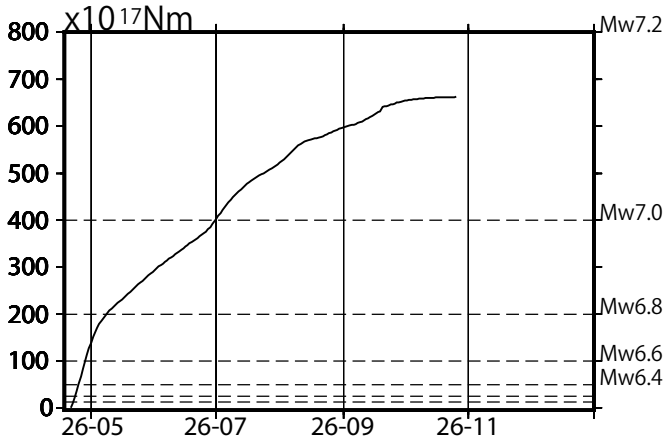
推定すべり分布
（2026-04-21/2026-10-26 ）



観測値（黒）と計算値（白）の比較
（2026-04-21/2026-10-26 ）



モーメント* 時系列（試算）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の３倍以上のグリッドを黒色で表示している。

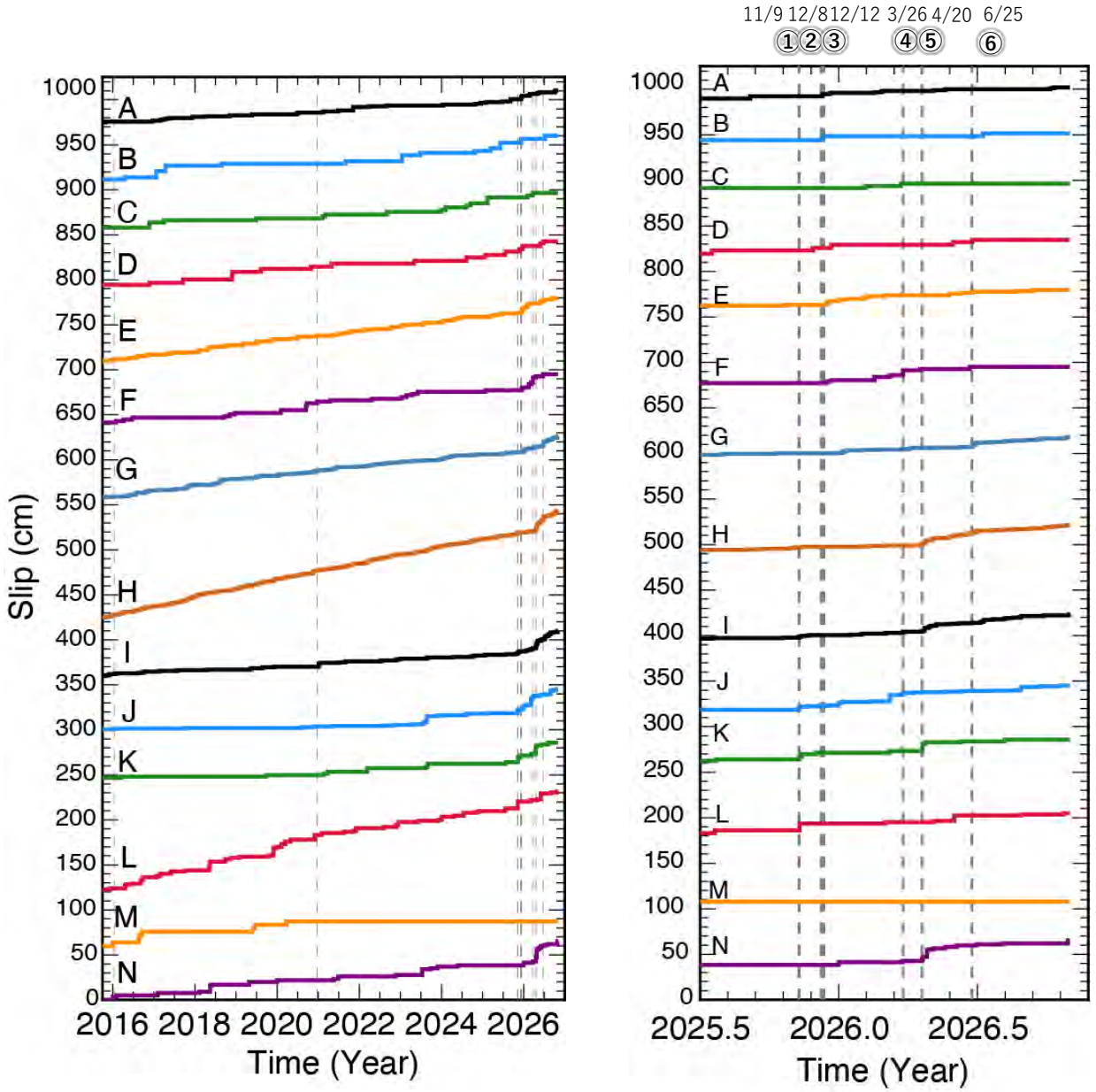
使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
F5.1解(2025-10-01/ 2026-10-10)+R5.1解 （2026-10-11/2026-10-26 ）
トレンド期間:2023-01-01/2024-12-31（年周・半年周成分は補正なし）
モーメント計算範囲:左図の黒枠内側
観測値:３日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線:太平洋プレート上面の等深線(Nakajima & Hasegawa 2006; Kita et al. 2010)
すべり方向:プレートの沈み込み方向+-15° に拘束
赤星:2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖、2026-06-25岩手県沖の地震の震央（気象庁一元化震源）
矩形断層（灰）：2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖、2026-06-25岩手県沖の地震
固定局:猿払

＊電子基準点の保守等による変動は補正している。
＊令和６年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。
＊以下の地震に伴う地殻変動は補正している。
2025-11-09三陸沖の地震、2025-12-08青森県東方沖の地震、2026-03-26三陸沖の地震
2026-04-20三陸沖の地震、2026-05-15宮城県沖の地震、2026-06-25岩手県沖の地震
＊平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito 2017)
＊2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖の地震の粘弾性変形は補正している(Han et al.(2014)を参考)
＊共通誤差成分を推定している。
＊モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。

国土地理院

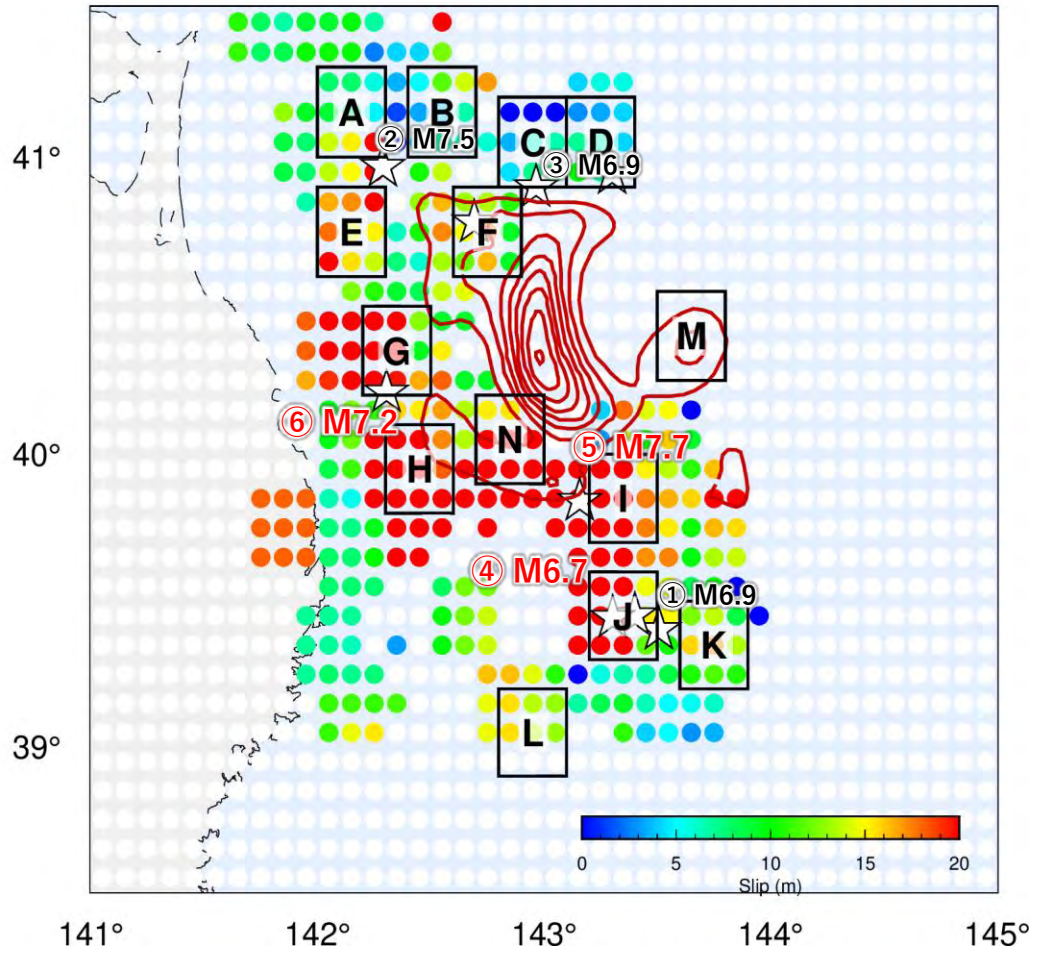
繰り返し地震から推定した非地震性すべりの推移

東京大学地震研究所
繰り返し地震カタログは気象庁作成



領域ごとの繰り返し地震の積算滑り：非地震性すべりの推移を表す

2026 1/1- 10/31　（Earthquake ④-⑥occurred）

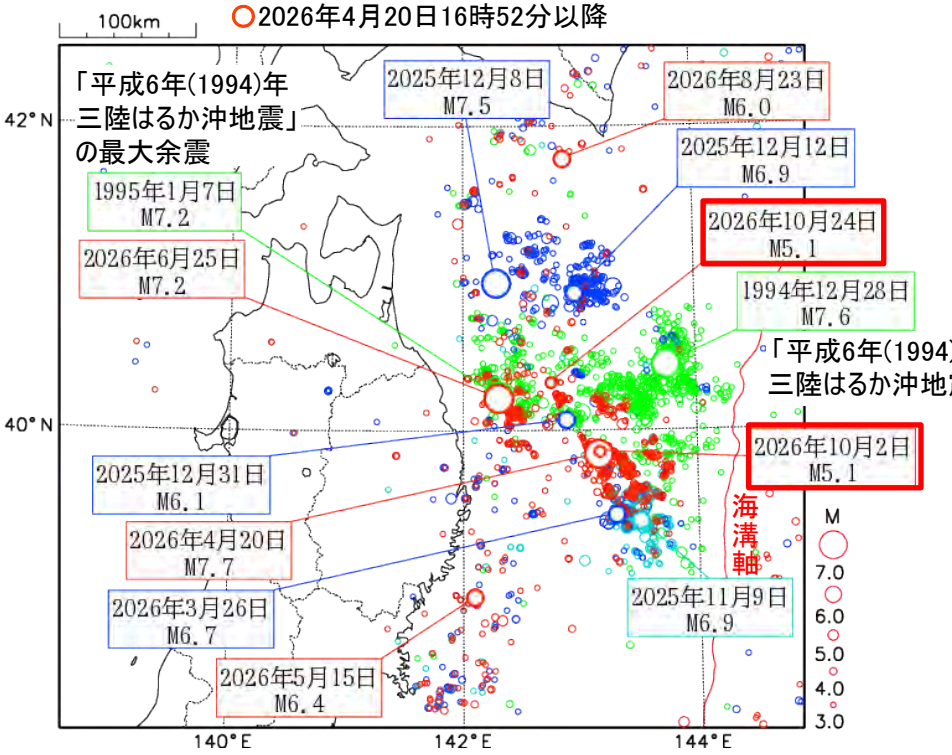


0.3度×0.3度グリッド領域内の平均累積すべり速度を、0.1度シフトで表示
赤コンターは永井・他(2001）による1994年三陸はるか沖地震のすべり分布

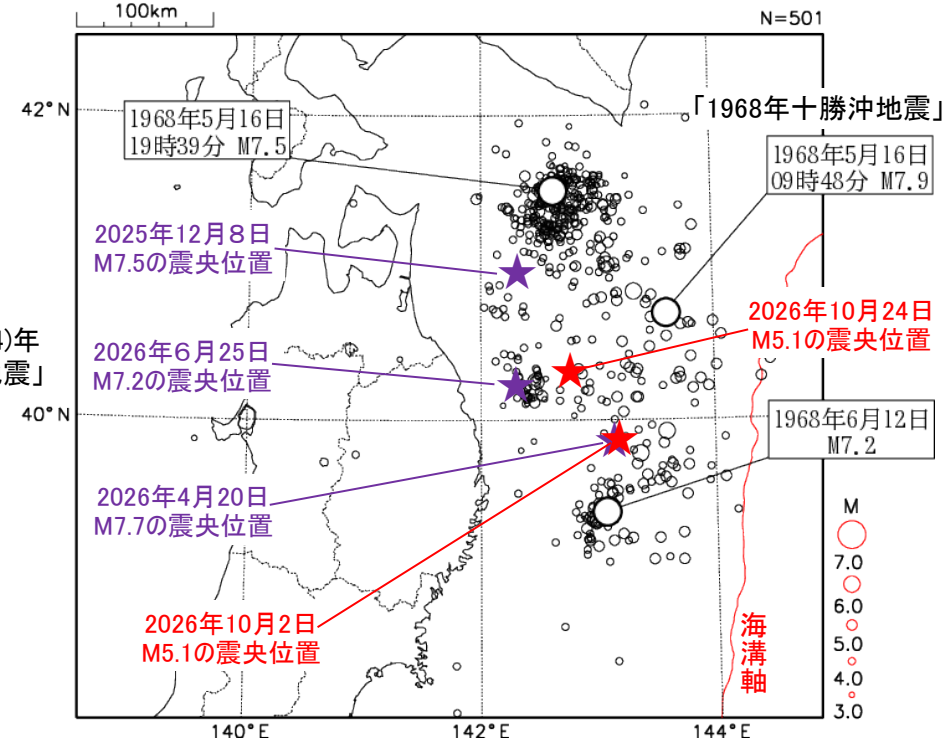
繰り返し地震データ： 2015/10/26 -2026/10/31

青森県東方沖から三陸沖の地震活動域比較

震央分布図
（1994年12月28日～1995年１月31日及び2025年11月１日
～2026年10月31日、深さ0～90km、M≧3.0）
○1994年12月28日～1995年１月31日
○2025年11月１日～2025年12月８日23時14分
○2025年12月８日23時15分～2026年4月20日16時51分
○2026年4月20日16時52分以降



震央分布図
（1968年５月16日～1968年６月15日、
深さ0～90km、M≧3.0）

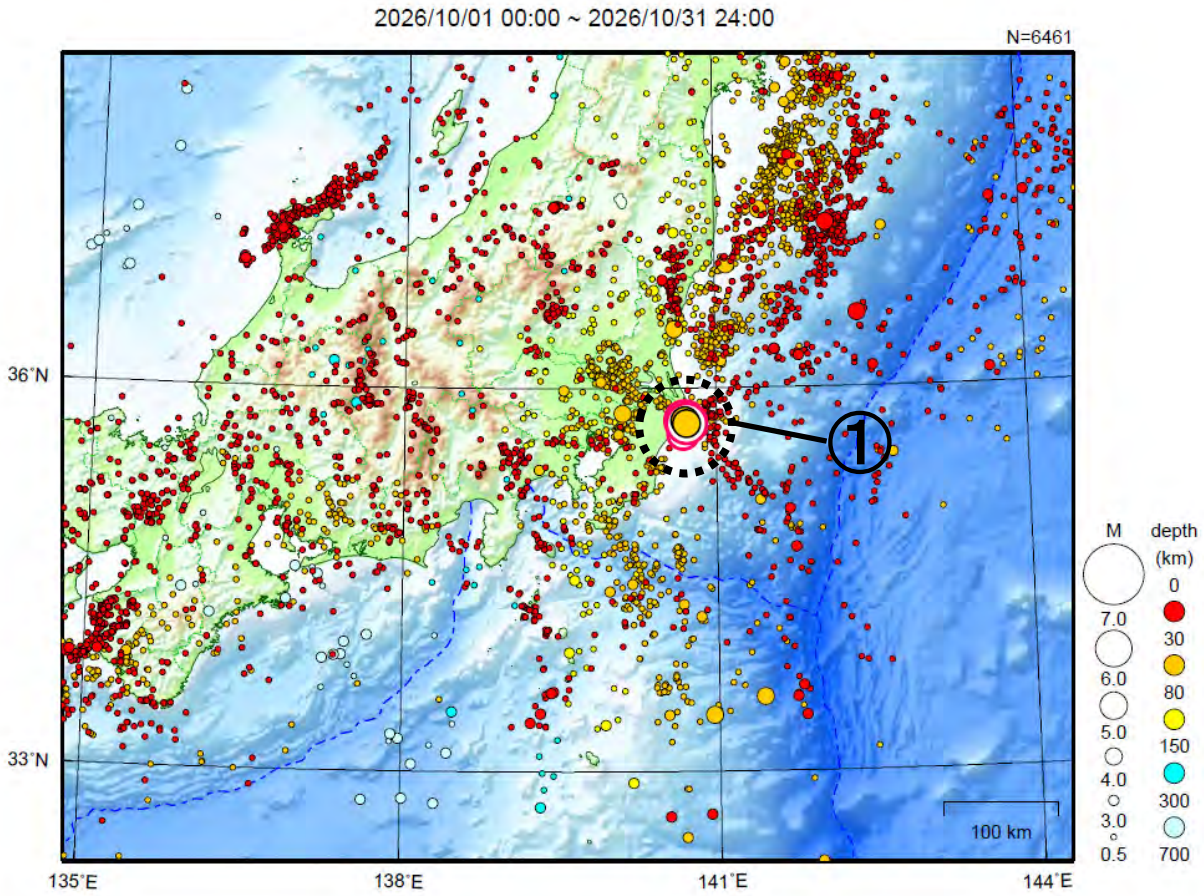


左図には、「平成６年（1994年）三陸はるか沖地震」の約１か月分の地震活動域、2025年11月９日三陸沖の地震活動域、2025年12月８日青森県東方沖の地震活動域及び2026年４月20日三陸沖の地震活動域等を示している。
右図には、「1968年十勝沖地震」の約１か月分の地震活動域を示している。

- 「平成６年（1994年）三陸はるか沖地震」 、2025年11月及び2026年４月の三陸沖の地震、2025年12月の青森県東方沖の地震の活動域は、すみ分けているように見える。
- 「1968年十勝沖地震」の活動域は、上記の活動域を包含するように広がっている。
- 2026年６月25日の岩手県沖の地震(M7.2)は、「平成６年（1994年）三陸はるか沖地震」の最大余震（1995年１月７日、M7.2）とほぼ同じ場所で発生している。

仙台管区気象台・気象庁作成

関東・中部地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

① 千葉県北東部から千葉県東方沖にかけては、10 月 1 日に M5.2 の地震(最大震度３)、10 月８日に M4.7 の地震(最大震度４)、10 月 29 日に M5.5 の地震(最大震度５弱)が発生した。これらの地震の震央付近では、10 月中に震度１以上を観測する地震が 11 回（震度５弱：１回、震度４：１回、震度３：１回、震度２：４回、震度１：４回）発生した。

（上記領域外）

10 月４日に硫黄島近海で M6.0 の地震（震度１以上を観測した地点はなし）が発生した。

10 月 25 日に小笠原諸島西方沖で M6.8 の地震（最大震度３）が発生した。

（上記期間外）

11 月８日に愛知県東部で M5.7 の地震（最大震度５強）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は〔静岡県西部〕である。

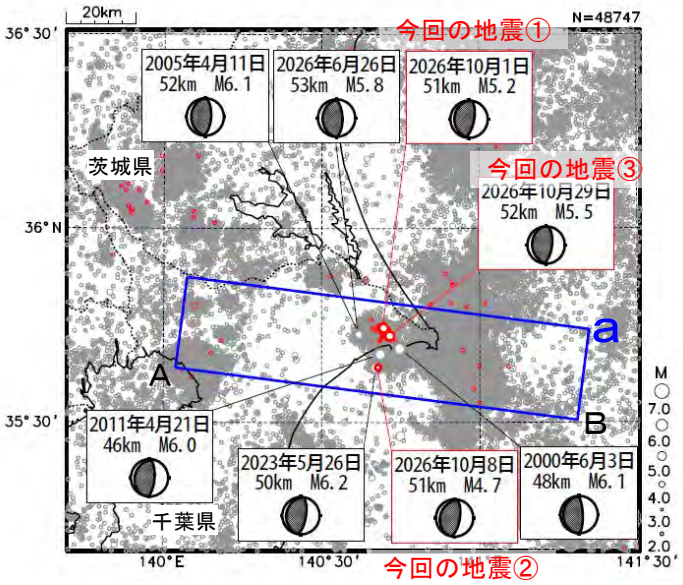
［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

千葉県北東部から千葉県東方沖にかけての地震活動

10 月８日に発生した M4.7 の地震の情報発表に用いた震央地名は〔千葉県北東部〕である。

震央分布図
（1997 年 10 月１日～2026 年 10 月 31 日、
深さ０～120km、M≧2.0）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示

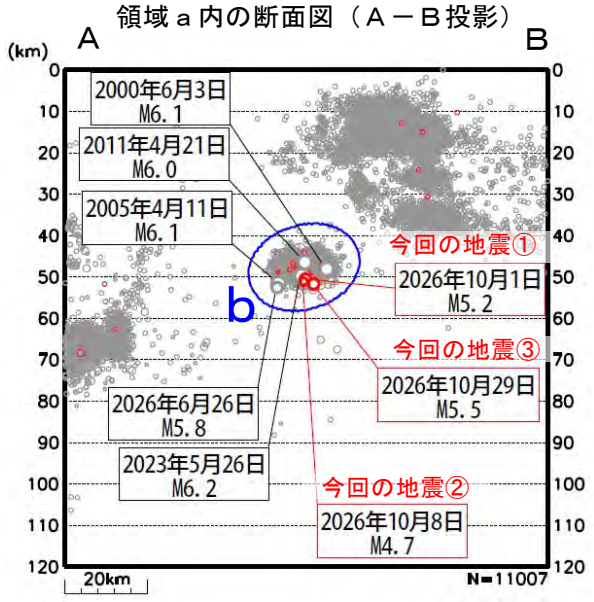


2026 年 10 月 1 日 21 時 27 分に千葉県北東部の深さ 51km で M5.2 の地震（①、最大震度３）が、10 月８日 04 時 13 分に千葉県東方沖の深さ 51km で M4.7 の地震（②、最大震度４）が、また、10 月 29 日 00 時 07 分に千葉県北東部の深さ 52km で M5.5 の地震（③、最大震度５弱）が発生した。これらの地震は、発震機構が東西または西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

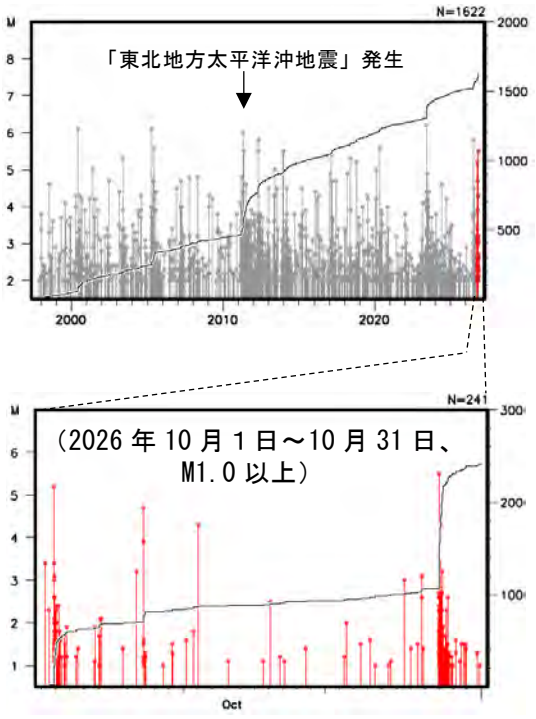
これらの地震の震源付近では、10 月中に震度１以上を観測する地震が 11 回（震度５弱：１回、震度４：１回、震度３：１回、震度２：４回、震度１：４回）発生した。

1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）はＭ５以上の地震が時々発生しており、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）発生以降、より活発になっている。2005 年４月 11 日には M6.1 の地震（最大震度５強）が発生し、負傷者１人などの被害が生じた（被害は総務庁消防庁による）。

領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



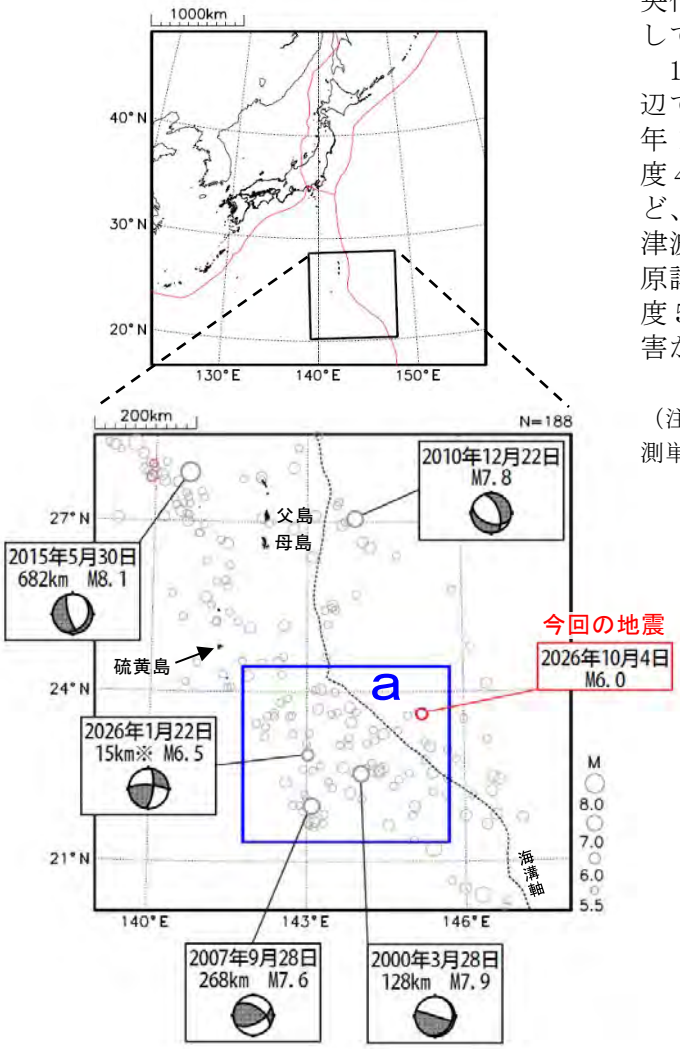
領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



気象庁作成

10 月 4 日　硫黄島近海の地震

震央分布図
（2000 年 1 月 1 日～2026 年 10 月 31 日、
深さ 0 ～700km、M≧5.5）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示
図中の発震機構は CMT 解
深さに「※」を付したものは、CMT 解による



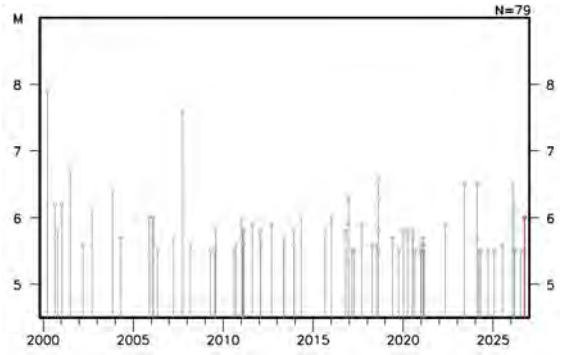
2026 年 10 月 4 日 20 時 12 分に硫黄島近海で M6.0 の浅い地震（震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した。

2000 年 1 月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域 a ）では、M6.0 以上の地震が時々発生している。

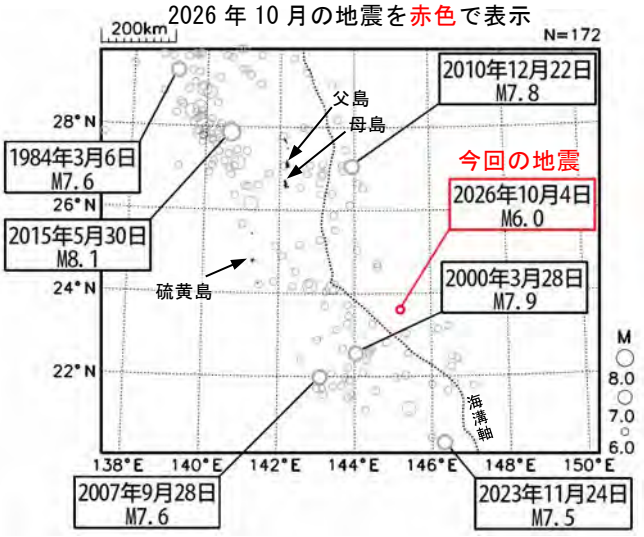
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺では、M7.0 以上の地震が時々発生している。2010 年 12 月 22 日には父島近海で M7.8 の地震（最大震度 4）が発生し、八丈島八重根で 0.5m (注) の津波など、岩手県及び関東地方南部から沖縄地方にかけて津波を観測した。また、2015 年 5 月 30 日には小笠原諸島西方沖の深さ 682km で M8.1 の地震（最大震度 5 強）が発生し、関東地方で軽傷者 8 人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

（注）巨大津波計の観測点により観測されたことを示す（観測単位は 0.1m）。

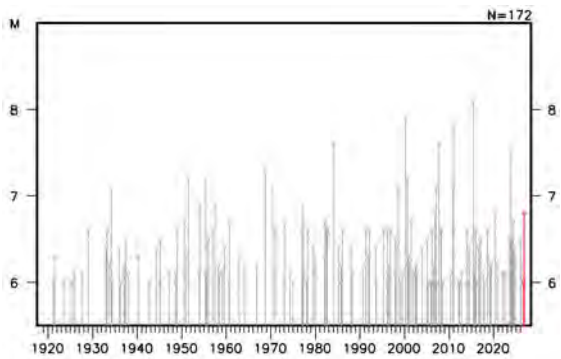
領域 a 内のＭ－Ｔ図



震央分布図
（1919 年 1 月 1 日～2026 年 10 月 31 日、
深さ 0 ～700km、M≧6.0）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示



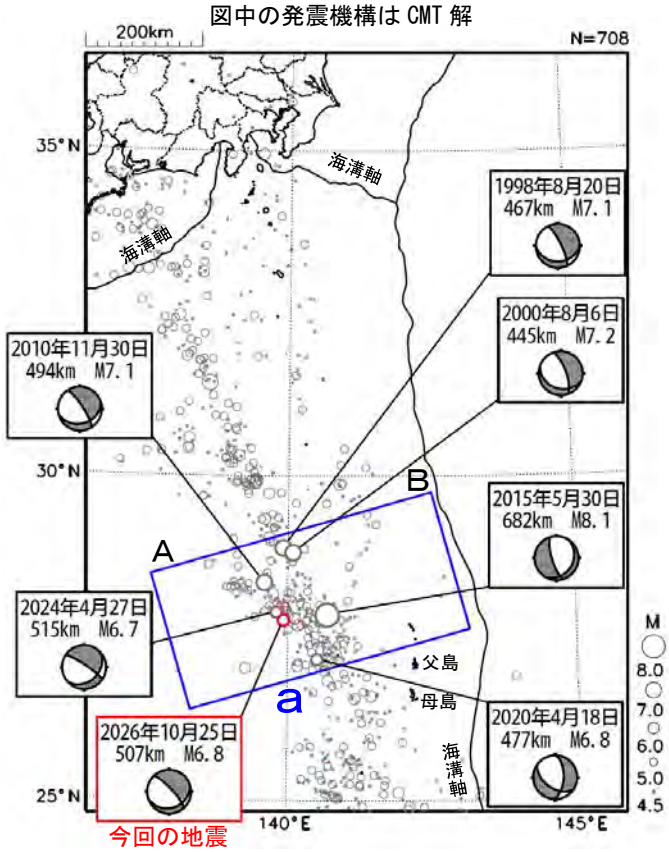
左図の領域内のＭ－Ｔ図



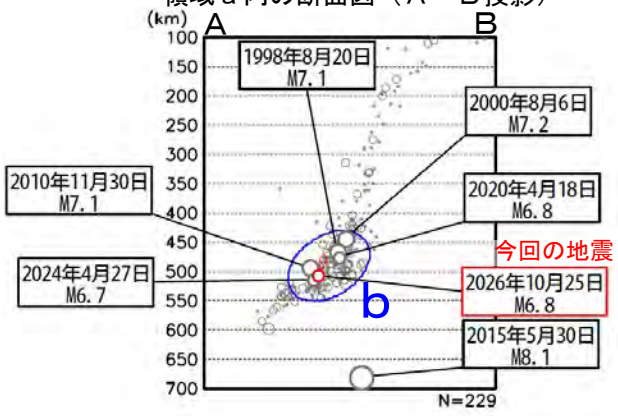
気象庁作成

10 月 25 日　小笠原諸島西方沖の地震

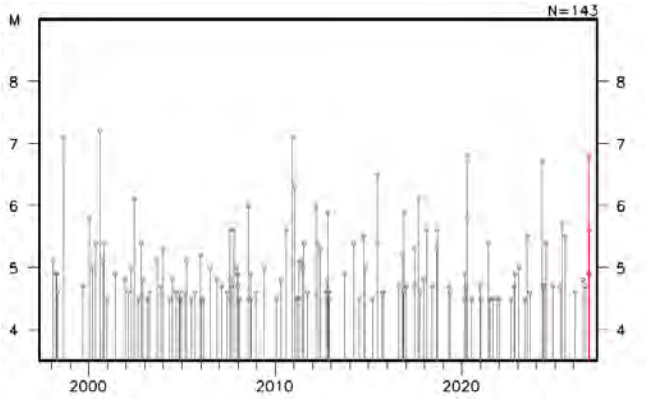
震央分布図
（1997 年 10 月 1 日～2026 年 10 月 31 日、
深さ 100～700km、M≧4.5）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示
図中の発震機構は CMT 解



領域 a 内の断面図（A－B 投影）



領域 b 内のM－T 図

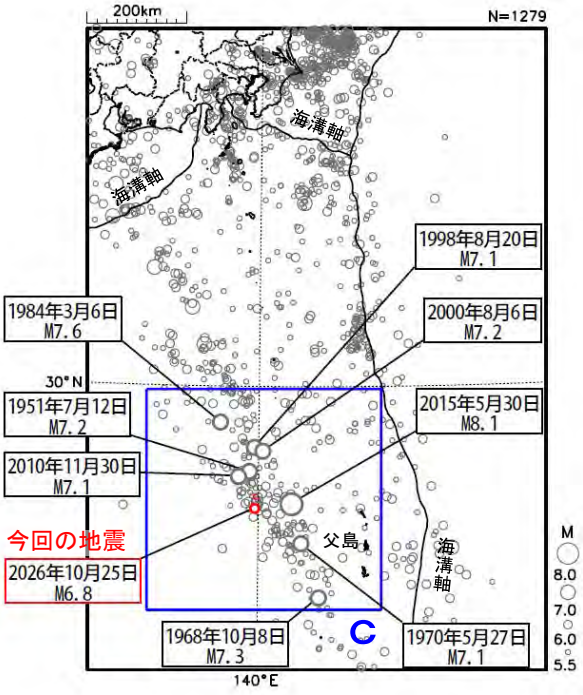


2026 年 10 月 25 日 11 時 09 分に小笠原諸島西方沖の深さ 507km で M6.8 の地震（最大震度３）が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構（CMT 解）は太平洋プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型である。

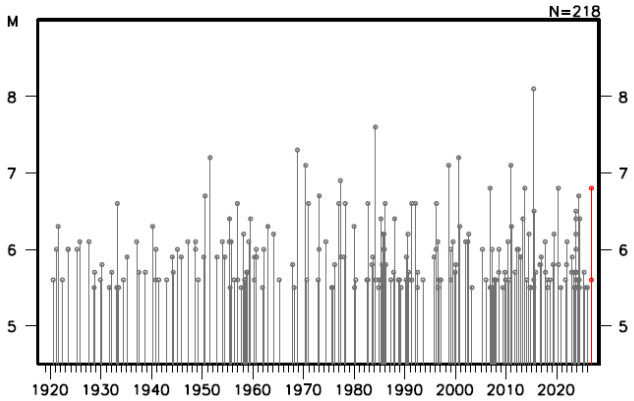
1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）では、M6.0 以上の地震が時々発生している。また、今回の地震の震源よりさらに約 170km 深いところでは、2015 年５月 30 日に M8.1 の地震（最大震度５強）が発生し、軽傷８人などの被害が生じた（総務省消防庁による）。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M7.0 以上の地震が時々発生している。1984 年３月６日には M7.6 の地震が発生し、死者１人、負傷者１人などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

震央分布図
（1919 年 1 月 1 日～2026 年 10 月 31 日、
深さ 0～700km、M≧5.5）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示



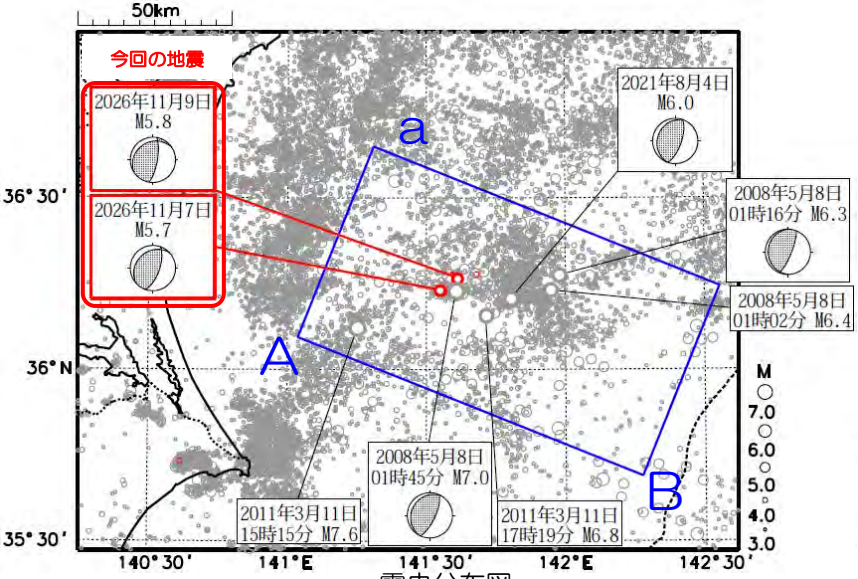
領域 c 内のM－T 図



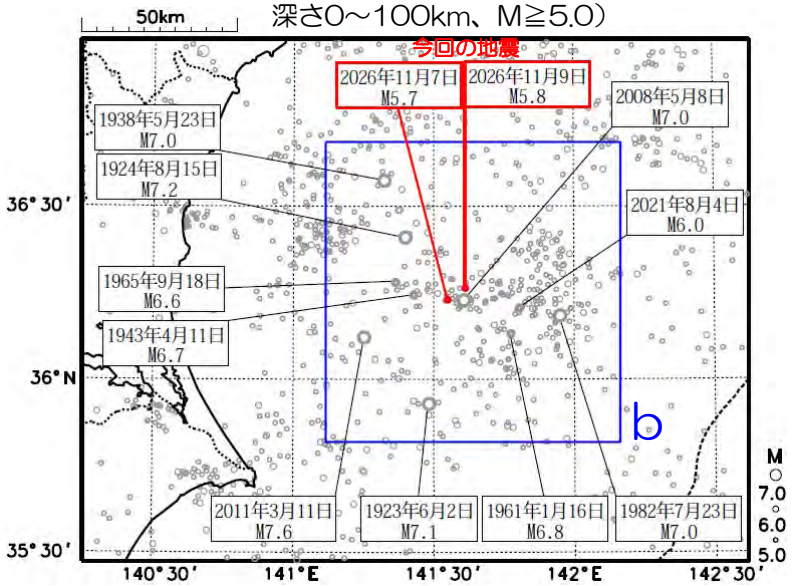
気象庁作成

2026年11月７日以降の茨城県沖の地震活動

震央分布図
（1997年10月１日～2026年11月10日08時、
深さ0～100km、M≧3.0）
発震機構はCMT解（2026年11月は速報値）



震央分布図
（1919年１月１日～2026年11月10日08時、
深さ0～100km、M≧5.0）



2026年11月7日20時07分に茨城県沖の深さ28kmでM5.7の地震（最大震度３）が、11月9日13時52分に茨城県沖の深さ28kmでM5.8の地震（最大震度３）が発生した。これらの地震は、発震機構（注）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

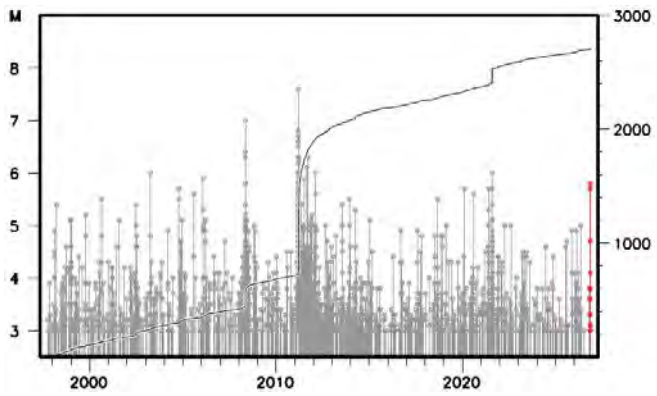
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ａ）では、M5.0を超える地震が度々発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）ではM6.0を超える地震が時々発生している。

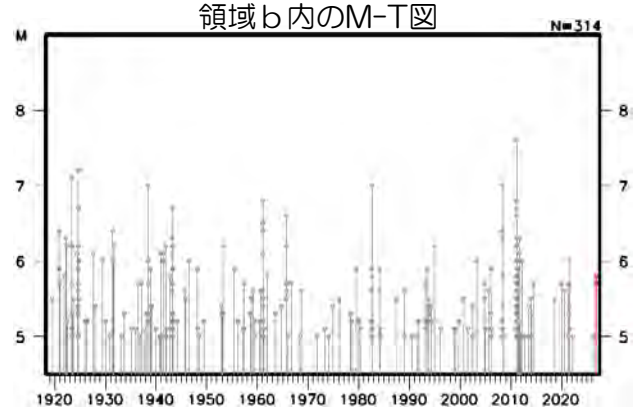
この地域では1982年7月、2008年5月、2021年8月など、M5以上の地震がまとまって発生した事例がある。1982年7月の地震活動の際には最大でM7.0（最大震度４）が発生し、牡鹿町鮎川（当時）で19cmの津波を観測した。2008年5月の地震活動の際には最大でM7.0（最大震度５弱）の地震が発生し、石巻市鮎川で14cmの津波を観測した。

注）速報的な自動解析結果であり、後日の精査により変更となる場合がある

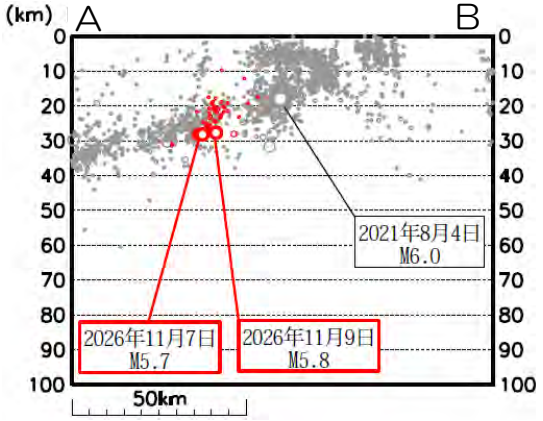
領域ａ内のM-T図及び回数積算図



領域ｂ内のM-T図



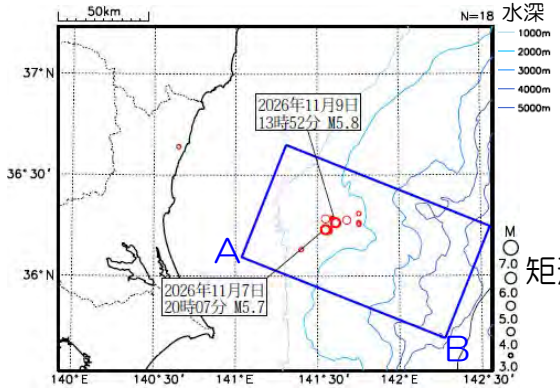
領域ａ内の断面図（A-B投影）
2020年10月以降、M≧2.0



気象庁作成

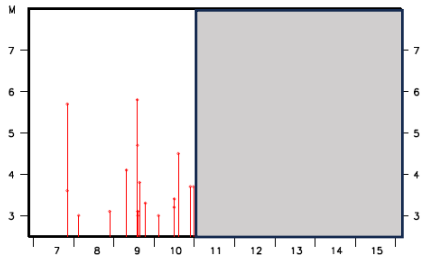
茨城県沖の地震活動（過去の活動との比較）

震央分布図
（2026年11月７日～１０日24時、
深さ０～100km、M≧3.0）

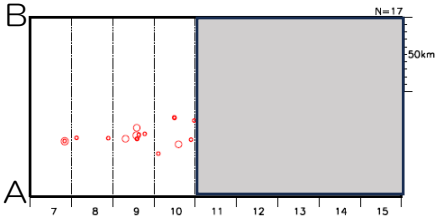


※10日の震源は未精査

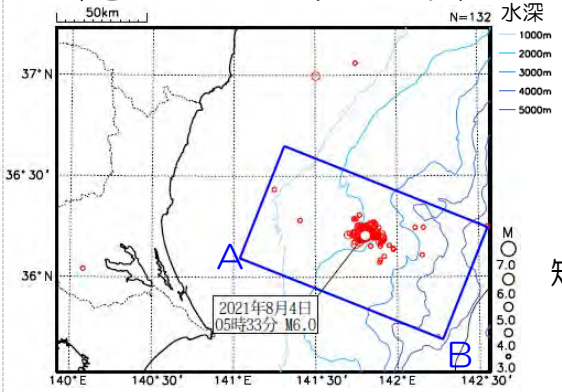
矩形内の地震活動経過図



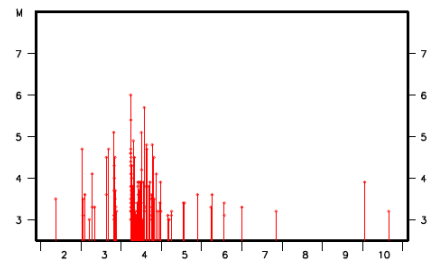
矩形内の時空間分布図（A-B投影）



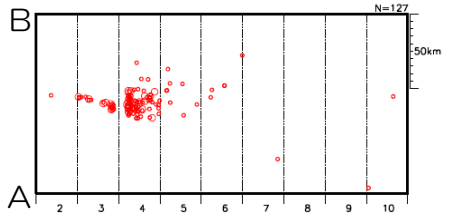
震央分布図
（2021年8月2日～10日、
深さ０～100km、M≧3.0）



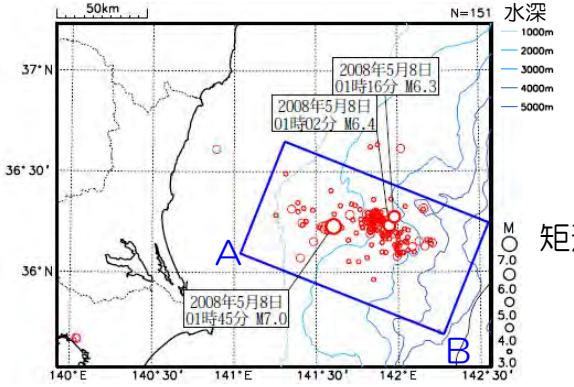
矩形内の地震活動経過図



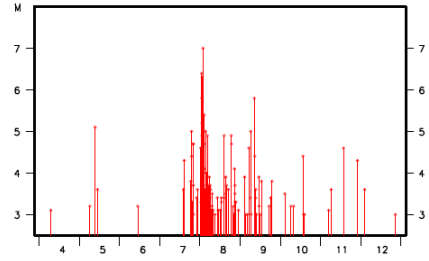
矩形内の時空間分布図（A-B投影）



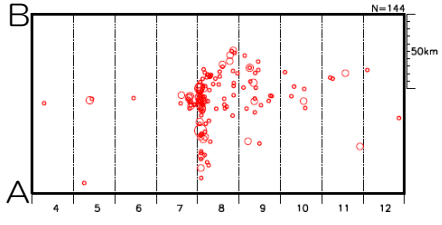
震央分布図
（2008年5月4日～12日、
深さ０～100km、M≧3.0）



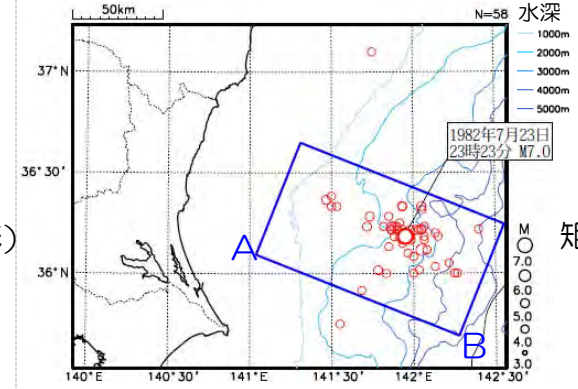
矩形内の地震活動経過図



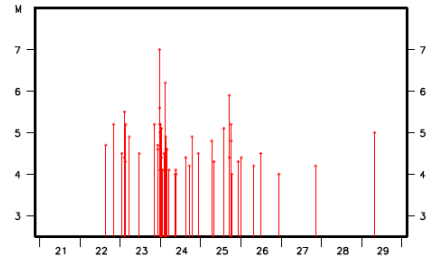
矩形内の時空間分布図（A-B投影）



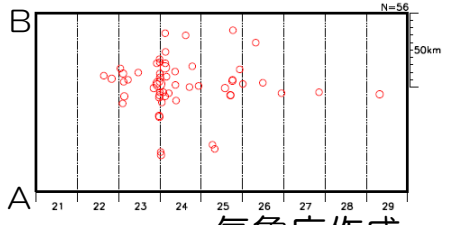
震央分布図
（1982年7月21日～29日、
深さ０～100km、M≧**4.0**）



矩形内の地震活動経過図



矩形内の時空間分布図（A-B投影）



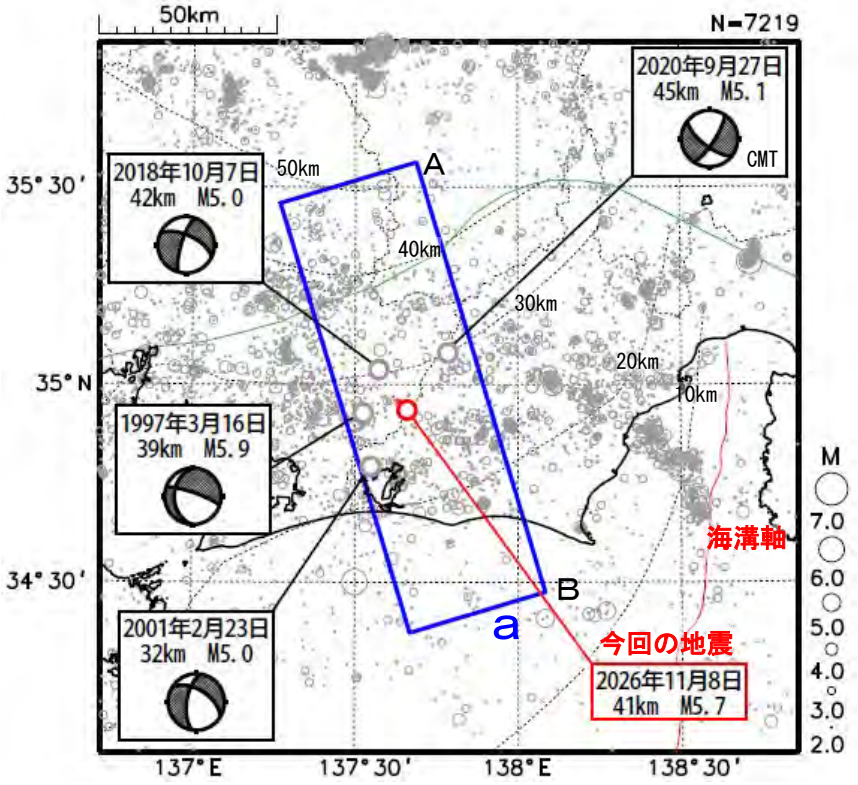
気象庁作成

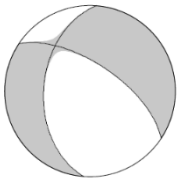
11 月８日　愛知県東部の地震

情報発表に用いた震央地名は〔静岡県西部〕である

2026 年 11 月８日 01 時 04 分に愛知県東部の深さ 41 kmで M5.7 の地震（Mw5.6、最大震度５強）が発生した。この地震は、発震機構（CMT 解）が東北東－西南西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した。この地震で、負傷者 22 人、住家一部破損２棟の被害が生じた（被害は、11 月 9 日 10 時 00 分現在、総務省消防庁による）。

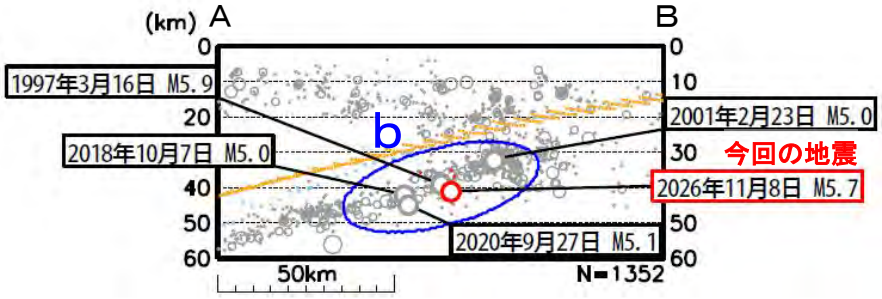
震央分布図
（1990 年１月１日～2026 年 11 月８日、深さ０～60km、M≧2.0）
2026 年 11 月８日の地震を赤色で表示



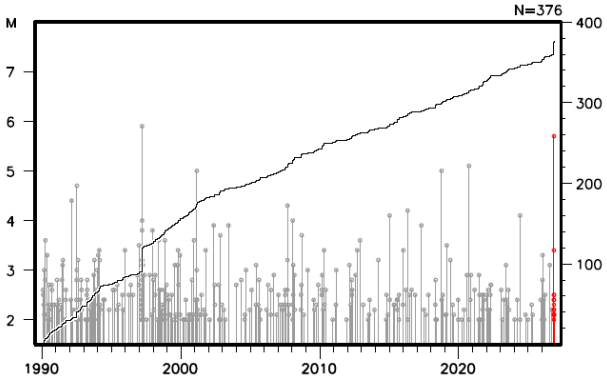


今回の地震の CMT 解
Mw5.6 セントロイドの深さ 34km

領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



領域ｂ内の M-T 図及び回数積算図



※ 震央分布図中の黒色の点線は、Baba et al. (2002)、Hirose et al. (2008)及び Nakajima and Hasegawa (2007)による フィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。緑色線は南海トラフ巨大地震の監視領域を示す。

※ 断面図中の水色の点線は Hirose et al. (2008)、Baba et al. (2002)、橙色の点線は内閣府 (2011) による フィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。

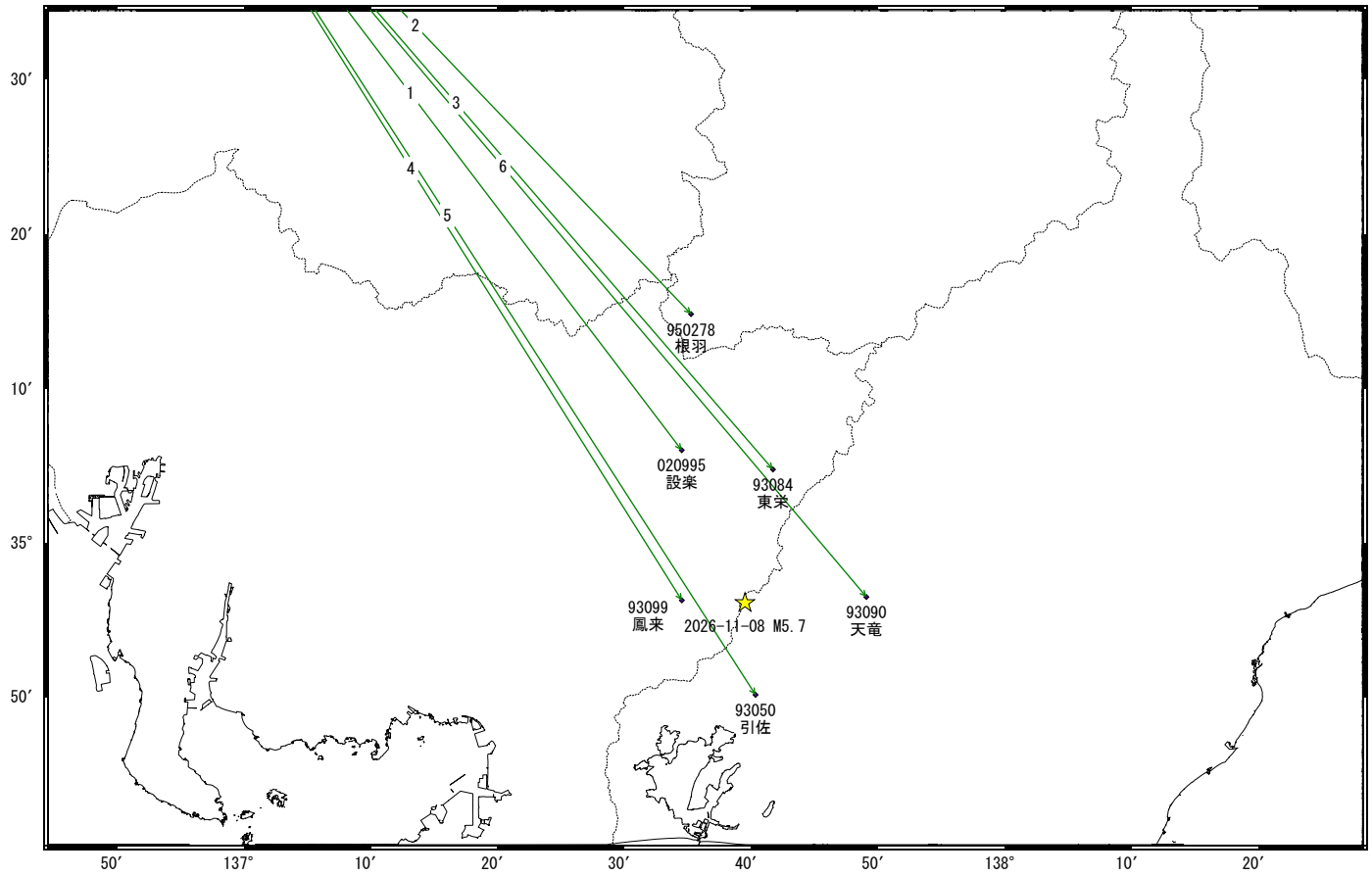
※ 2026 年 11 月８日の震源要素は、今後の精査で変更する場合がある。

気象庁作成

愛知県東部の地震(11月08日 M5.7)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴う顕著な地殻変動は見られない.

基線図

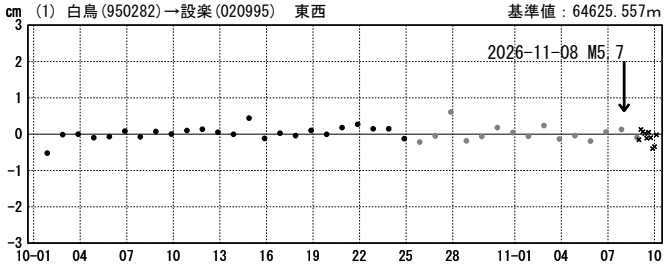


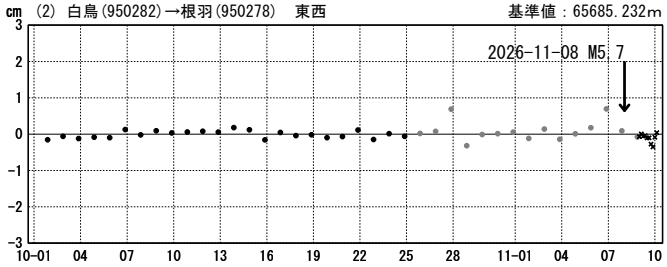
★震央

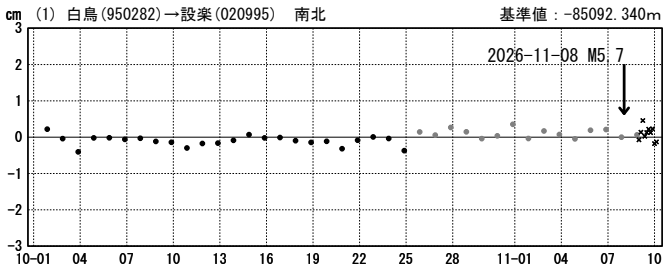
固定局:白鳥(950282)(岐阜県)

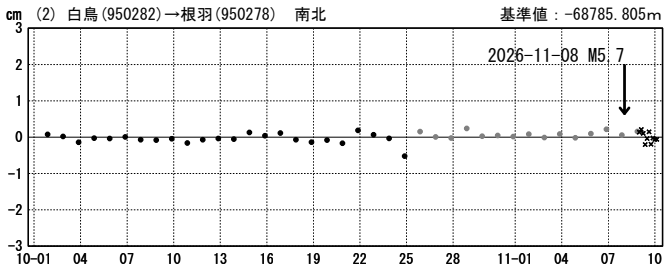
成分変化グラフ

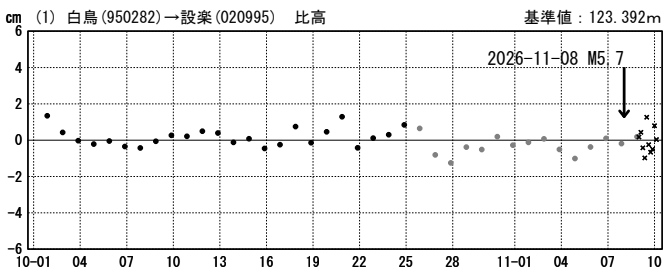
期間: 2026-10-01～2026-11-10 JST

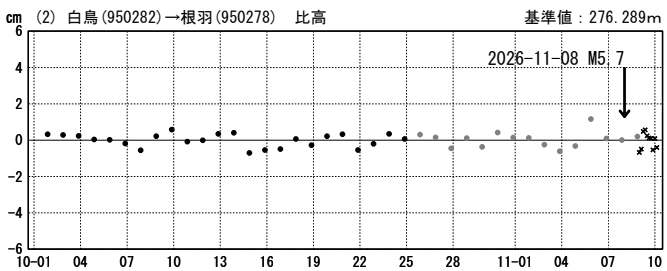












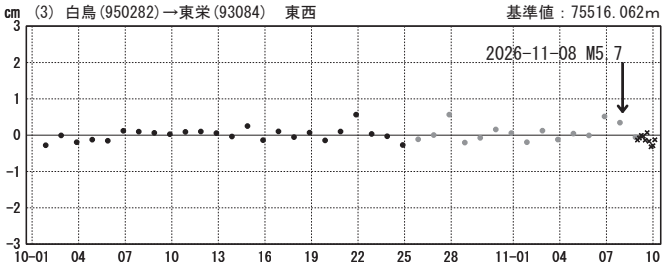
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解] ×---[Q5.1:迅速解]

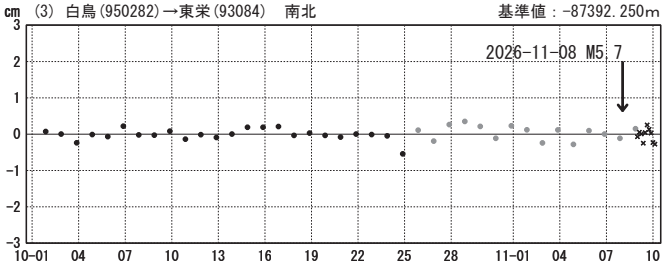
国土地理院

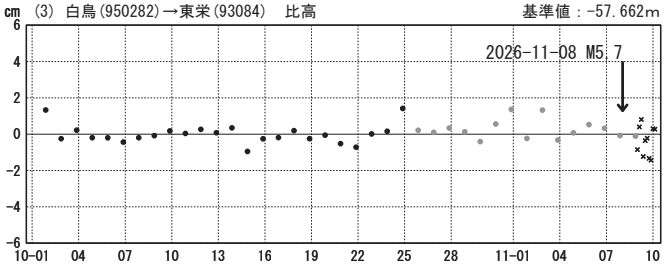
愛知県東部の地震(11月08日 M5.7)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

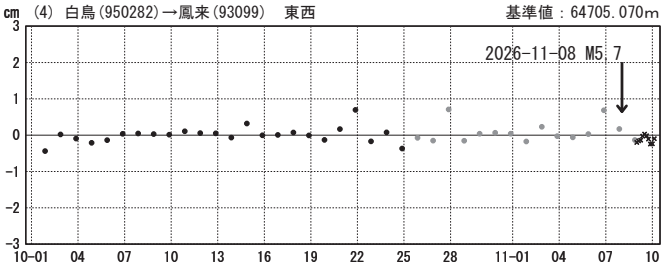
期間: 2026-10-01～2026-11-10 JST

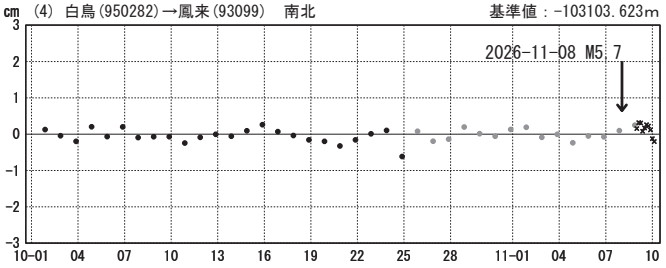


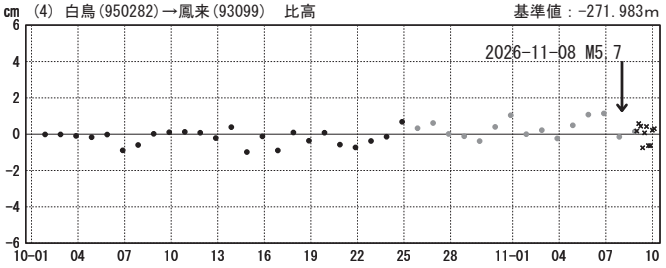




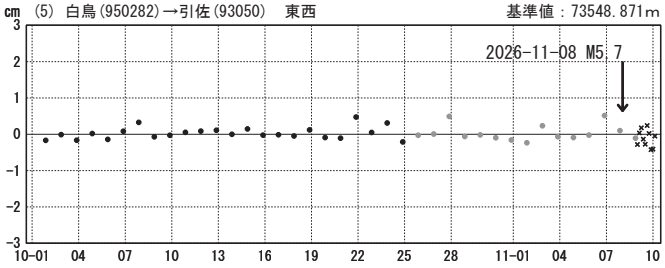
期間: 2026-10-01～2026-11-10 JST

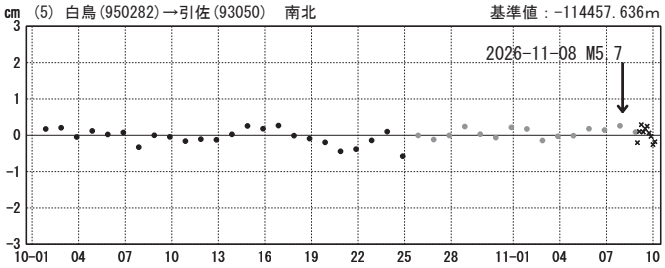


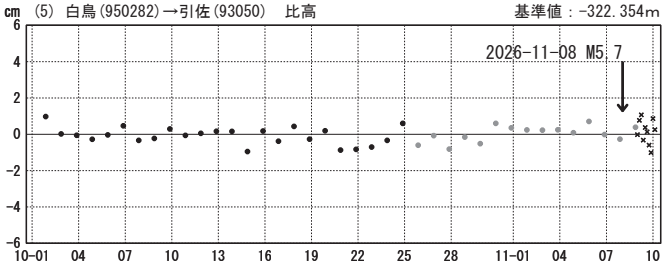




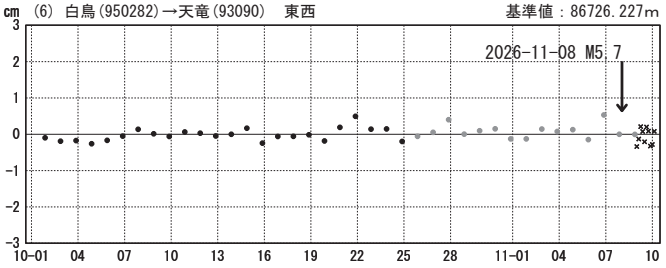
期間: 2026-10-01～2026-11-10 JST

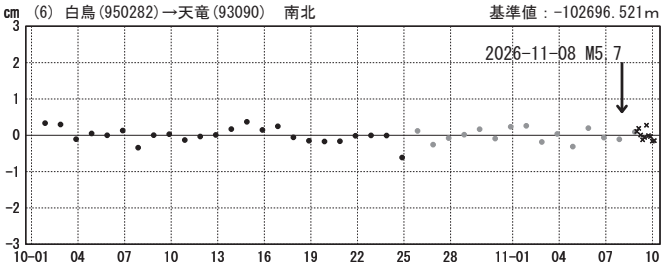


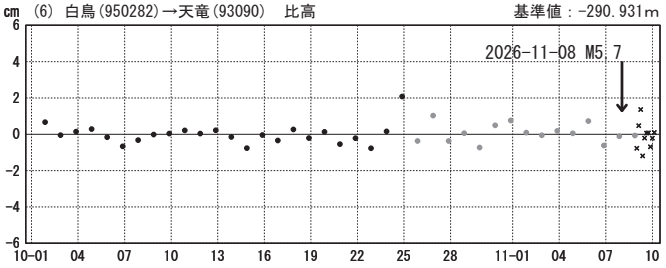




期間: 2026-10-01～2026-11-10 JST







●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解] ×---[Q5.1:迅速解]

国土地理院

防災上の留意事項と今後の見通し

（防災上の留意事項）

この地震による津波の心配はありません。

揺れの強かった地域では、落石や崖崩れなどの危険性が高まっていますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意してください。

（今後の地震活動の見通し）

過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度5強程度の地震に注意してください。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。

（今回の地震と南海トラフ地震との関係）

今回の地震は南海トラフ地震の想定震源域の中で発生した地震です。

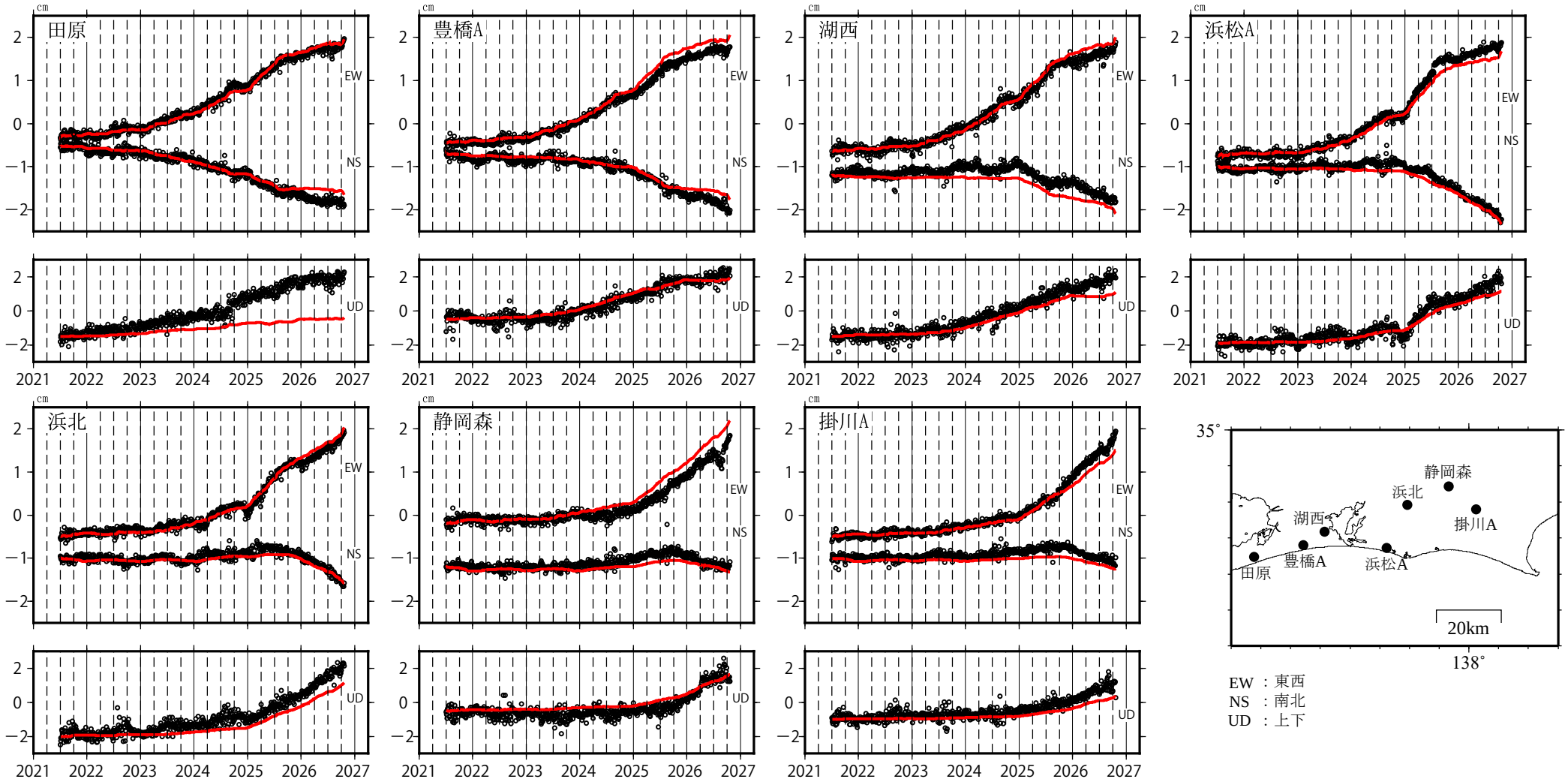
この地震の規模から、南海トラフ沿いのプレート間の固着状態の特段の変化を示すものではないと考えられます。

今後も地震活動や地殻変動を注意深く監視します。

2026年11月８日　気象庁報道発表資料
https://www.jma.go.jp/jma/press/2611/08a/kaisetsu202611080305.pdf

気象庁作成

東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線)
時間依存のインバージョン

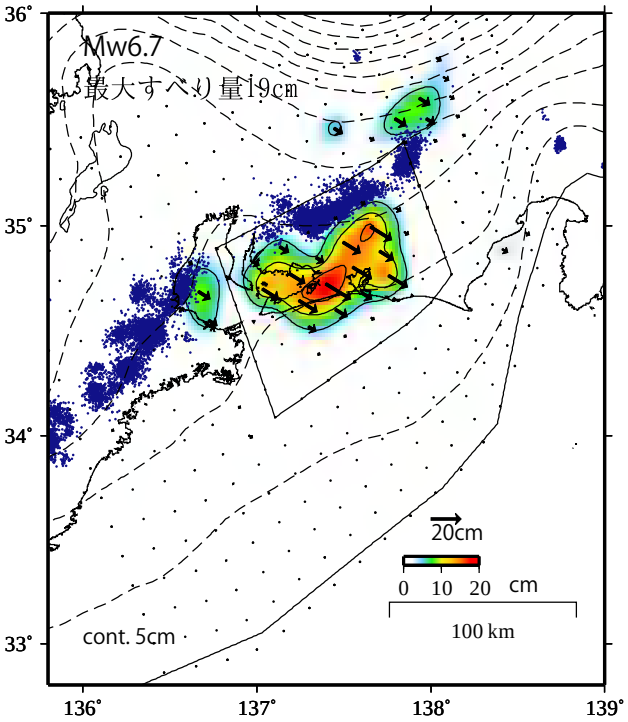


EW ：東西
NS ：南北
UD ：上下

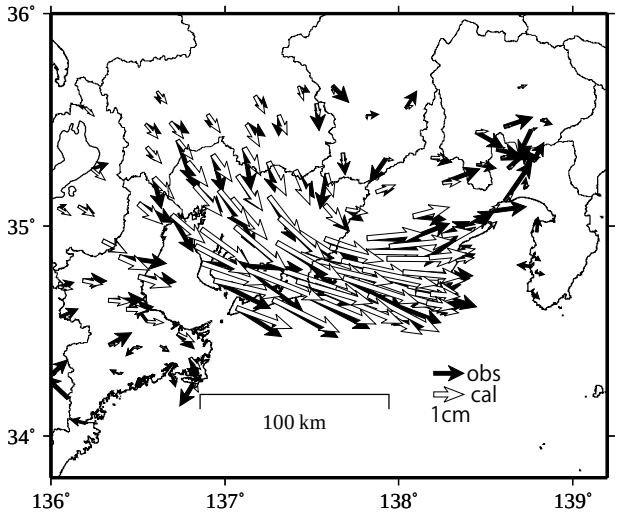
国土地理院

GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）

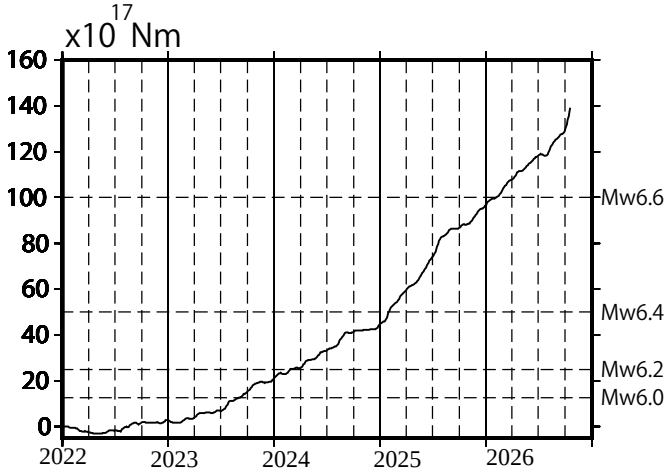
推定すべり分布
（2022-01-01/2026-10-19）



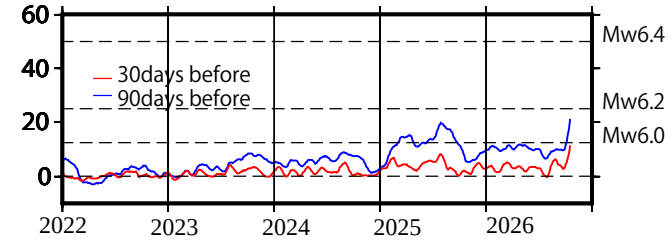
観測値（黒）と計算値（白）の比較
（2022-01-01/2026-10-19）



モーメント時系列（試算）



モーメント変化量の時間変化（30日間及び90日間）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差（σ）の３倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
　　F5.1解(2021-07-01/ 2026-10-03)+R5.1解（2026-10-04/2026-10-19）
トレンド期間:2020-01-01/2022-01-01（年周・半年周成分は補正していない）
モーメント計算範囲:左図の黒枠内側
観測値:３日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al.,2008)
すべり方向:プレートの沈み込み方向に拘束
青丸:低周波地震（気象庁一元化震源）（期間:2022-01-01/2026-10-19）
モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。

固定局:三隅

解析での補正内容
＊電子基準点の保守等による変動
＊共通誤差成分を推定
＊平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形(Suito 2017)
＊令和６年能登半島地震に伴う地殻変動
＊令和６年能登半島地震の粘弾性変形(Suito 2025)
＊短期的ゆっくりすべりに伴う地殻変動（2017-01/ 2026-10-04:気象庁カタログによる）

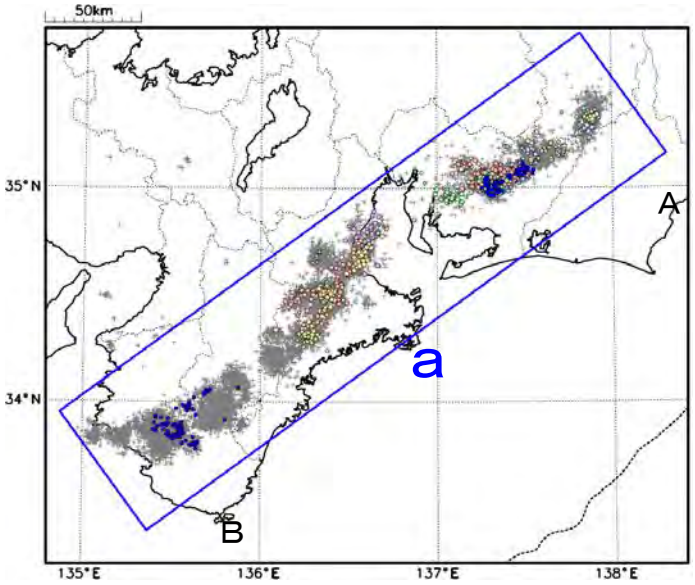
国土地理院

東海から紀伊半島北部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

10月２日から18日にかけて東海から紀伊半島北部で深部低周波地震（微動）を観測した。
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計・傾斜計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

震央分布図
（2020年10月１日～2026年10月31日、
深さ０～60km、Mすべて）



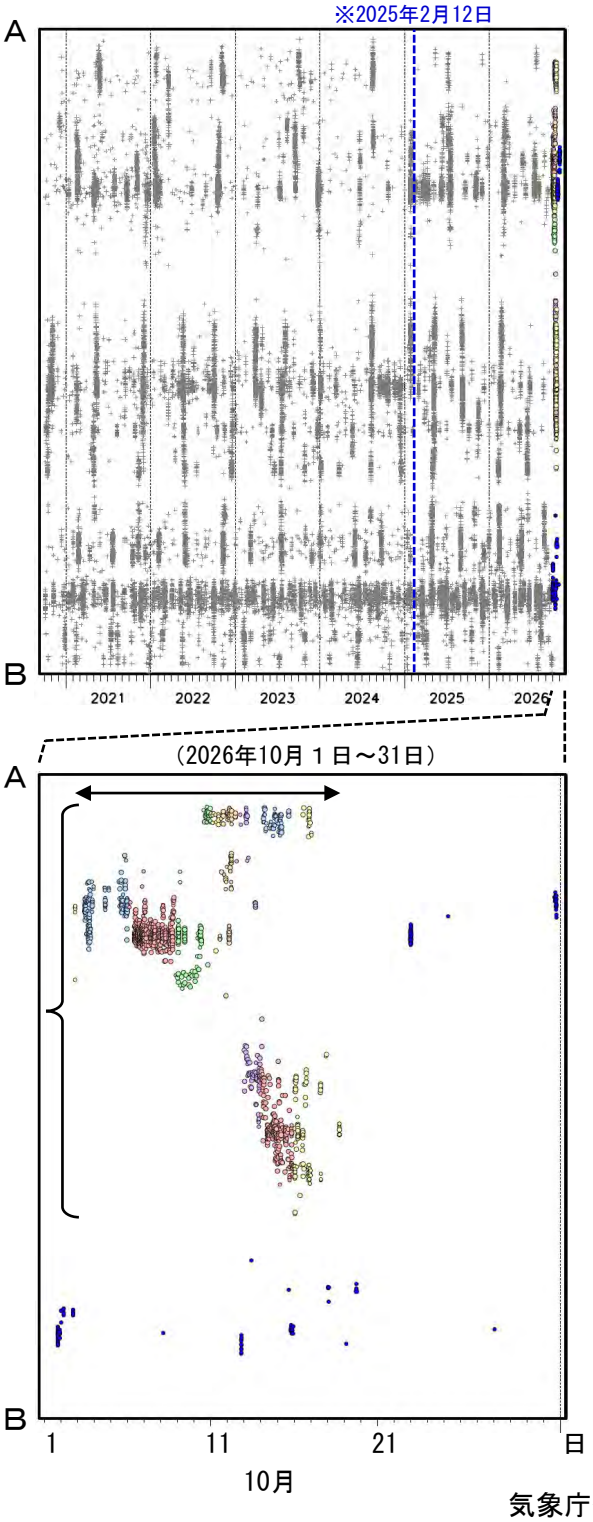
凡例
＋：2020年10月１日～2026年９月30日
●：2026年10月１日～

ただし、ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動の色分けは以下のとおり。

東海
●：10月２日00時～24時
●：10月３日00時～５日24時
●：10月６日00時～８日24時
●：10月９日00時～10日24時
●：10月11日00時～12時
●：10月11日12時～12日12時
●：10月12日12時～13日24時
●：10月14日00時～15日24時
●：10月16日00時～17日24時

紀伊半島北部
●：10月13日00時～13日24時
●：10月14日00時～15日24時
●：10月16日00時～18日24時

領域a内の時空間分布図
（Ａ－Ｂ投影）

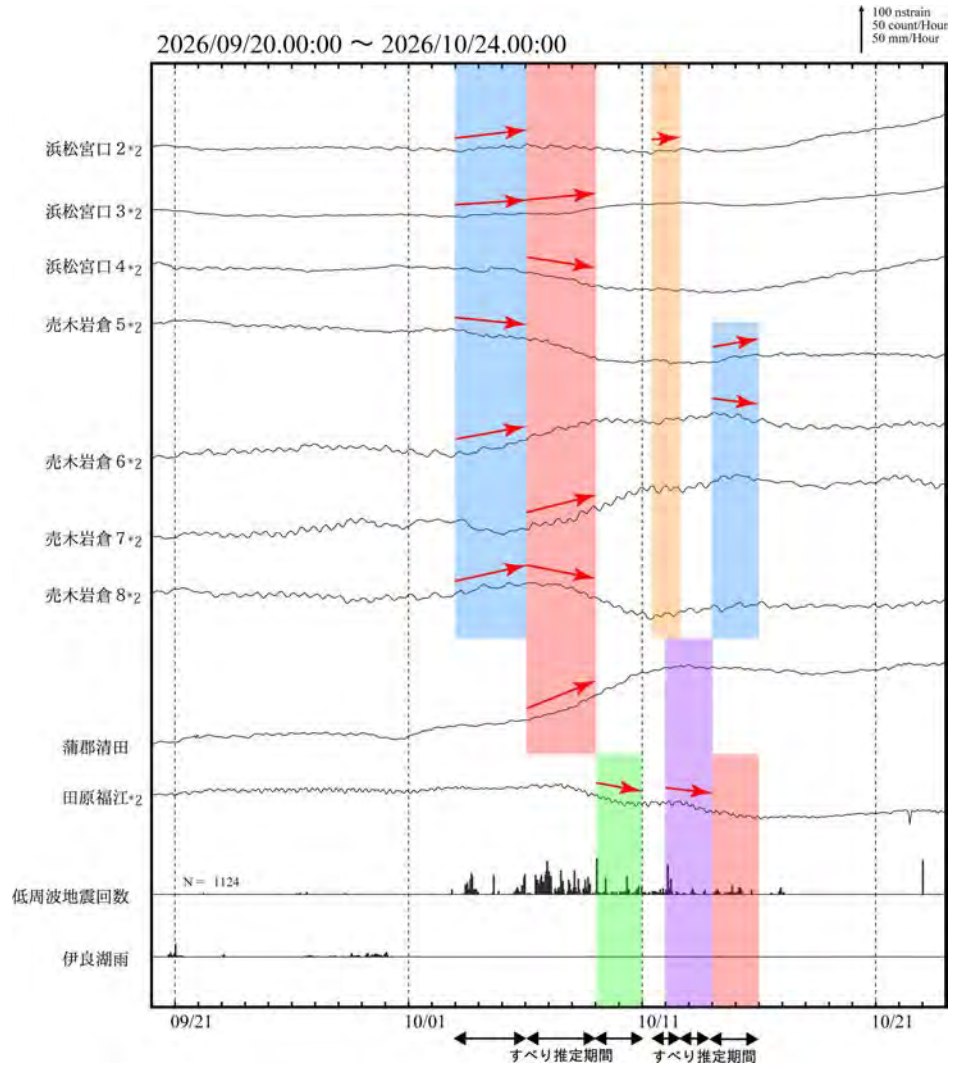


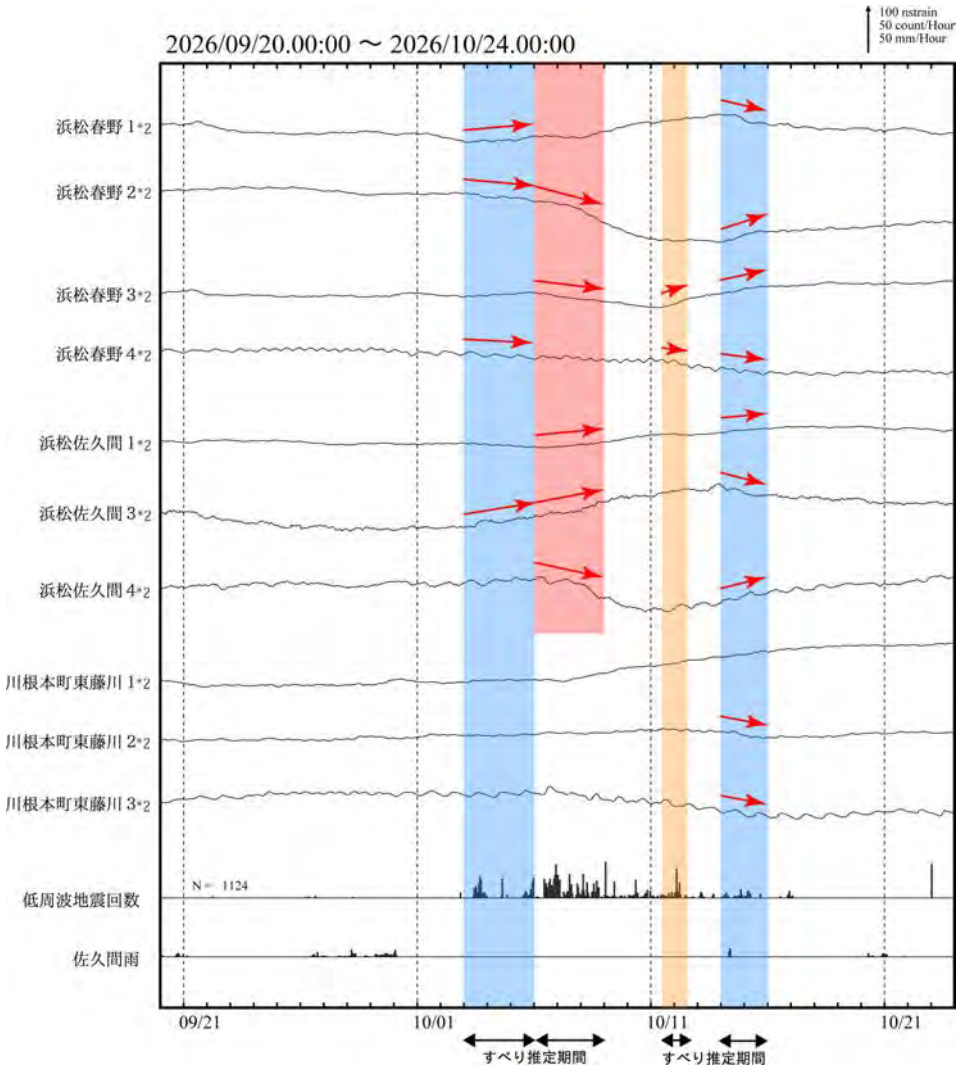
気象庁作成

※2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）

静岡県から愛知県で観測されたひずみ変化



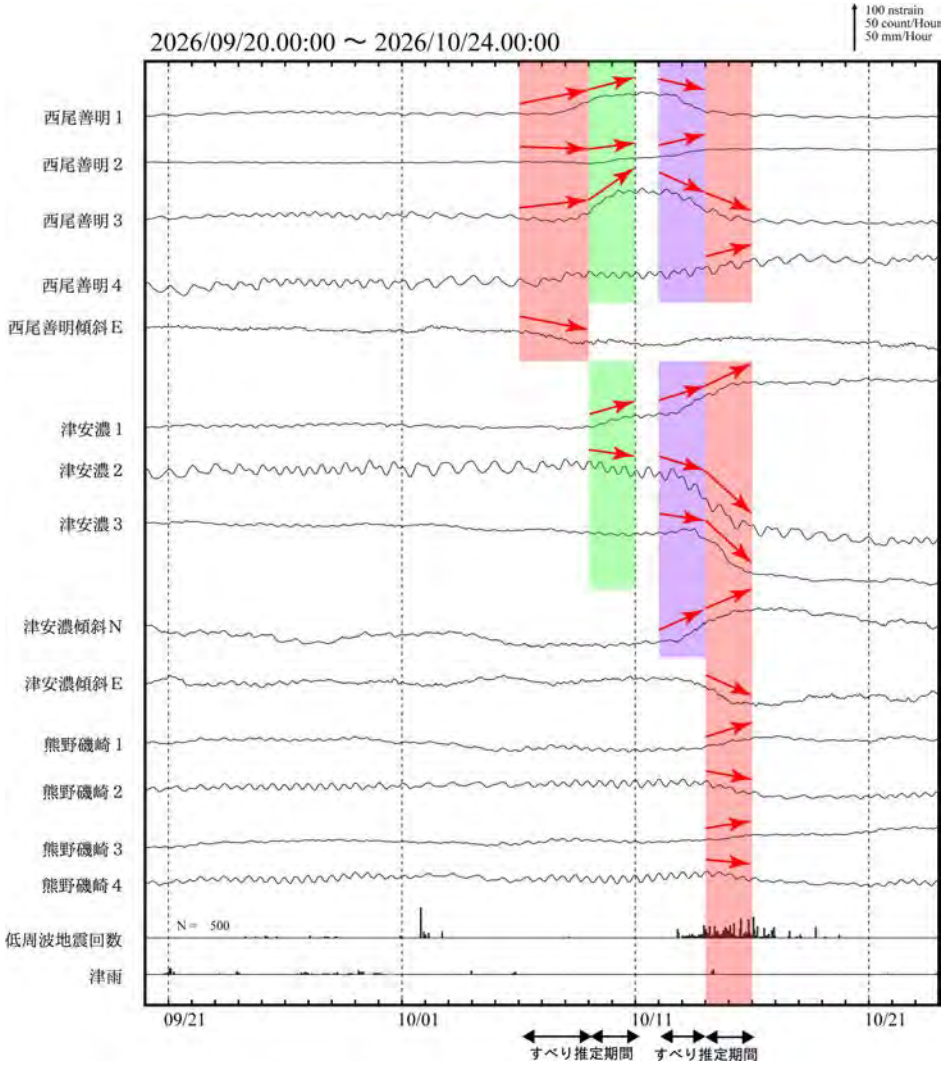


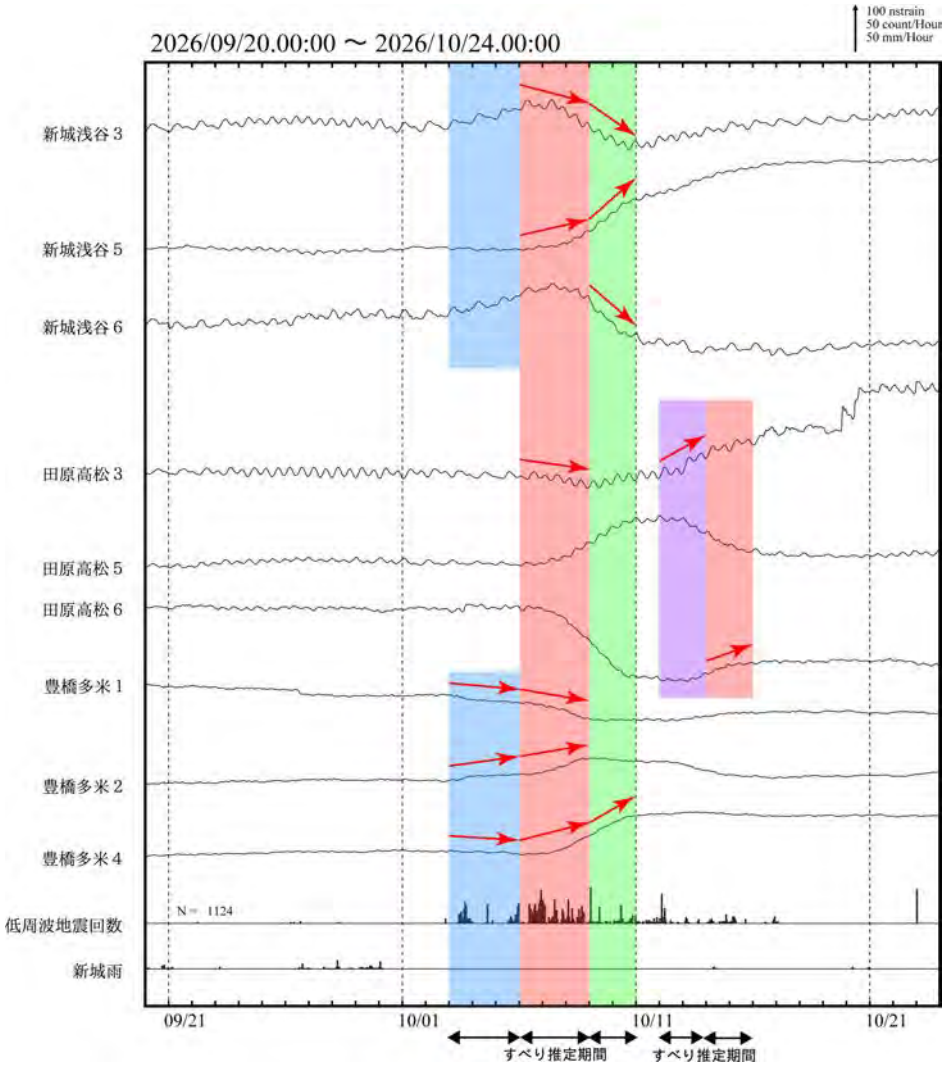
浜松春野及び川根本町東藤川は静岡県のひずみ計である。
解析に使用したチャネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャネルに赤矢印を描画している。
低周波地震回数はゆっくりすべりを示す断層モデル周辺で発生したものを積算している。

気象庁作成

東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）

愛知県から三重県で観測されたひずみ・傾斜変化



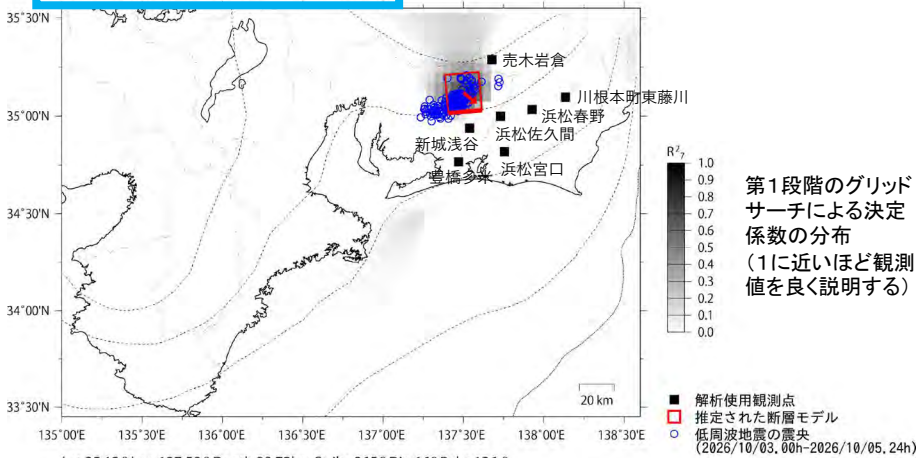


豊橋多米、西尾善明、津安濃及び熊野磯崎は産業技術総合研究所のひずみ・傾斜計である。
解析に使用したチャネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャネルに赤矢印を描画している。
低周波地震回数はゆっくりすべりを示す断層モデル周辺で発生したものを積算している。

気象庁作成

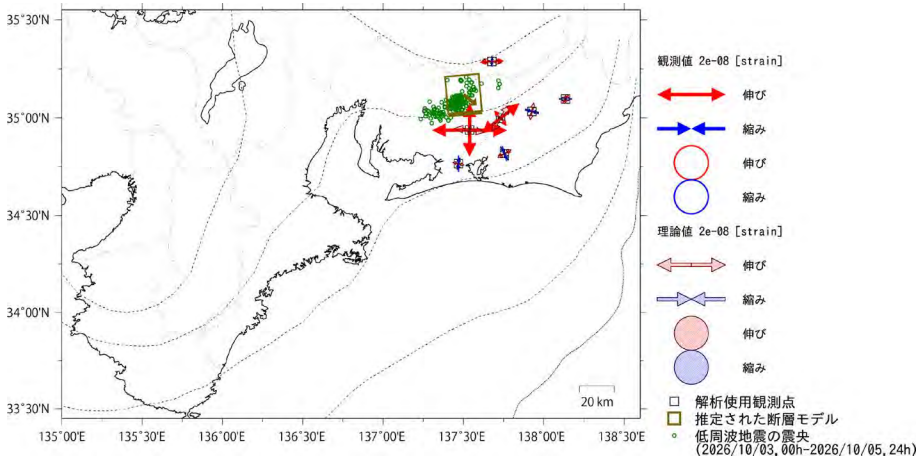
東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）

2026年10月3日0時～5日24時　Mw5.4

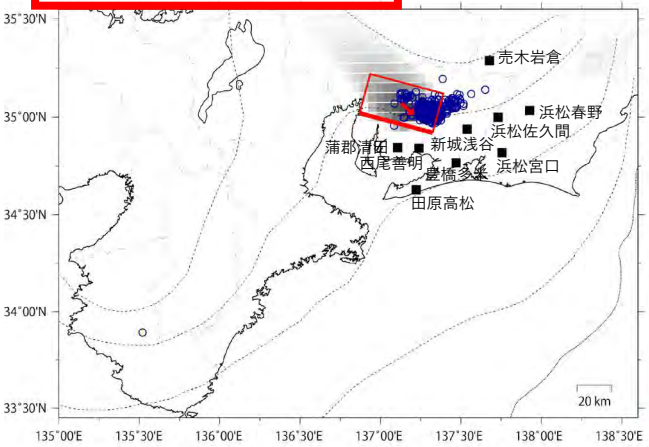


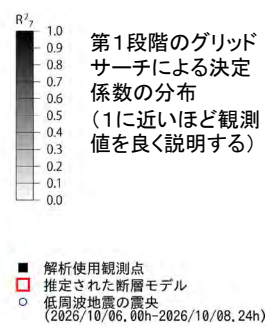
第1段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

Lat:35.12° Lon:137.50° Depth:38.72km Strike:265° Dip:16° Rake:136 °
Length:19.1km Width:22.6km Slip:9.40mm Mw:5.41 R^2_γ:0.764



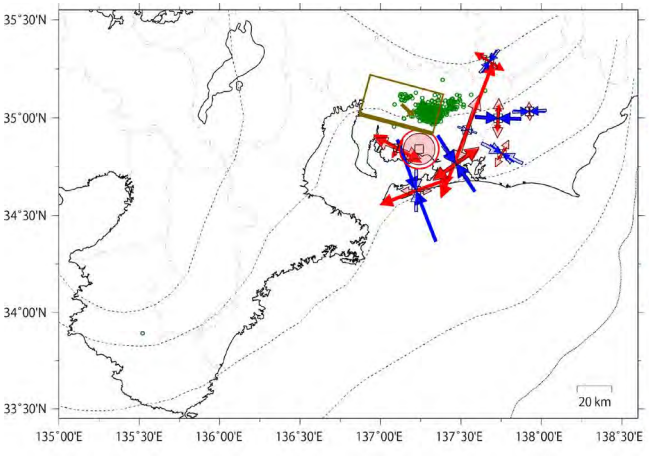
2026年10月6日0時～8日24時　Mw5.8





第1段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

Lat:35.07° Lon:137.13° Depth:38.62km Strike:285° Dip:11° Rake:152 °
Length:42.8km Width:23.5km Slip:16.90mm Mw:5.82 R^2_γ:0.822



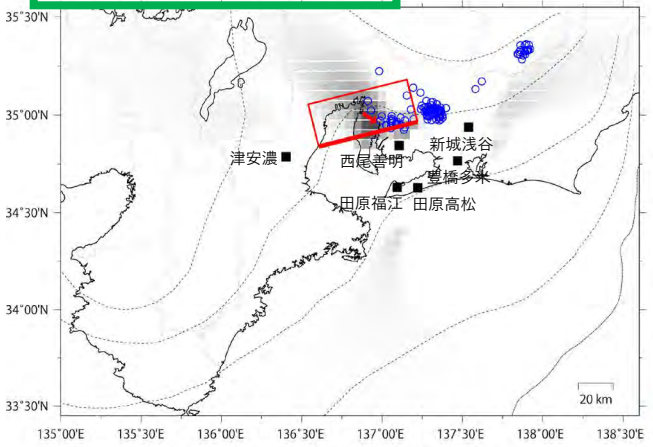
時系列図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

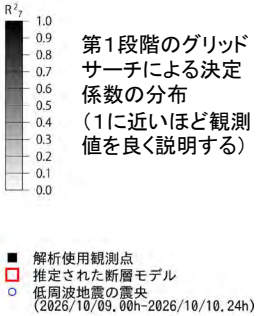
断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）

2026年10月9日0時～10日24時　Mw5.9

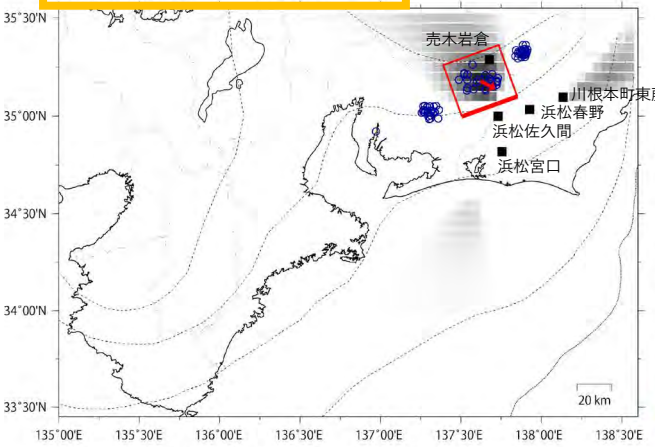




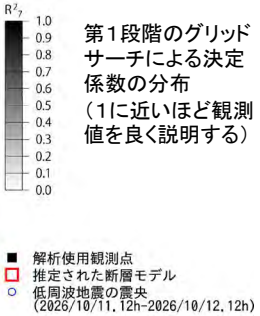
第１段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

Lat:35.01° Lon:136.88° Depth:35.46km Strike:256° Dip:8° Rake:132 °
Length:57.6km Width:25.0km Slip:16.00mm Mw:5.91 R^2_7:0.823

2026年10月11日12時～12日12時　Mw5.2

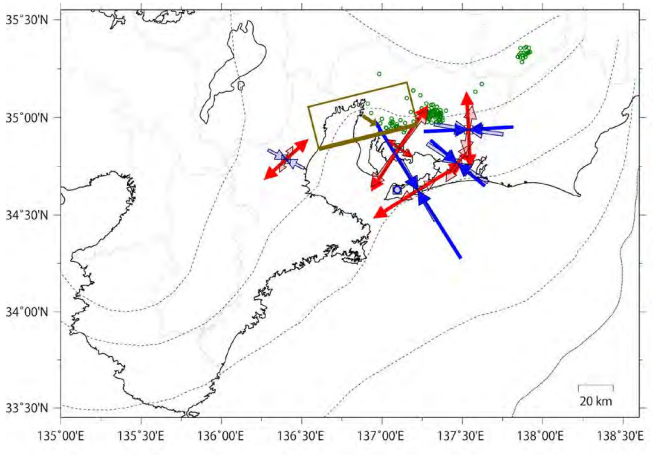


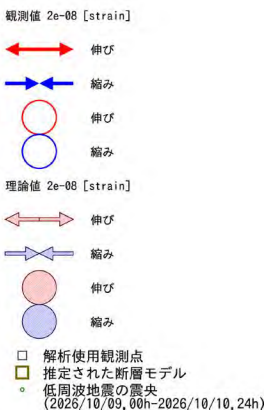
参考

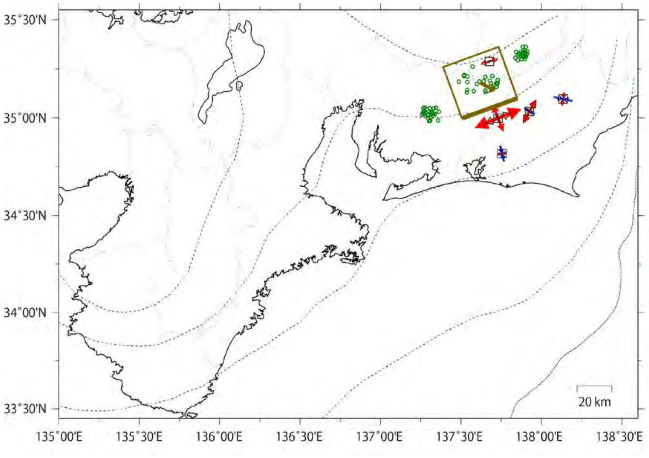


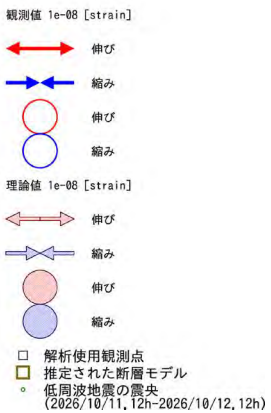
第１段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

Lat:35.18° Lon:137.62° Depth:34.95km Strike:250° Dip:21° Rake:131 °
Length:33.3km Width:33.2km Slip:1.70mm Mw:5.19 R^2_7:0.931









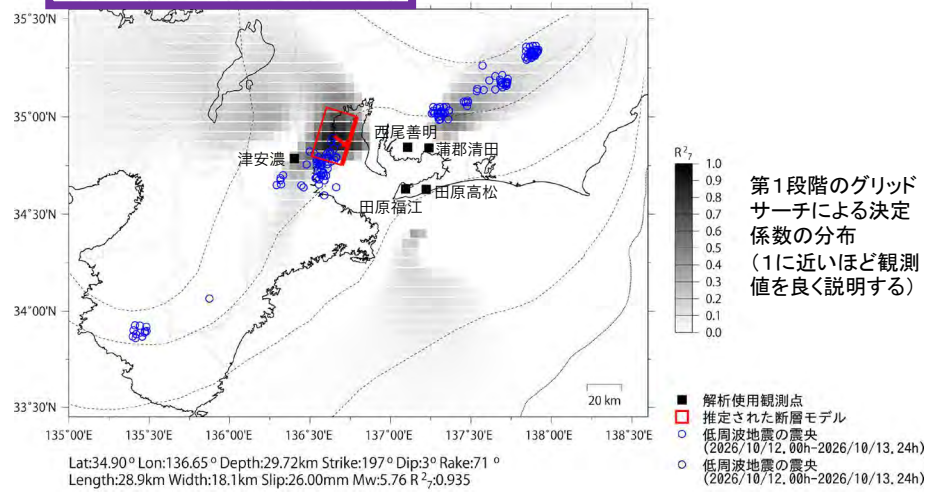
時系列図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

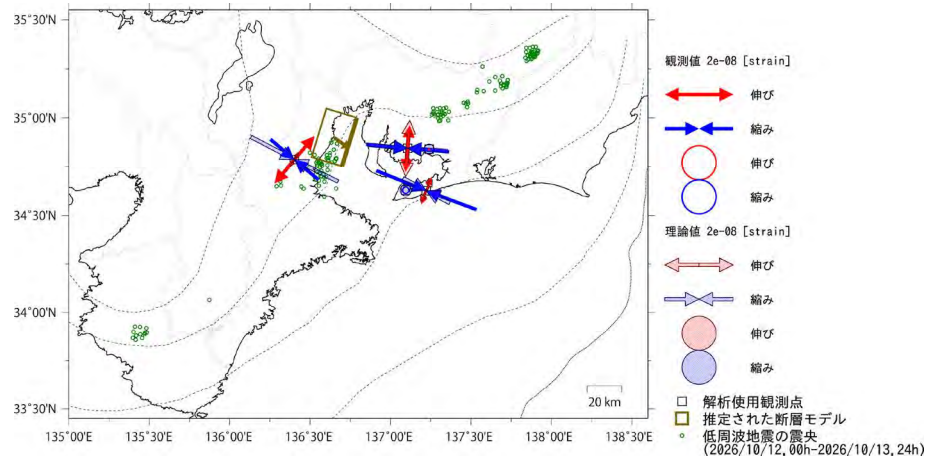
東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）

2026年10月12日0時～13日24時　Mw5.8

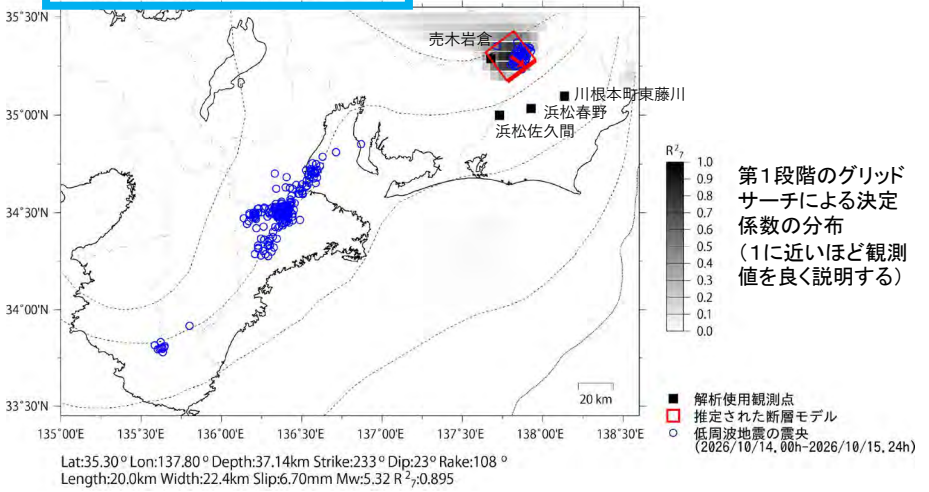


Lat:34.90° Lon:136.65° Depth:29.72km Strike:197° Dip:3° Rake:71 °
Length:28.9km Width:18.1km Slip:26.00mm Mw:5.76 R^2_7:0.935

第１段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

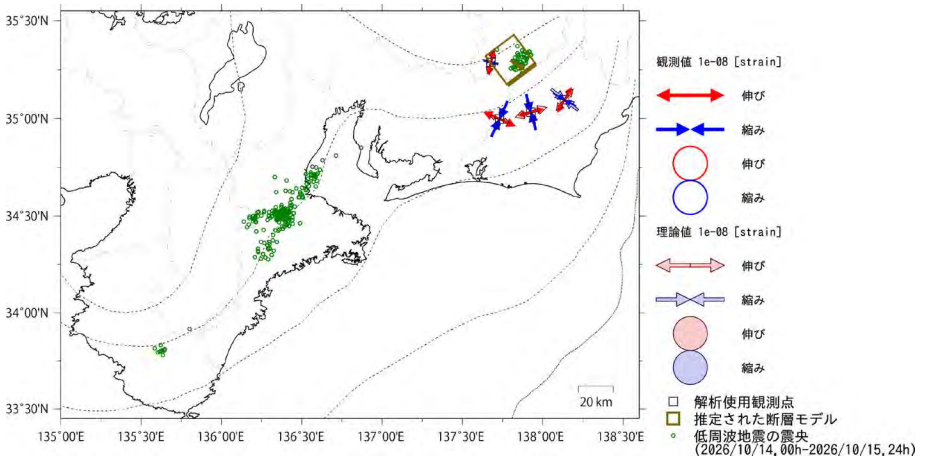


2026年10月14日0時～15日24時　Mw5.3



Lat:35.30° Lon:137.80° Depth:37.14km Strike:233° Dip:23° Rake:108 °
Length:20.0km Width:22.4km Slip:6.70mm Mw:5.32 R^2_7:0.895

第１段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

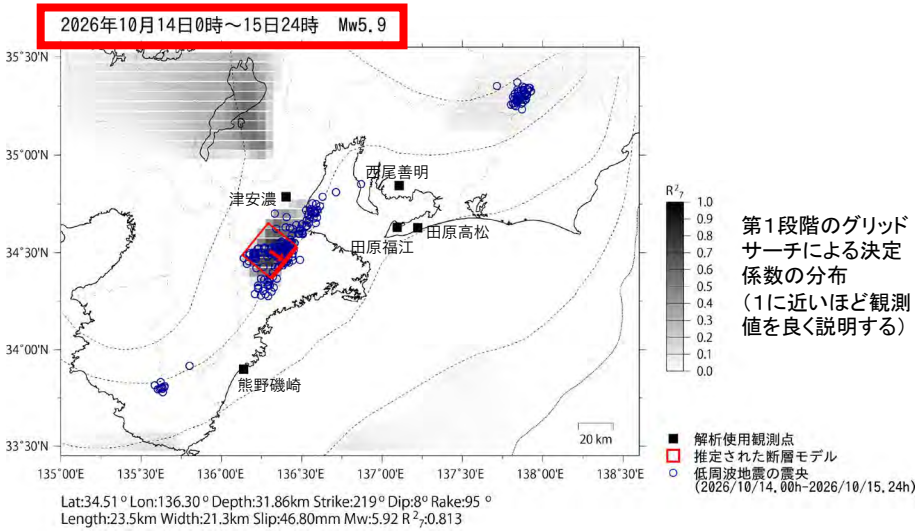


時系列図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

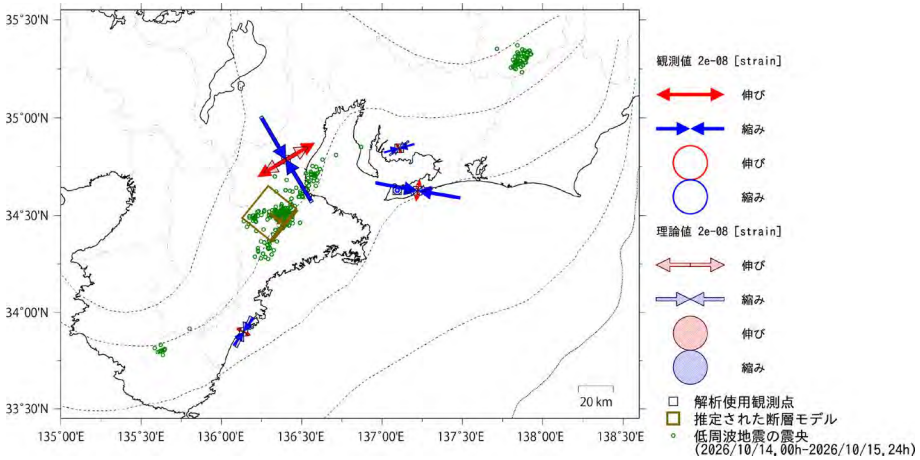
断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）



Lat:34.51° Lon:136.30° Depth:31.86km Strike:219° Dip:8° Rake:95 °
Length:23.5km Width:21.3km Slip:46.80mm Mw:5.92 R^2_7:0.813



時系列図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況
（2026 年 10 月）

● 10 月 3 ～ 17 日頃に東海地方から紀伊半島中部において，活発な微動活動.

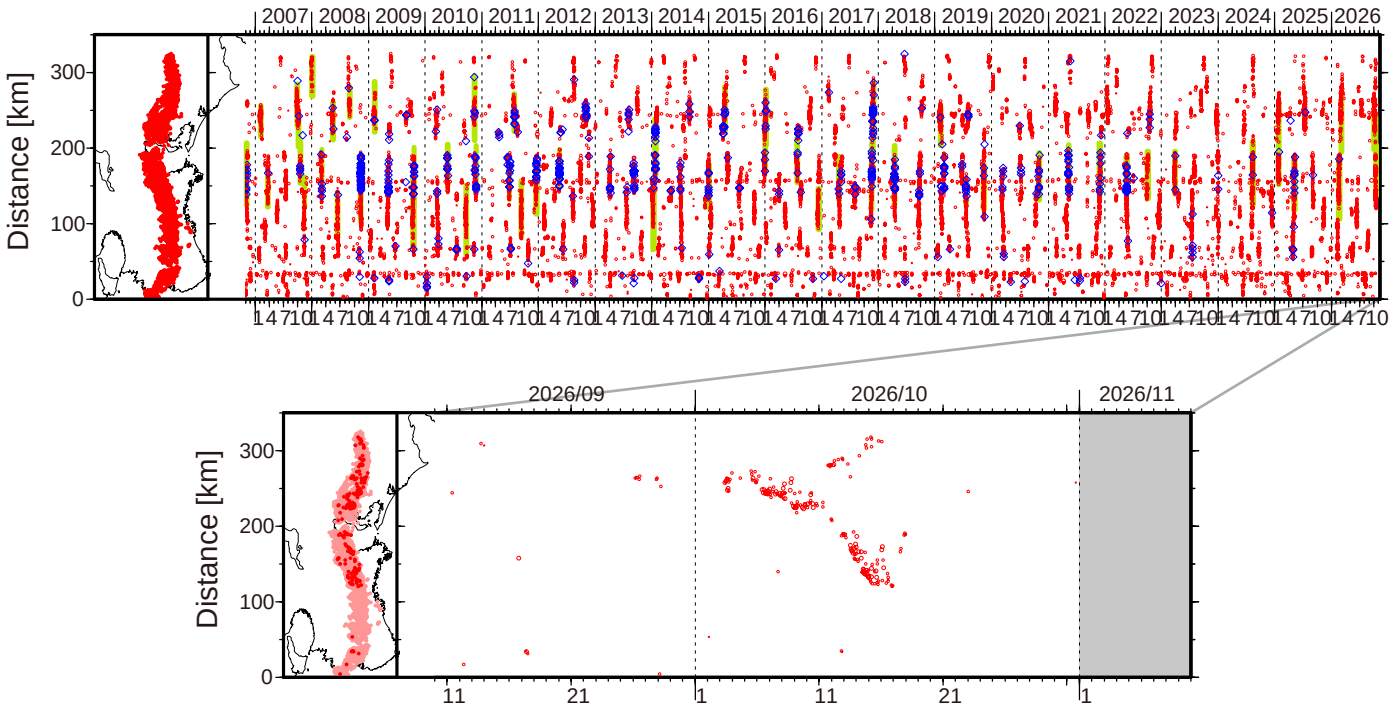


図 1．紀伊半島･東海地域における 2006 年 11 月～2026 年 10 月 31 日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）．赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって 1 時間毎に自動処理された微動分布の重心である．青菱形は周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である．黄緑色の太線はこれまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す．下図は 2026 年 10 月を中心とした期間の拡大図である．10 月 3 ～ 17 日頃には，長野県南部から三重県中部において活発な微動活動がみられた．この活動は愛知県東部で開始し，5 日頃までやや東方向に活動域が拡大した後，6 日頃から西側で活動が開始し，11 日頃まで西方向への活動域の移動がみられた．11 日頃からは，愛知・長野県境付近でも活動が開始し，15 日頃まで北東方向への活動域の移動がみられ，16 日頃に終息した．三重県北部では 12 日頃から活動の活発化がみられ，14 日頃まで南西方向への活動域の拡大がみられた．この活動に際して，傾斜変動から短期的 SSE の断層モデルも推定されている．

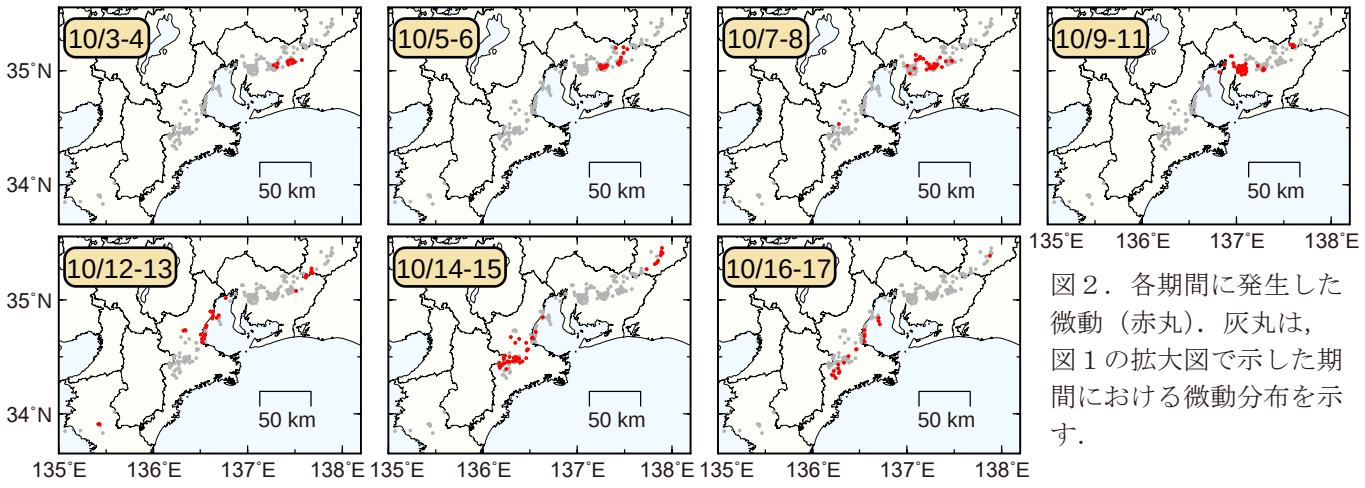


図 2．各期間に発生した微動（赤丸）．灰丸は，図 1 の拡大図で示した期間における微動分布を示す.

防災科学技術研究所資料

[A] 2026/10/03PM-05

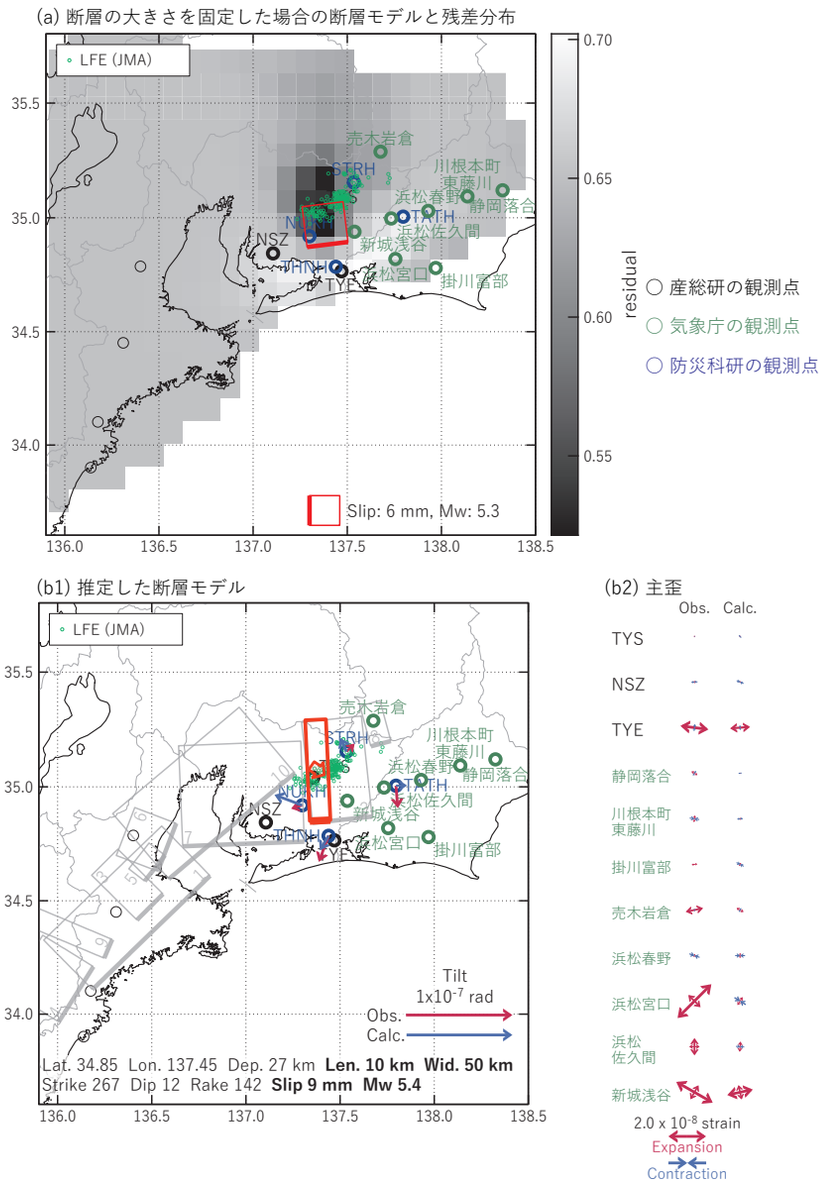


図3　2026/10/03PM-05の歪・傾斜変化（図2[A]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

1: 2025/05/05PM-09AM (Mw5.9), 2: 2025/07/07-10 (Mw5.7), 3: 2025/09/05-07 (Mw5.6), 4: 2025/02/09-12AM (Mw5.6), 5: 2026/02/19-20 (Mw5.6), 6: 2026/02/21-26 (Mw6.0), 7: 2026/03/02PM-07AM (Mw6.1), 8: 2026/03/11PM-14AM (Mw5.6), 9: 2026/06/13PM-15AM (Mw5.7), 10: 2026/09/04PM-14 (Mw6.1)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2026/10/06-07

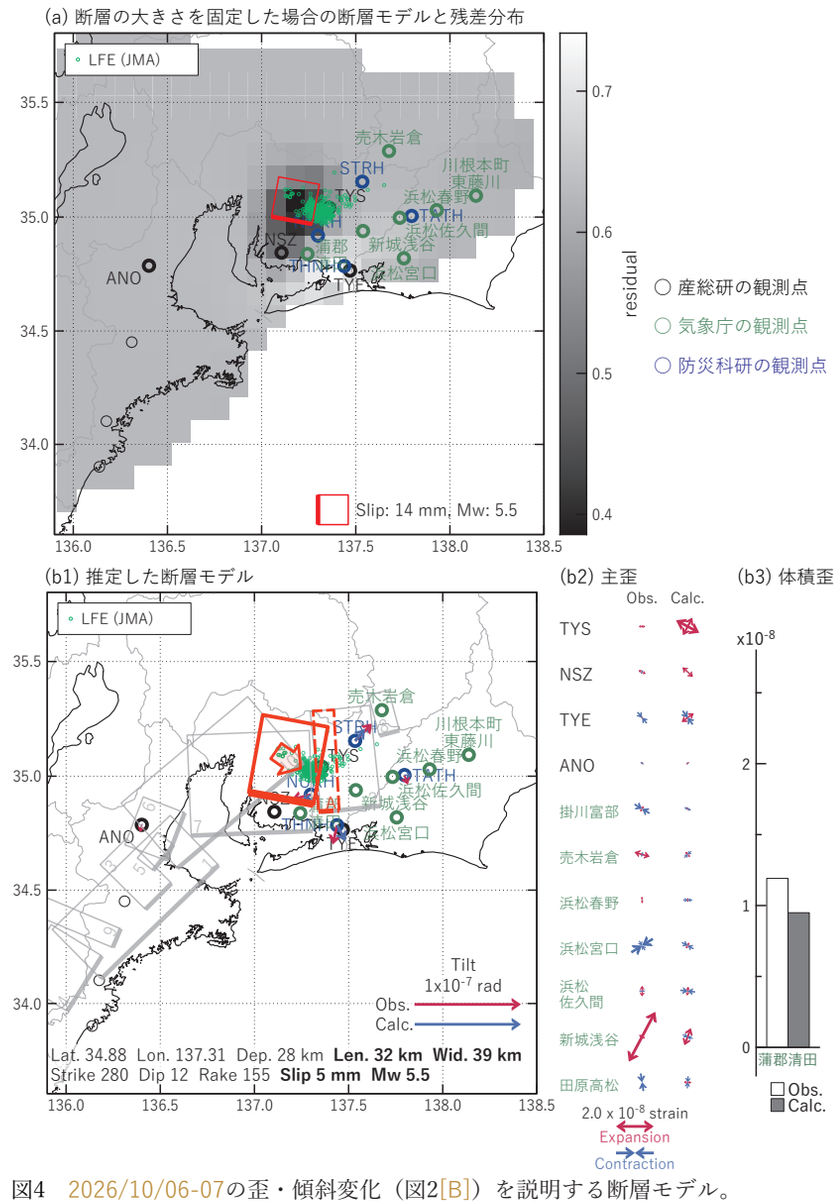


図4　2026/10/06-07の歪・傾斜変化（図2[B]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

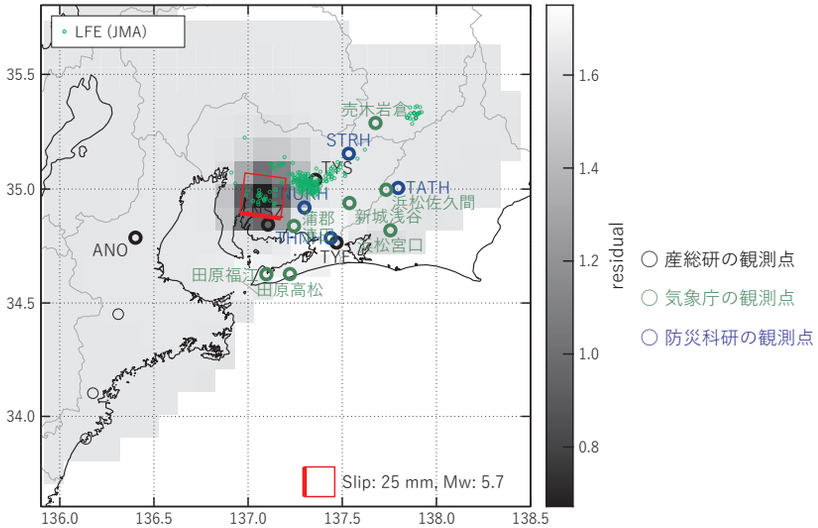
1: 2025/05/05PM-09AM (Mw5.9), 2: 2025/07/07-10 (Mw5.7), 3: 2025/09/05-07 (Mw5.6), 4: 2025/02/09-12AM (Mw5.6), 5: 2026/02/19-20 (Mw5.6), 6: 2026/02/21-26 (Mw6.0), 7: 2026/03/02PM-07AM (Mw6.1), 8: 2026/03/11PM-14AM (Mw5.6), 9: 2026/06/13PM-15AM (Mw5.7), 10: 2026/09/04PM-14 (Mw6.1), A: 2026/10/03PM-05 (Mw5.4)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

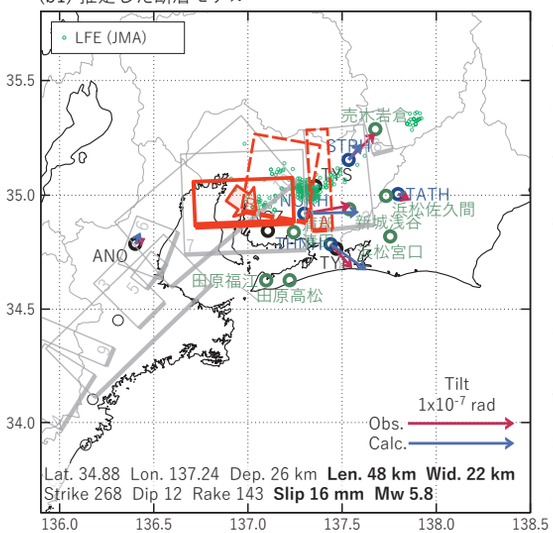
(b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[C] 2026/10/08-10

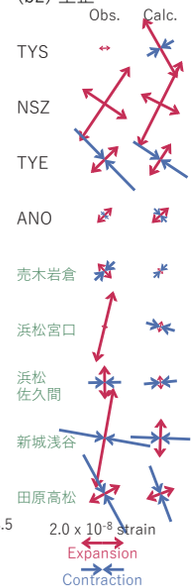
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

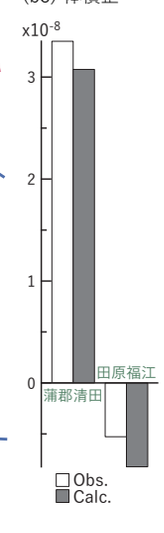


図5　2026/10/08-10の歪・傾斜変化（図2[C]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

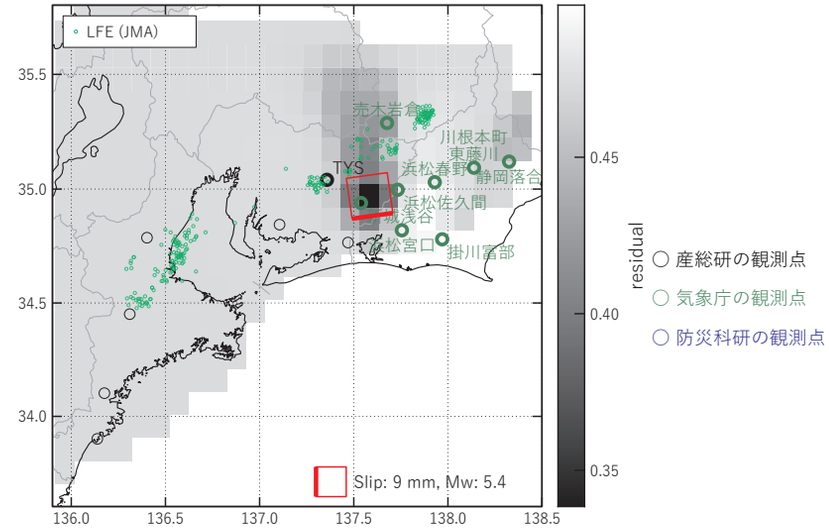
1: 2025/05/05PM-09AM (Mw5.9), 2: 2025/07/07-10 (Mw5.7), 3: 2025/09/05-07 (Mw5.6), 4: 2025/02/09-12AM (Mw5.6), 5: 2026/02/19-20 (Mw5.6), 6: 2026/02/21-26 (Mw6.0), 7: 2026/03/02PM-07AM (Mw6.1), 8: 2026/03/11PM-14AM (Mw5.6), 9: 2026/06/13PM-15AM (Mw5.7), 10: 2026/09/04PM-14 (Mw6.1)，A: 2026/10/03PM-05 (Mw5.4), B: 2026/10/06-07 (Mw5.5)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

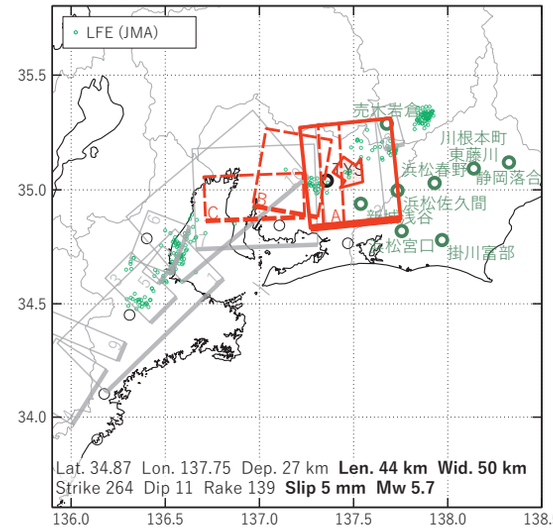
(b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[D1] 2026/10/11-14AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



図6　2026/10/11-14AMの歪変化（図2[D1]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

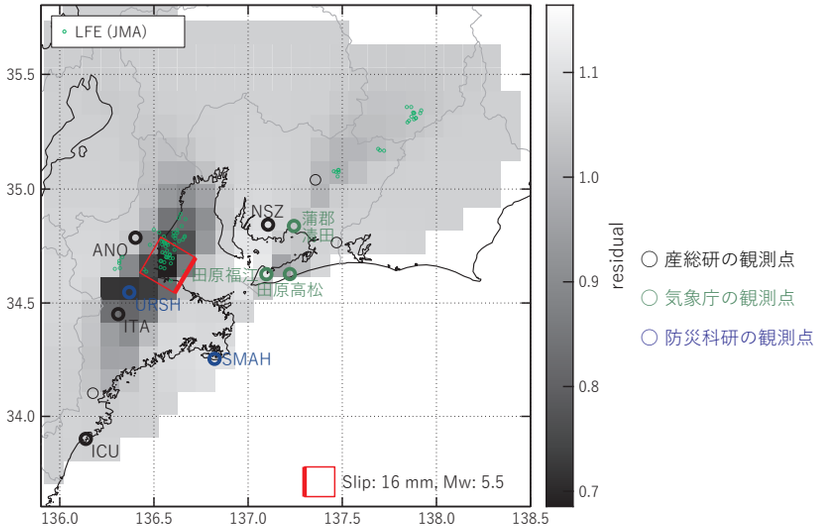
(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

1: 2025/05/05PM-09AM (Mw5.9), 2: 2025/07/07-10 (Mw5.7), 3: 2025/09/05-07 (Mw5.6), 4: 2025/02/09-12AM (Mw5.6), 5: 2026/02/19-20 (Mw5.6), 6: 2026/02/21-26 (Mw6.0), 7: 2026/03/02PM-07AM (Mw6.1), 8: 2026/03/11PM-14AM (Mw5.6), 9: 2026/06/13PM-15AM (Mw5.7), 10: 2026/09/04PM-14 (Mw6.1)，A: 2026/10/03PM-05 (Mw5.4), B: 2026/10/06-07 (Mw5.5), C: 2026/10/08-10 (Mw5.8)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

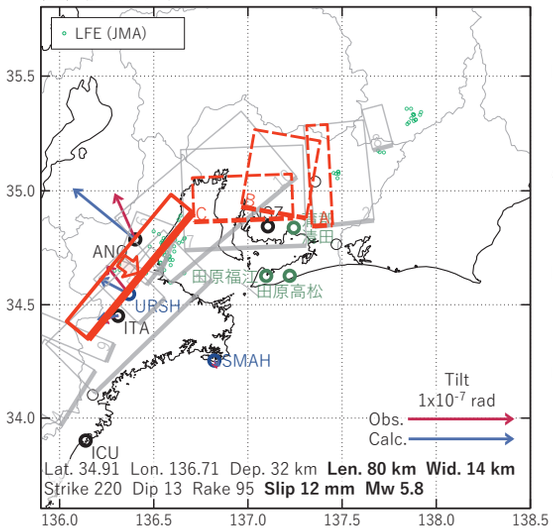
[D2] 2026/10/12PM-13

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布

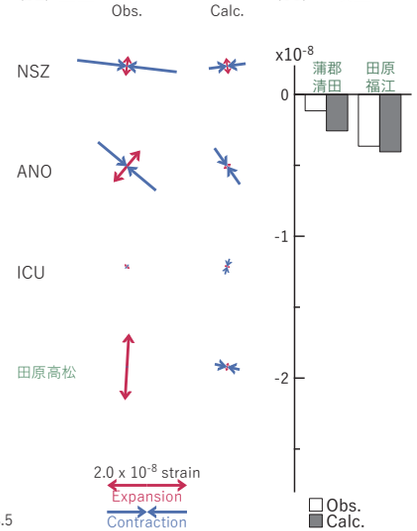


○ 産総研の観測点
○ 気象庁の観測点
○ 防災科研の観測点

(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

図7　2026/10/12PM-13の歪・傾斜変化（図2[D2]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

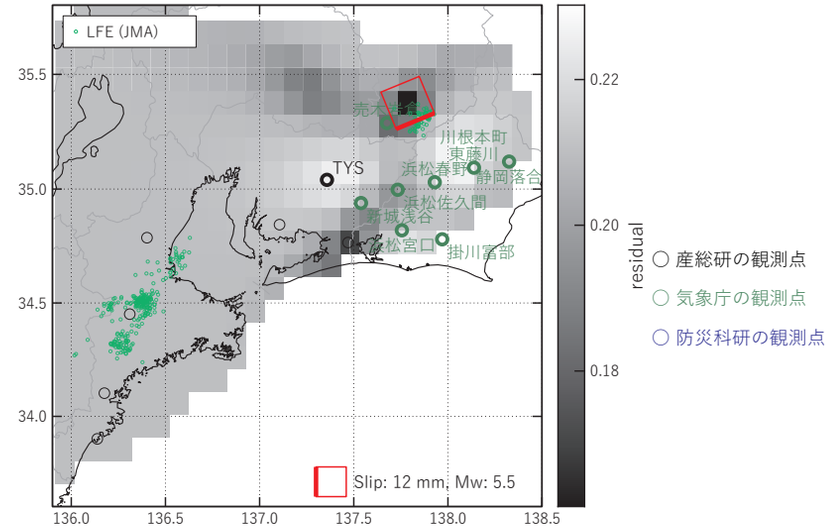
1: 2025/05/05PM-09AM (Mw5.9), 2: 2025/07/07-10 (Mw5.7), 3: 2025/09/05-07 (Mw5.6), 4: 2025/02/09-12AM (Mw5.6), 5: 2026/02/19-20 (Mw5.6), 6: 2026/02/21-26 (Mw6.0), 7: 2026/03/02PM-07AM (Mw6.1), 8: 2026/03/11PM-14AM (Mw5.6), 9: 2026/06/13PM-15AM (Mw5.7), 10: 2026/09/04PM-14 (Mw6.1), A: 2026/10/03PM-05 (Mw5.4), B: 2026/10/06-07 (Mw5.5), C: 2026/10/08-10 (Mw5.8)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

(b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

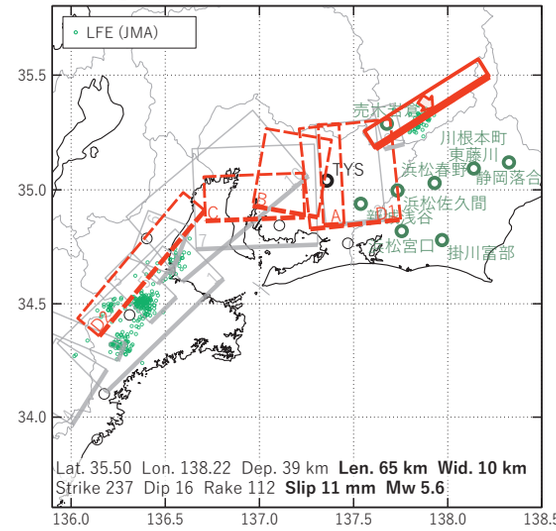
[E1] 2026/10/14PM-16

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



○ 産総研の観測点
○ 気象庁の観測点
○ 防災科研の観測点

(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



図8　2026/10/14PM-16の歪変化（図2[E1]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

1: 2025/05/05PM-09AM (Mw5.9), 2: 2025/07/07-10 (Mw5.7), 3: 2025/09/05-07 (Mw5.6), 4: 2025/02/09-12AM (Mw5.6), 5: 2026/02/19-20 (Mw5.6), 6: 2026/02/21-26 (Mw6.0), 7: 2026/03/02PM-07AM (Mw6.1), 8: 2026/03/11PM-14AM (Mw5.6), 9: 2026/06/13PM-15AM (Mw5.7), 10: 2026/09/04PM-14 (Mw6.1), A: 2026/10/03PM-05 (Mw5.4), B: 2026/10/06-07 (Mw5.5), C: 2026/10/08-10 (Mw5.8), D1: 2026/10/11-14AM (Mw5.7), D2: 2026/10/12PM-13 (Mw5.8)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[E2] 2026/10/14-16

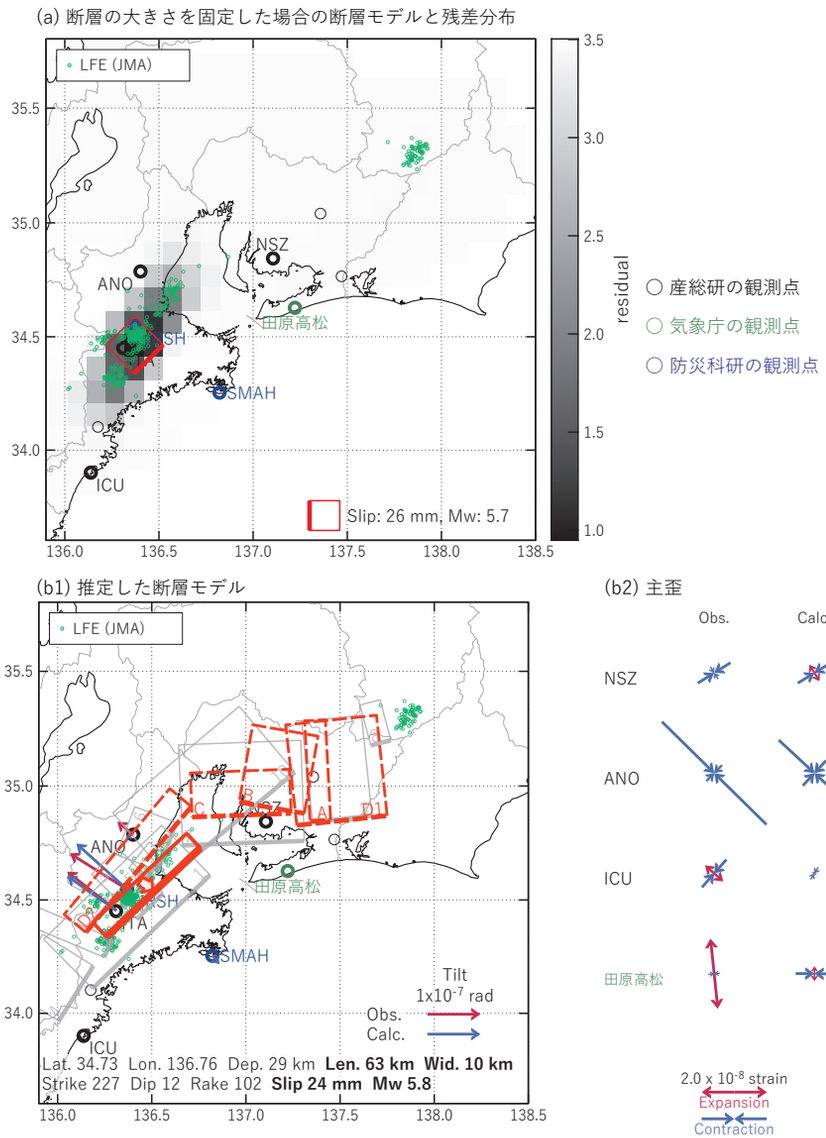


図9　2026/10/14-16の歪・傾斜変化（図2[E2]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

1: 2025/05/05PM-09AM (Mw5.9), 2: 2025/07/07-10 (Mw5.7), 3: 2025/09/05-07 (Mw5.6), 4: 2025/02/09-12AM (Mw5.6), 5: 2026/02/19-20 (Mw5.6), 6: 2026/02/21-26 (Mw6.0), 7: 2026/03/02PM-07AM (Mw6.1), 8: 2026/03/11PM-14AM (Mw5.6), 9: 2026/06/13PM-15AM (Mw5.7), 10: 2026/09/04PM-14 (Mw6.1), A: 2026/10/03PM-05 (Mw5.4), B: 2026/10/06-07 (Mw5.5), C: 2026/10/08-10 (Mw5.8), D1: 2026/10/11-14AM (Mw5.7), D2: 2026/10/12PM-13 (Mw5.8)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

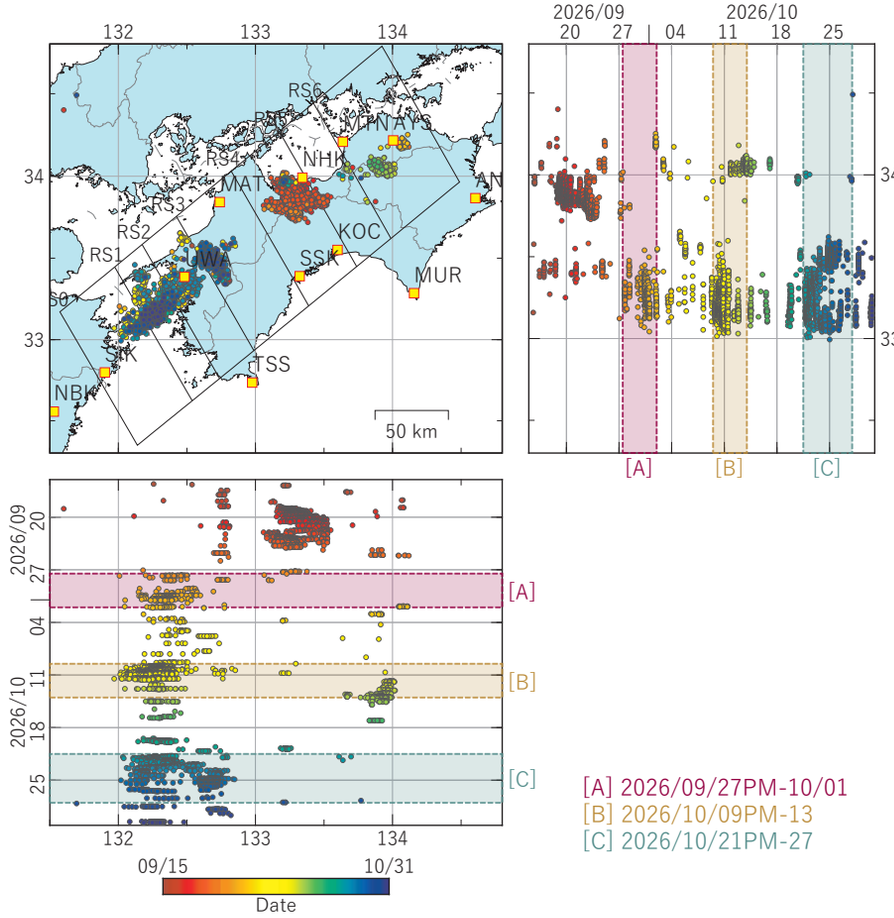


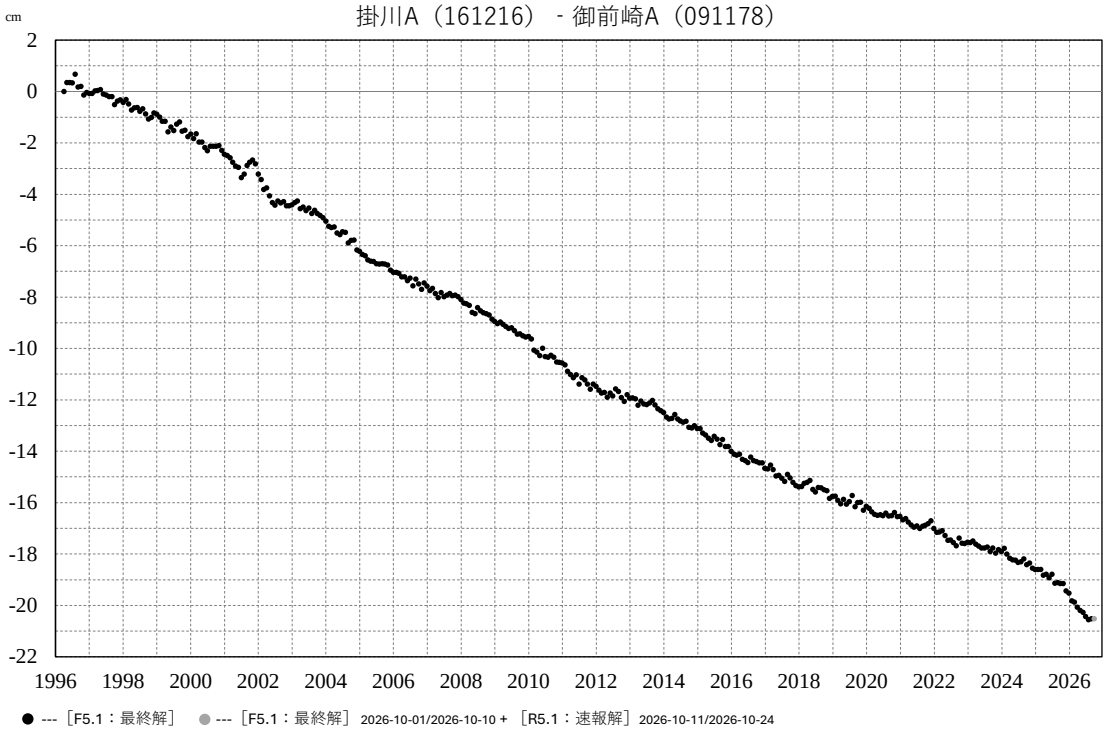
図10　四国地方における低周波地震の時空間分布図（2026/09/15 00:00 - 2026/10/31 00:00 (JST)）。気象庁カタログによる。

（観測点名）ANK: 阿南桑野, MUR: 室戸岬, AYS: 綾川千疋, MTN: 三豊仁尾, NHK: 新居浜黒島, KOC: 高知五台山, SSK: 須崎大谷, TSS: 土佐清水松尾, MAT: 松山南江戸, UWA: 西予宇和, SIK: 佐伯蒲江, NBK: 延岡北方

御前崎　電子基準点の上下変動

水準測量とGNSS連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。



- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値（F5.1:最終解 及び R5.1:速報解）から計算した値の月平均値.

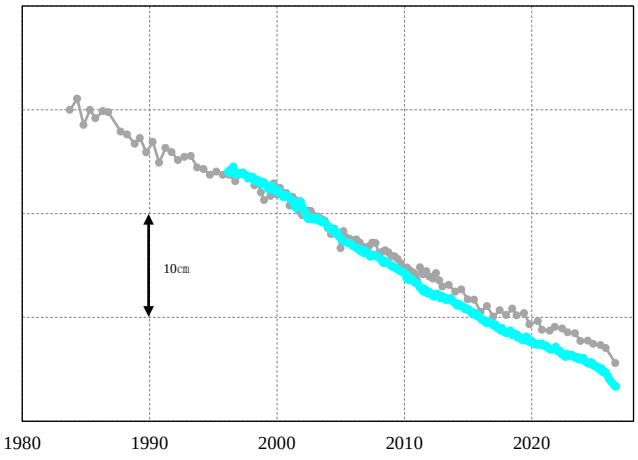
※ 2009 年8 月11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準点との比高の差を用いて補正を行った。

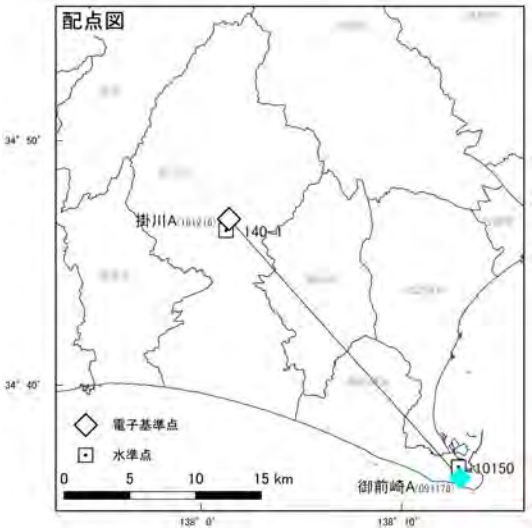
※ 電子基準点「御前崎Ａ」については、2010 年3 月23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用.

※ 電子基準点「掛川Ａ」については、2017 年1 月29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用.

※ 2026年初頭頃から見られる沈降速度の増加は、東海地方の長期的ゆっくりすべりのすべりの中心が浜名湖の東側へ移動していることに伴う電子基準点「掛川A」等での変動の影響によるものである.

【長期間の上下変動】「固定局：掛川A（161216）」



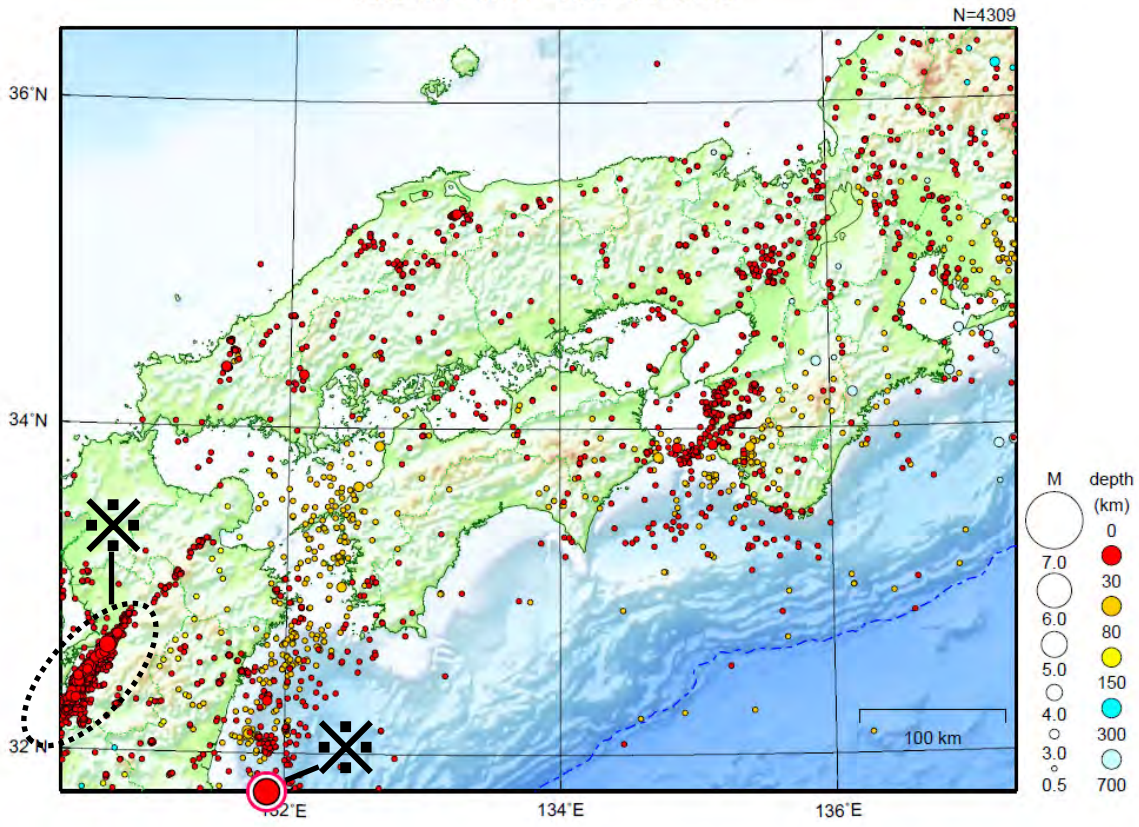


- 水色のプロットは上記のGEONET による日々の座標値の月平均値.
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「10150」の水準測量結果を示している（固定：140-1）.

国土地理院

近畿・中国・四国地方

2026/10/01 00:00 ~ 2026/10/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

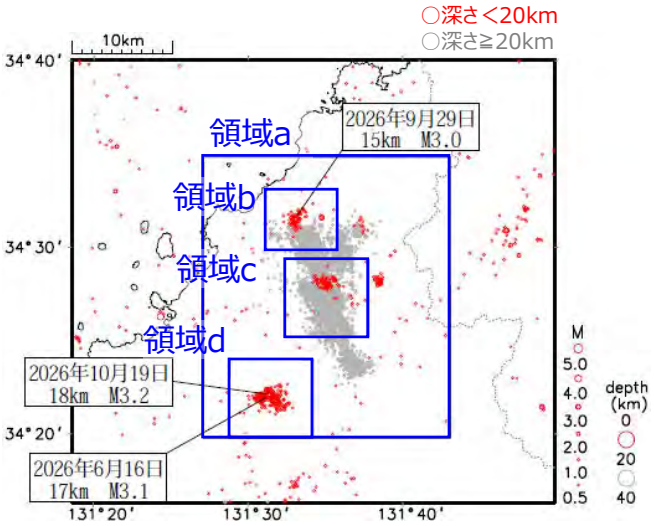
※で示した地震については九州地方の資料を参照。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

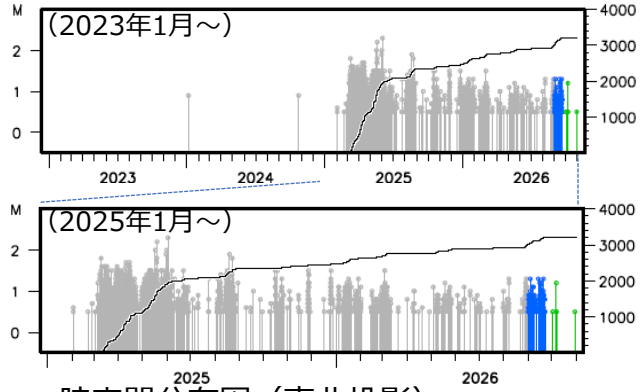
山口県北部の地震活動

震央分布図
2023年1月1日～2026年10月31日、
深さ0～40km、M≧0.5

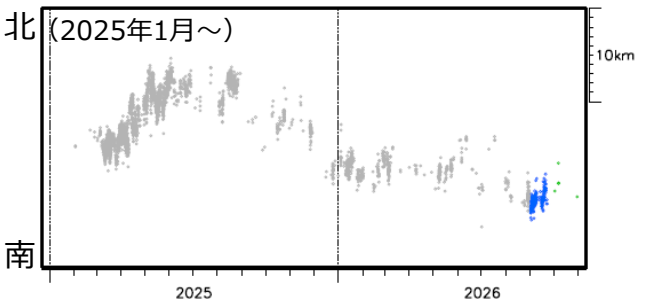


【領域a（深さ20km～40km）】 ●～2026年8月 ●2026年9月 ●2026年10月

MT図＋回数積算図



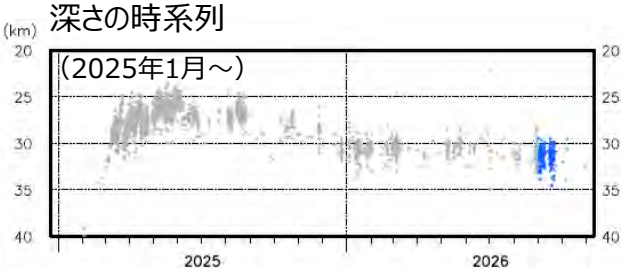
時空間分布図（南北投影）



山口県北部の領域aでは、2025年２月から地殻下部の深さ25㎞程度から35km程度でまとまった地震活動が継続している。2025年２月以降の地震活動で、最大規模の地震は、2025年６月２日09時39分に深さ25kmで発生したM2.3の地震である。2026年10月末現在、震度１以上を観測した地震は発生していない。

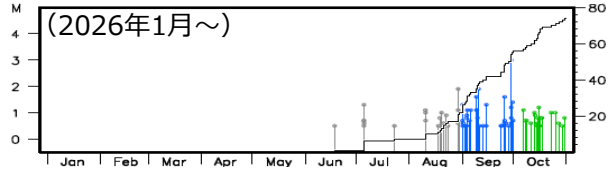
山口県北部の地殻内の深さ20km以浅では、2025年半ば頃からまとまった地震活動が継続している。領域bでは2026年9月29日に発生したM3.0の地震で最大震度１を観測した。領域dでは2026年6月16日に発生したM3.1の地震、10月19日に発生したM3.2の地震で最大震度１を観測した。

深さの時系列

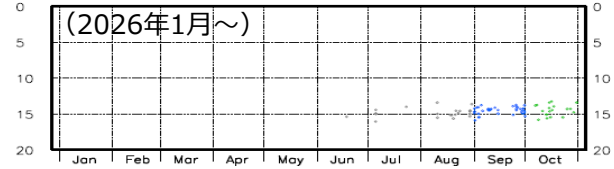


【領域b（深さ0km～20km）】 ●～2026年8月 ●2026年9月 ●2026年10月

MT図＋回数積算図

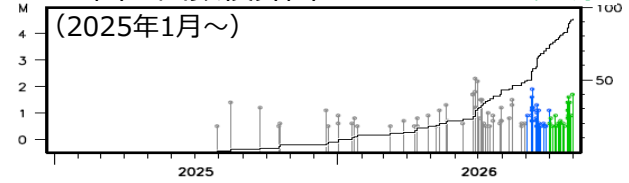


深さの時系列

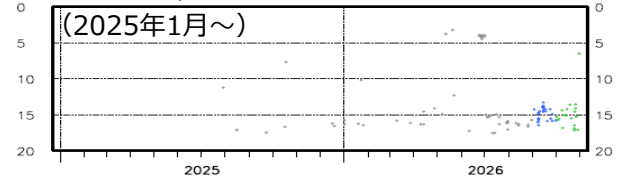


【領域c（深さ0km～20km）】 ●～2026年7月8 ●2026年9月 ●2026年10月

MT図＋回数積算図

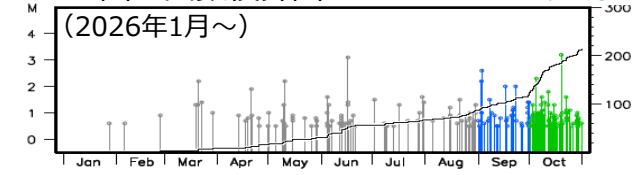


深さの時系列

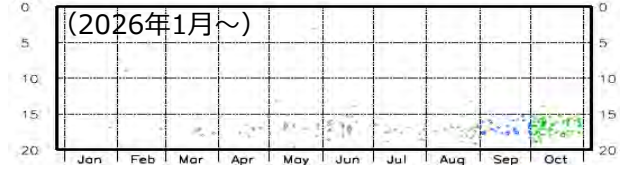


【領域d（深さ0km～20km）】 ●～2026年8月 ●2026年9月 ●2026年10月

MT図＋回数積算図



深さの時系列



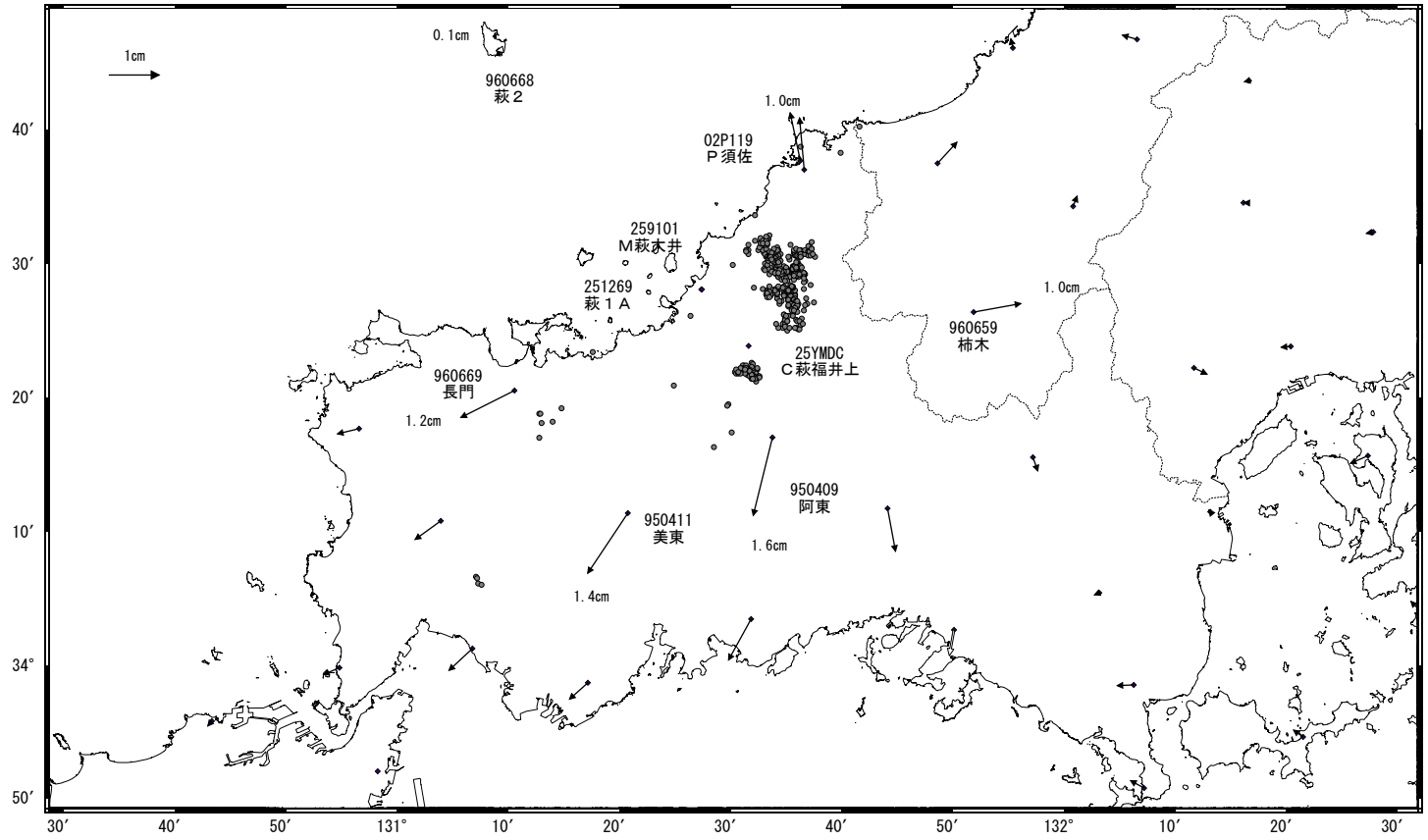
気象庁作成

山口県北部の地震活動域周辺の地殻変動(暫定)

地殻変動

基準期間:2025-01-01～2025-01-07[F5.1:最終解]
比較期間:2026-10-19～2026-10-25[R5.1:速報解]

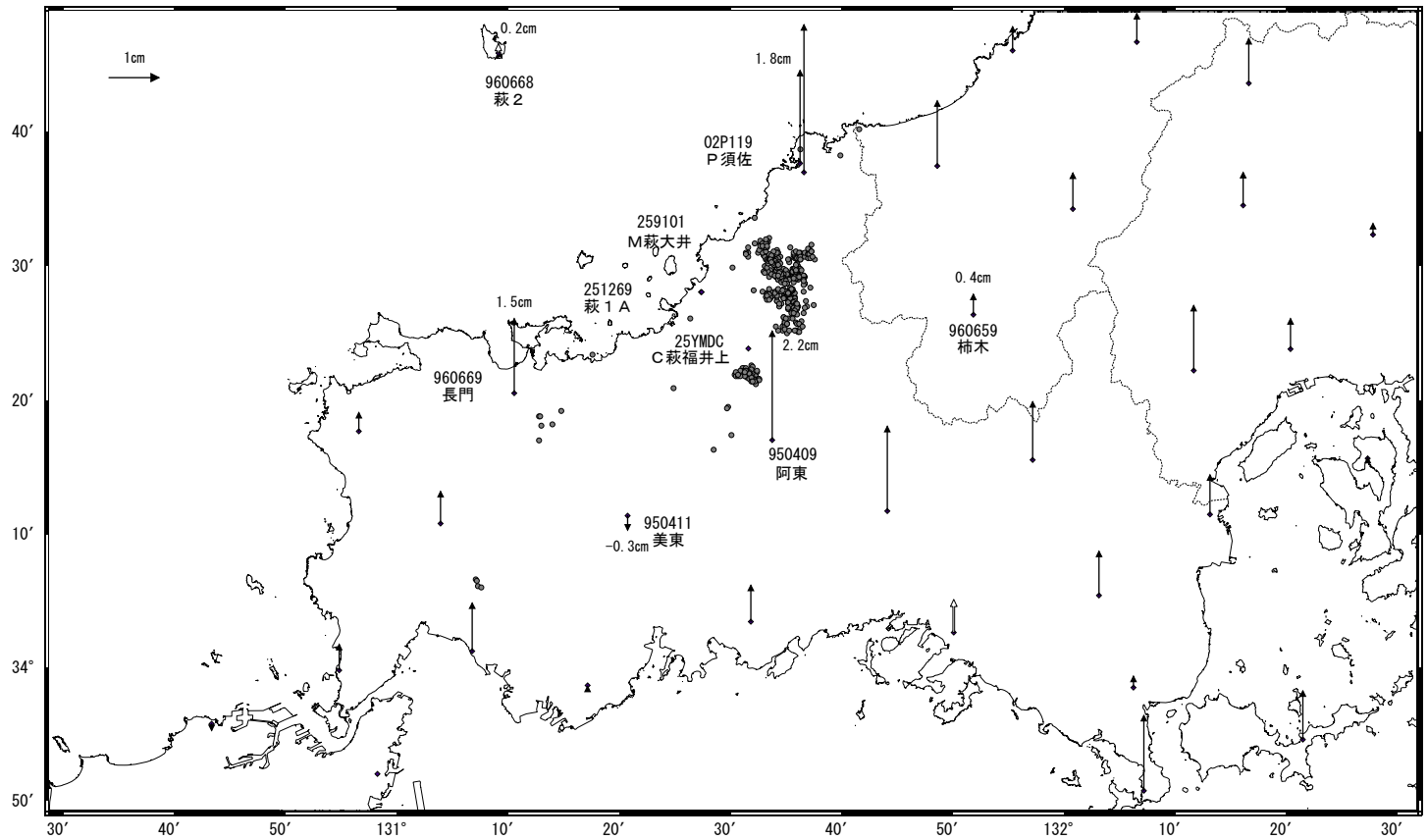
計算期間:2017-01-01～2020-01-01



● 震央 (M1以上の地震)
☆ 固定局:上対馬(950456)(長崎県)

基準期間:2025-01-01～2025-01-07[F5.1:最終解]
比較期間:2026-10-19～2026-10-25[R5.1:速報解]

計算期間:2017-01-01～2020-01-01



● 震央 (M1以上の地震)
☆ 固定局:上対馬(950456)(長崎県)

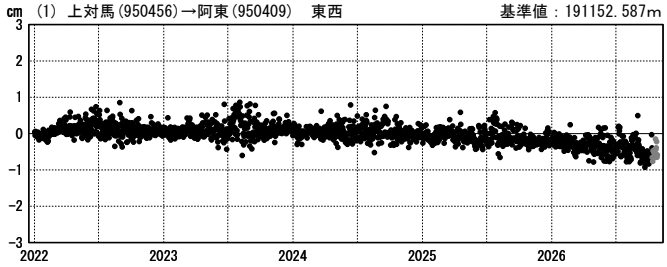
※C萩福井上、M萩大井、萩１Aは基準期間のデータが存在しない。

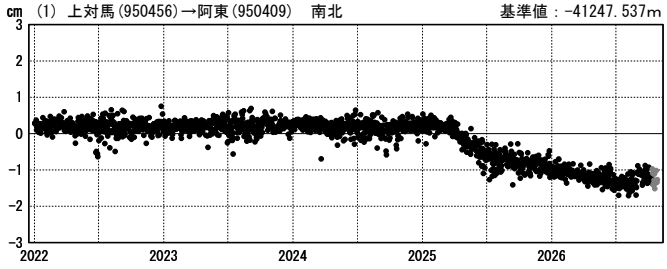
国土地理院

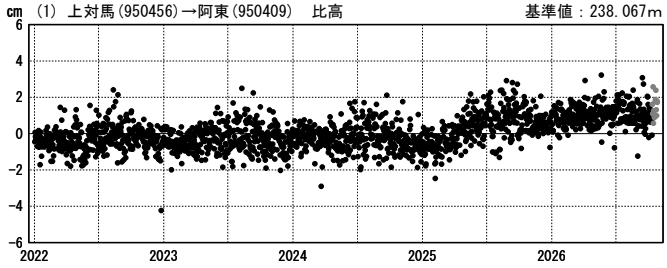
１次トレンド除去後グラフ

計算期間: 2017-01-01～2020-01-01

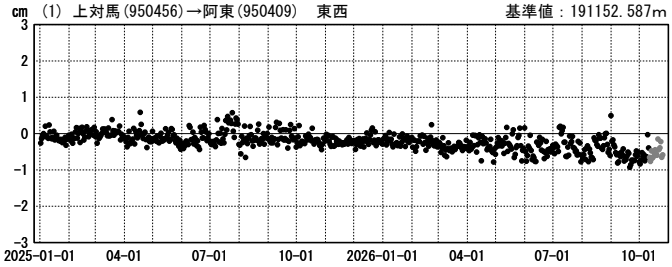
期間: 2022-01-01～2026-10-25 JST

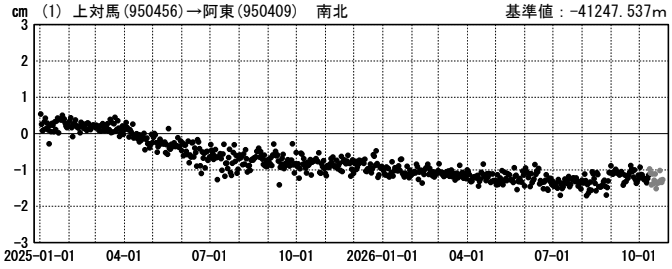


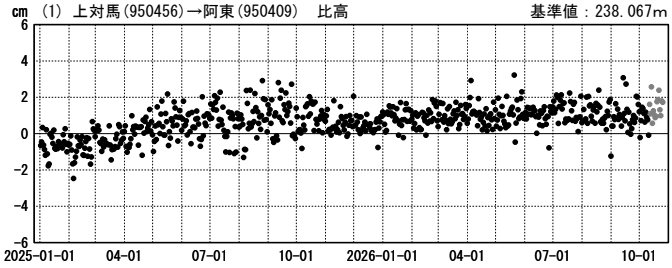




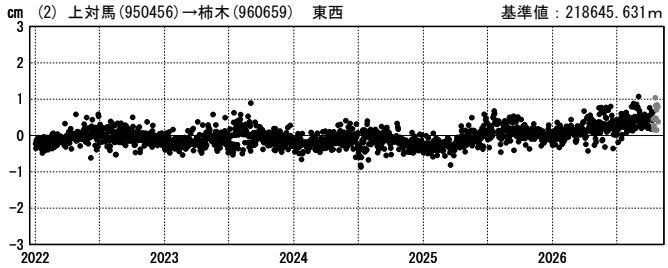
期間: 2025-01-01～2026-10-25 JST

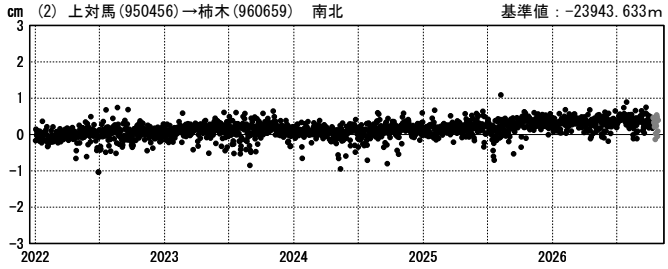


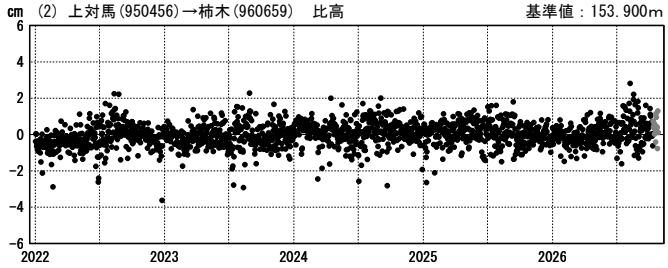




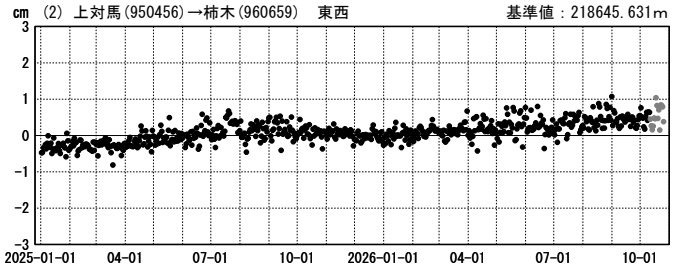
期間: 2022-01-01～2026-10-25 JST

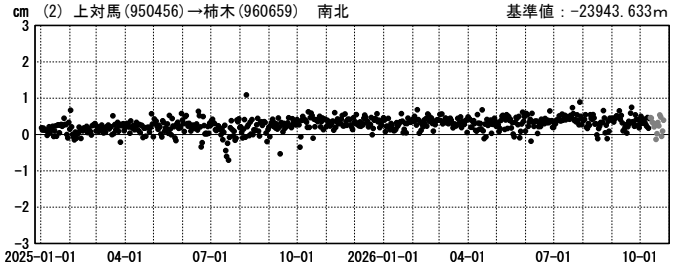


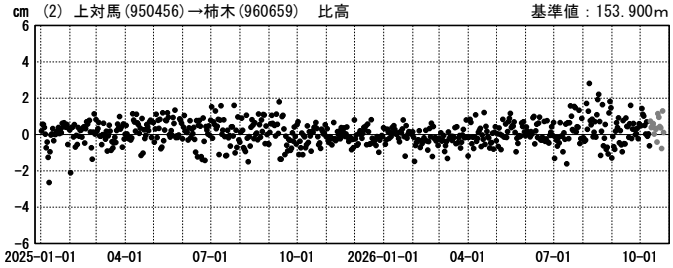




期間: 2025-01-01～2026-10-25 JST







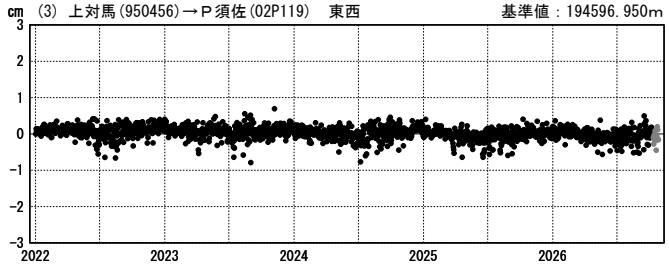
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

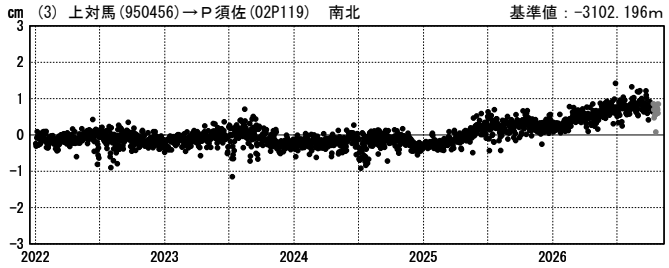
国土地理院

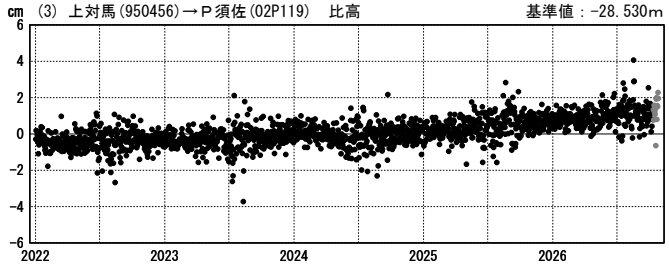
１次トレンド除去後グラフ

計算期間: 2017-01-01～2020-01-01

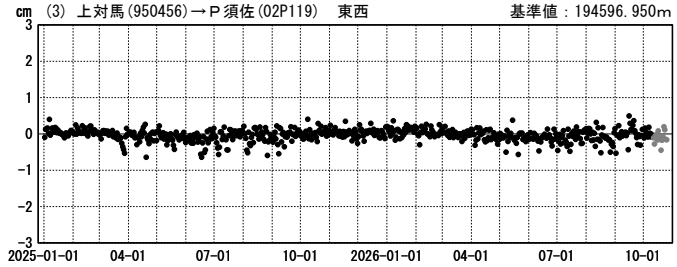
期間: 2022-01-01～2026-10-25 JST

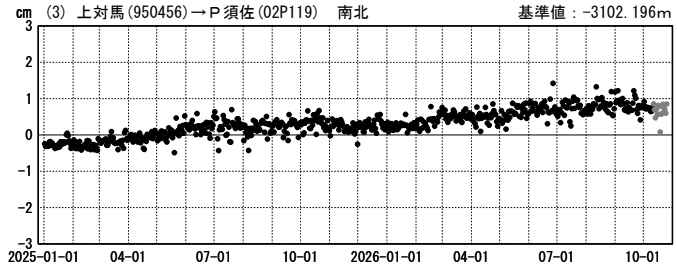


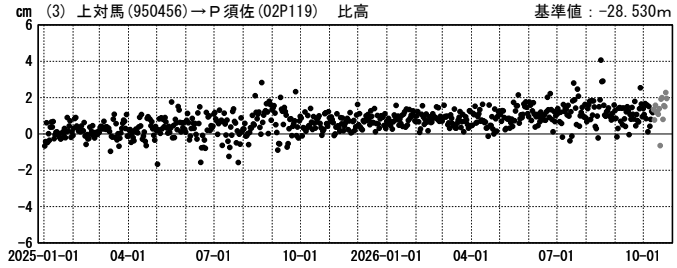




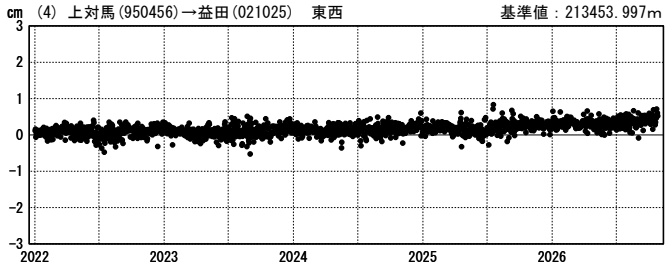
期間: 2025-01-01～2026-10-25 JST

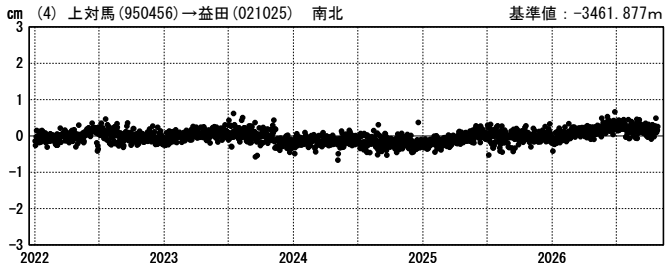


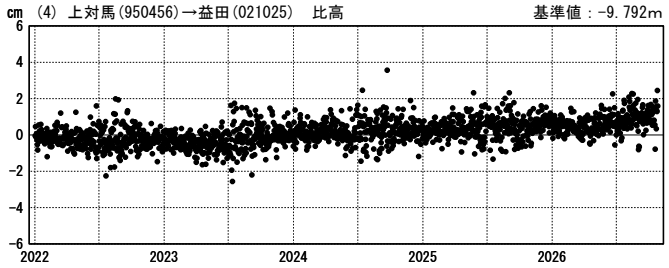




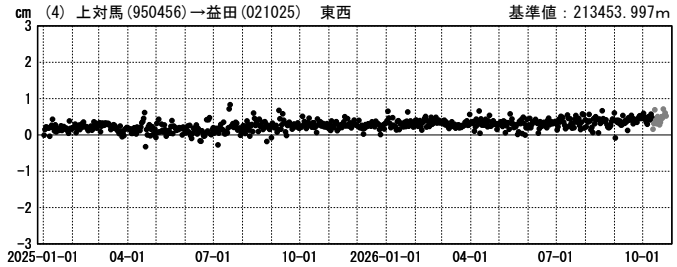
期間: 2022-01-01～2026-10-25 JST

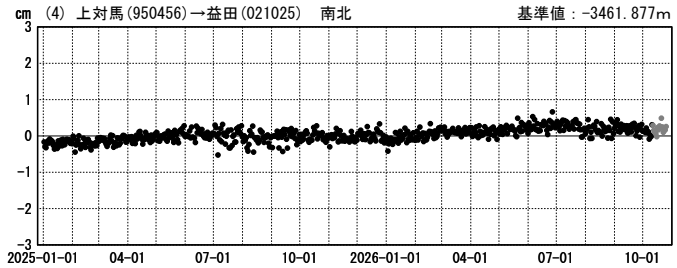


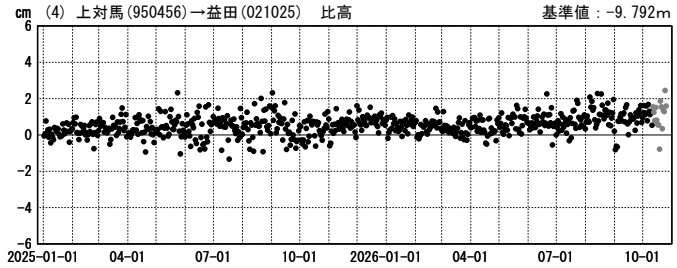




期間: 2025-01-01～2026-10-25 JST







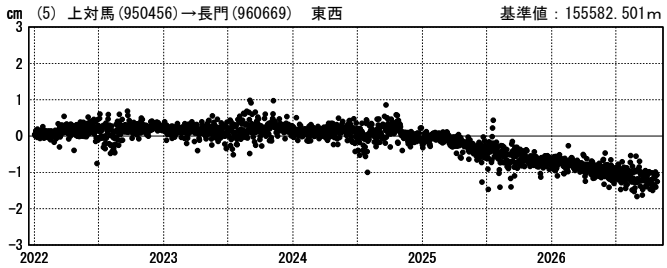
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

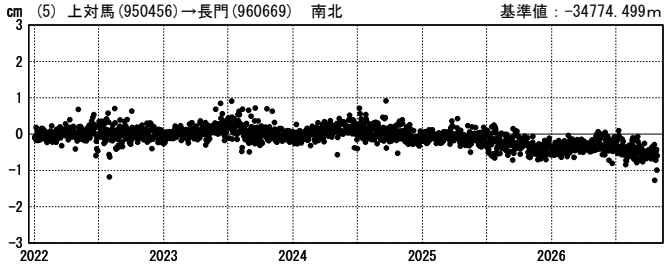
国土地理院

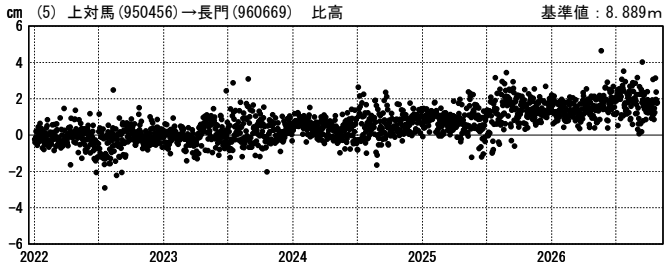
１次トレンド除去後グラフ

計算期間: 2017-01-01～2020-01-01

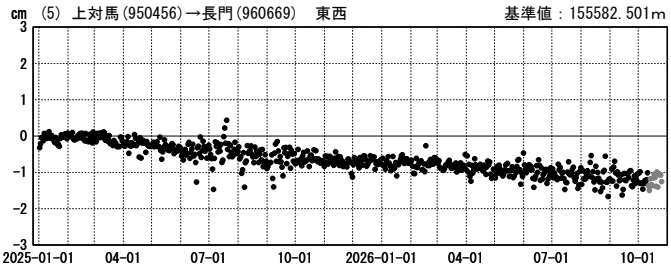
期間: 2022-01-01～2026-10-25 JST

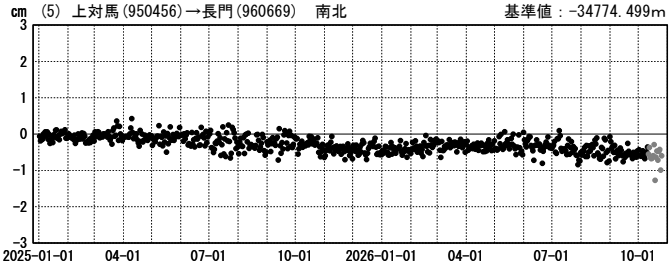


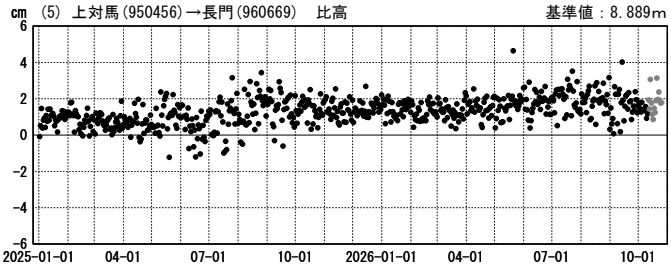




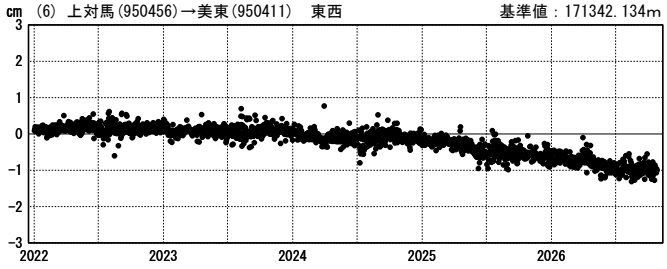
期間: 2025-01-01～2026-10-25 JST

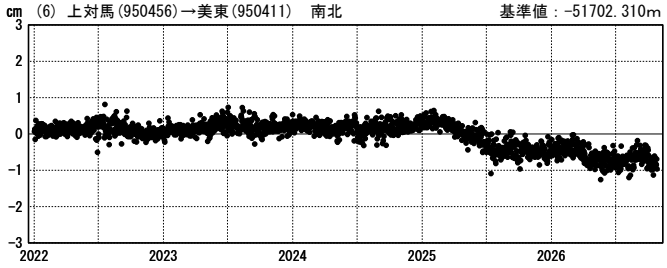


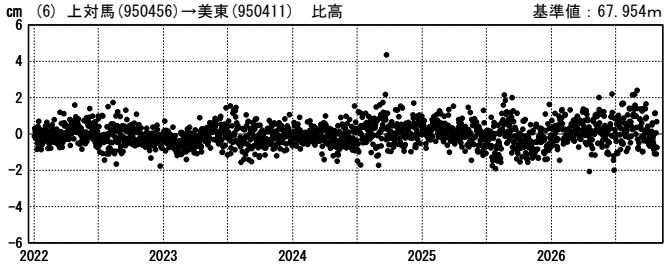




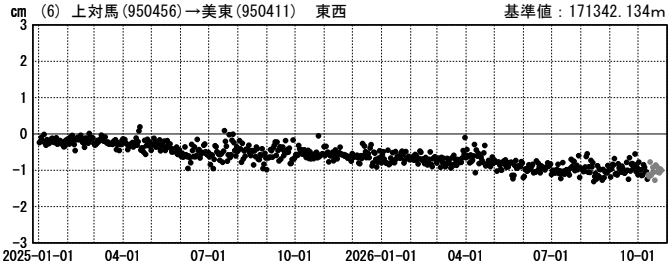
期間: 2022-01-01～2026-10-25 JST

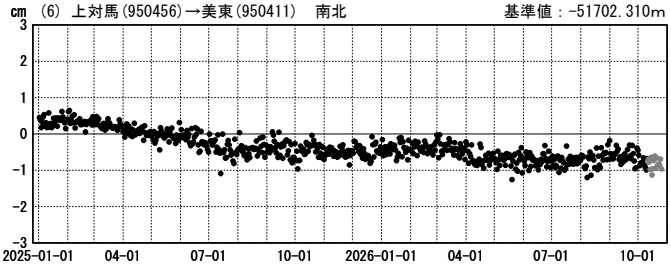


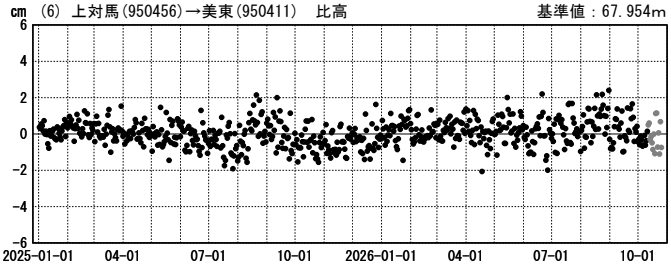




期間: 2025-01-01～2026-10-25 JST







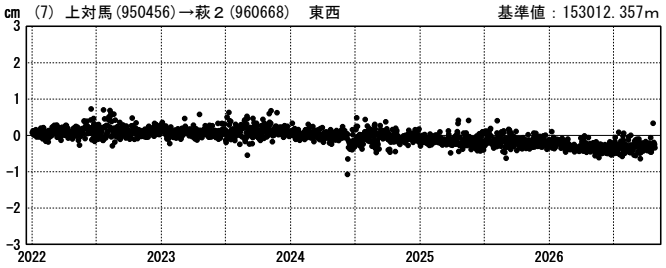
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

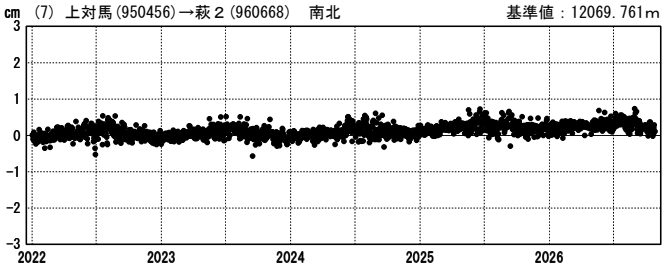
国土地理院

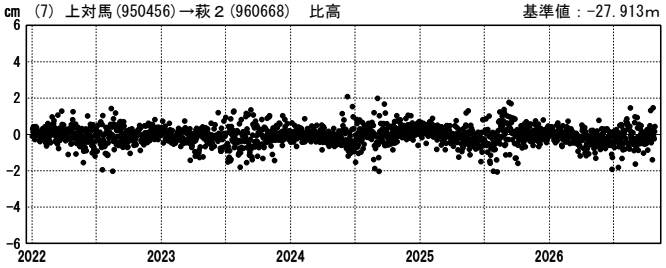
１次トレンド除去後グラフ

計算期間: 2017-01-01～2020-01-01

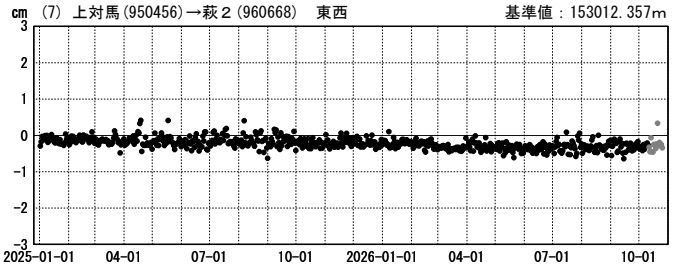
期間: 2022-01-01～2026-10-25 JST

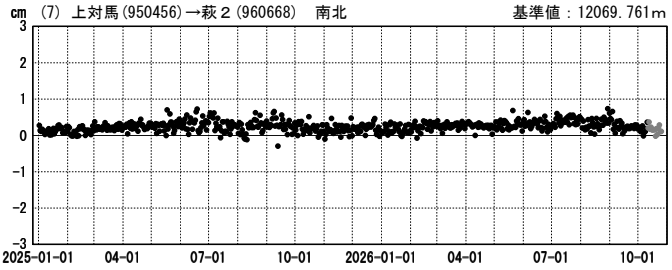


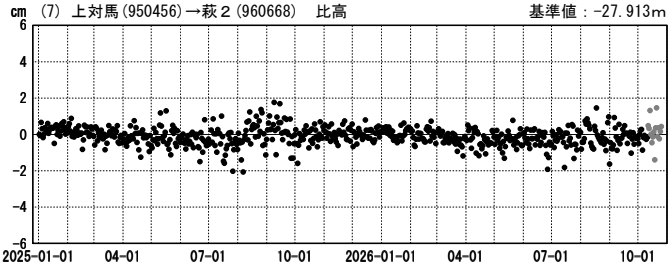




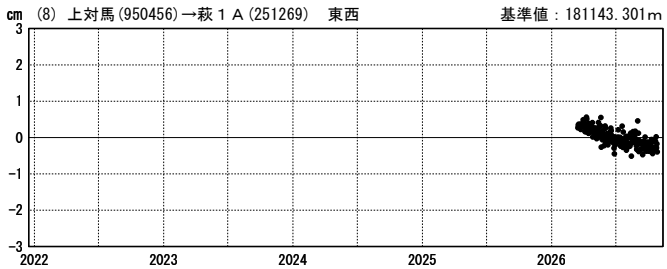
期間: 2025-01-01～2026-10-25 JST

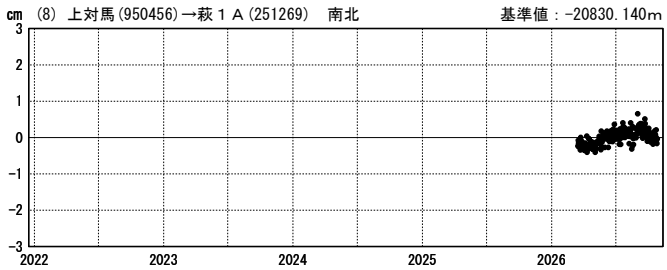


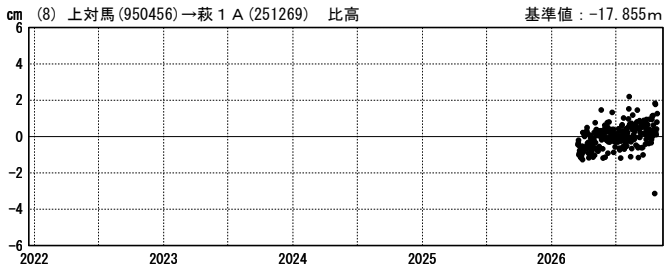




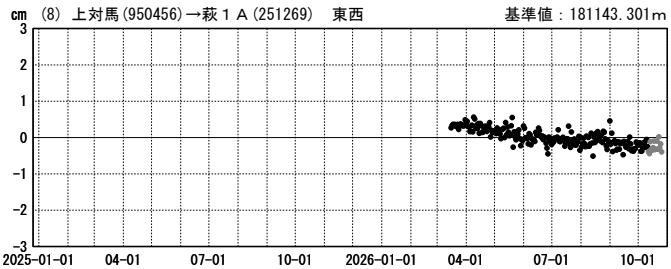
期間: 2022-01-01～2026-10-25 JST

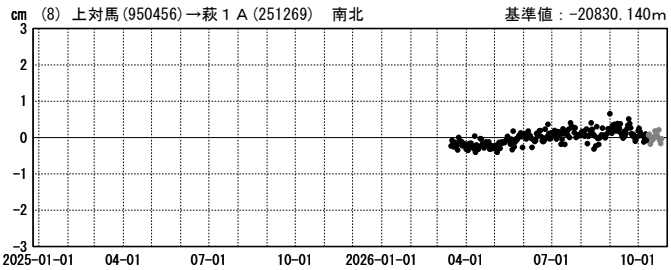


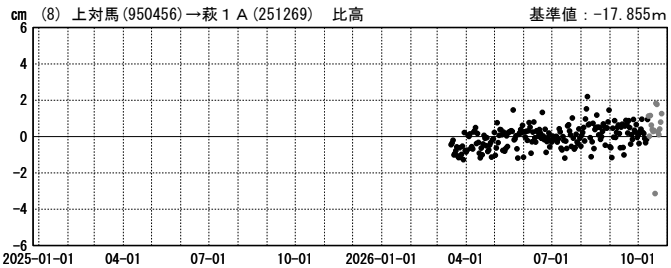




期間: 2025-01-01～2026-10-25 JST







※萩１Ａを含む基線は2026年3月以前の観測データが存在しないため1次トレンドの補正は実施していない。

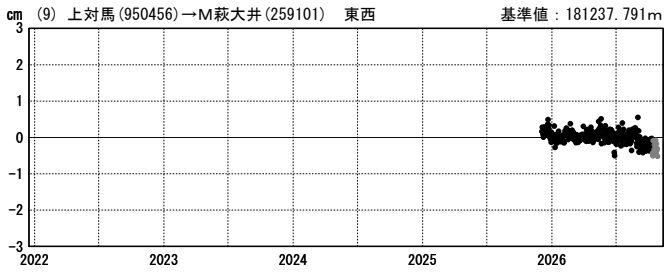
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

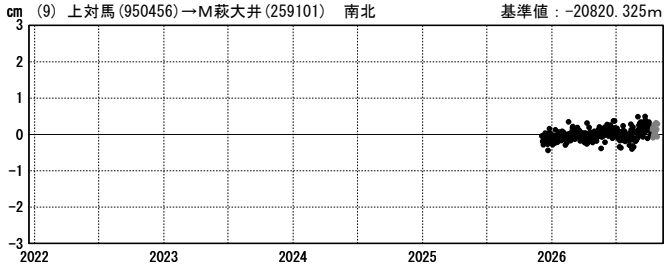
国土地理院

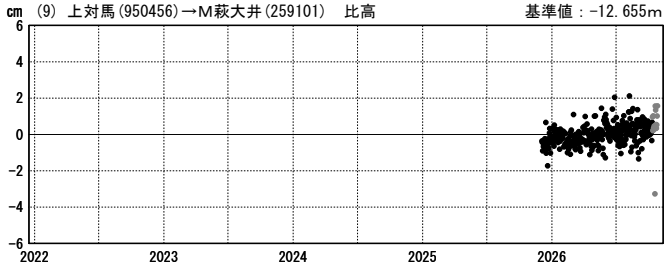
１次トレンド除去後グラフ

計算期間: 2017-01-01～2020-01-01

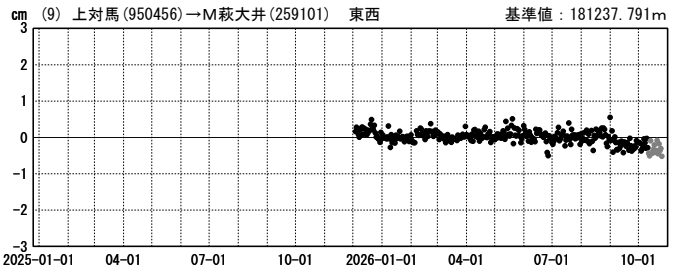
期間: 2022-01-01～2026-10-25 JST

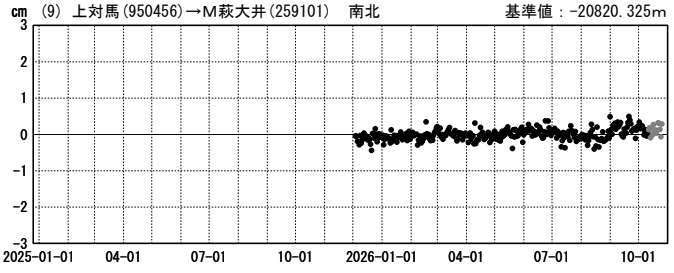


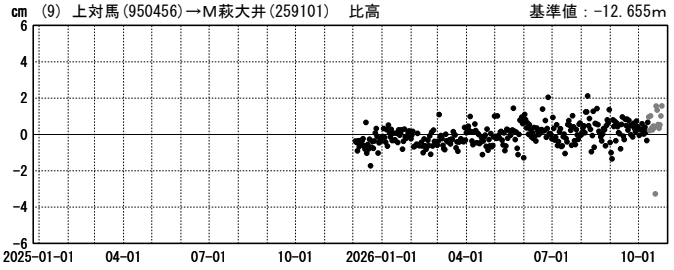




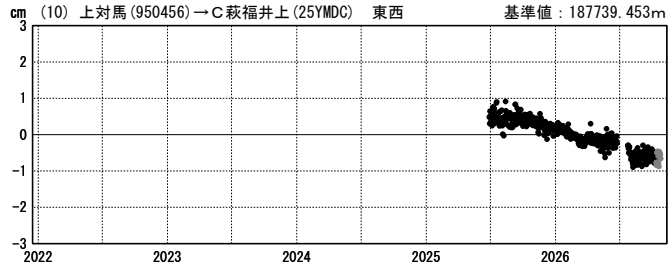
期間: 2025-01-01～2026-10-25 JST

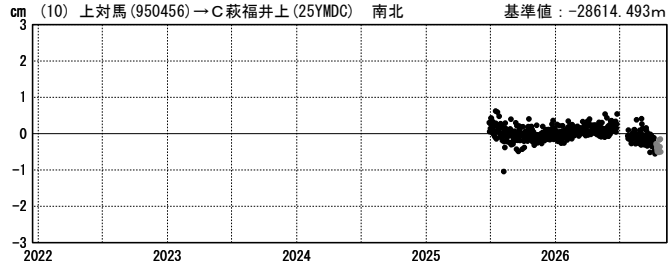


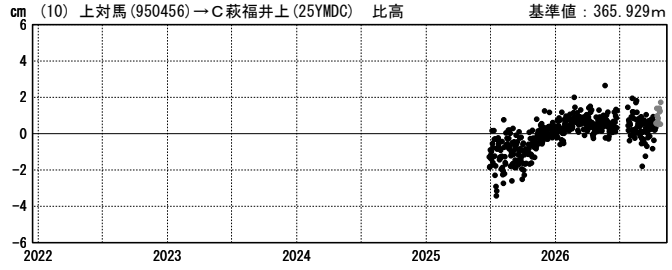




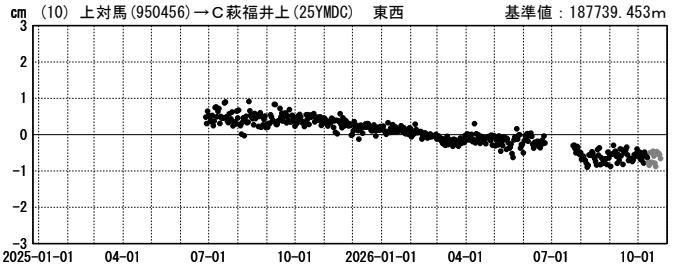
期間: 2022-01-01～2026-10-25 JST

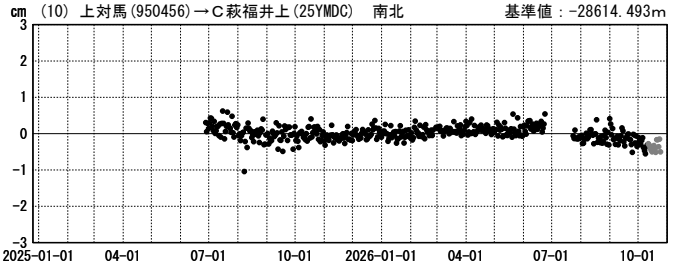


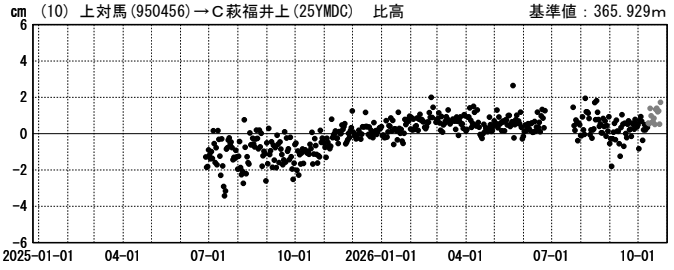




期間: 2025-01-01～2026-10-25 JST







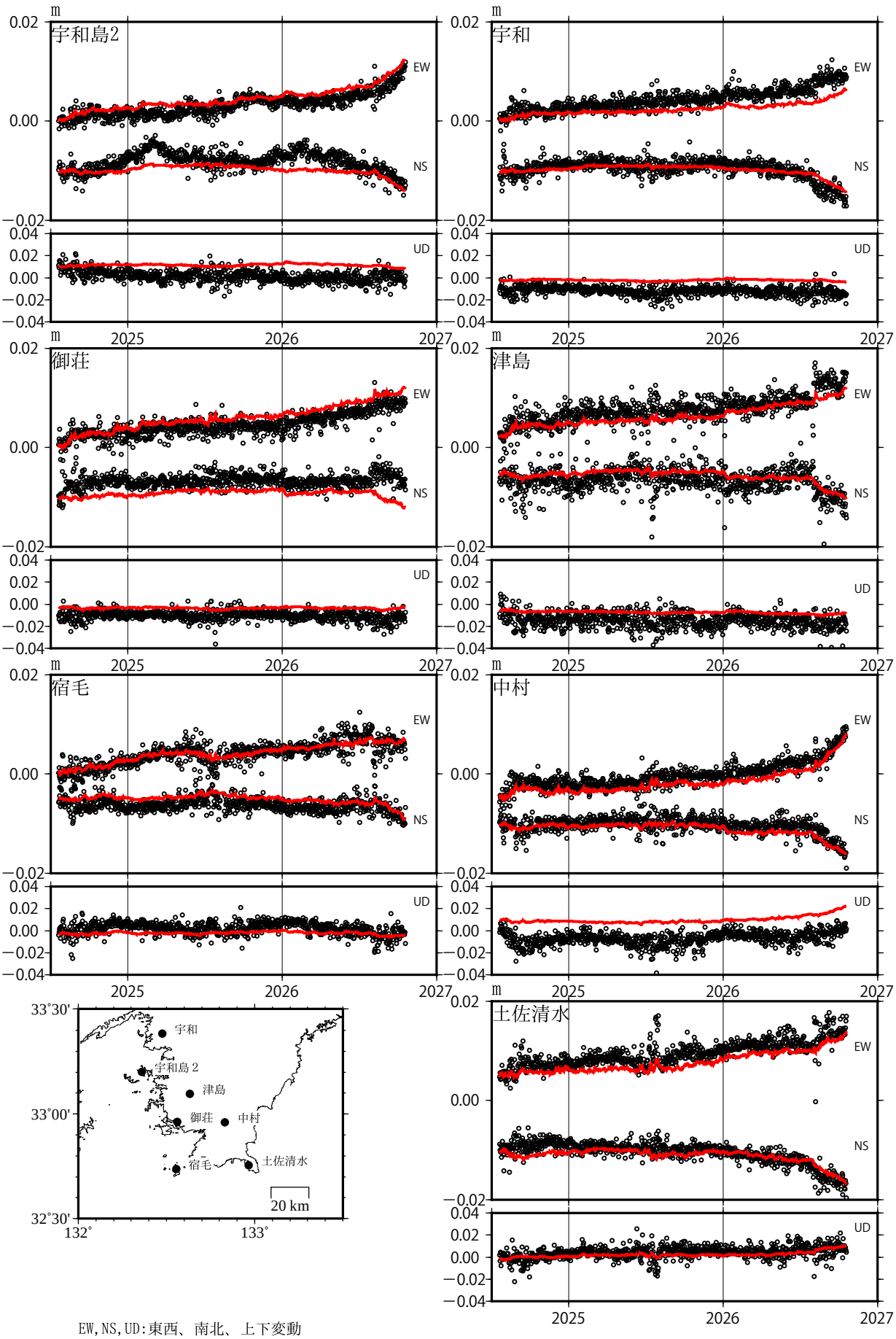
※M萩大井、C萩福井上を含む基線はそれぞれ2025年12月、2025年6月以前の観測データが存在しないため1次トレンドの補正は実施していない。

●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

国土地理院

四国西部の観測点の座標時系列（黒丸）と計算値（赤線）

時間依存のインバージョン

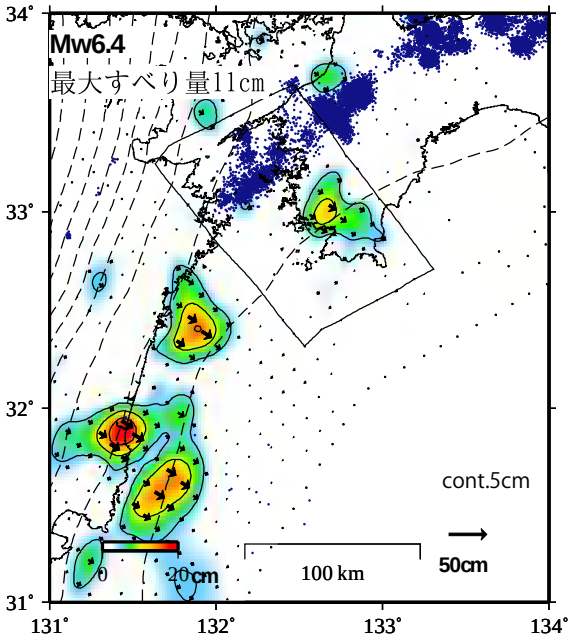


EW,NS,UD:東西、南北、上下変動

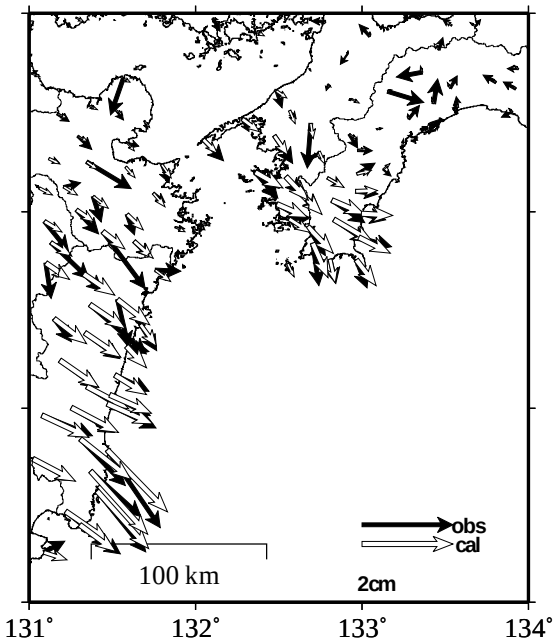
国土地理院

GNSSデータから推定された四国西部の長期的ゆっくりすべり(暫定)

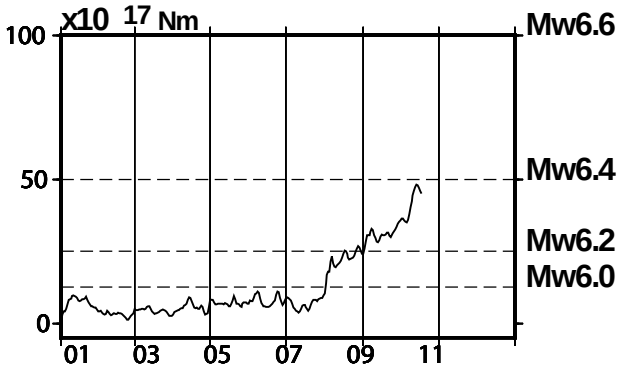
推定すべり分布
(2026-01-01/2026-10-18)



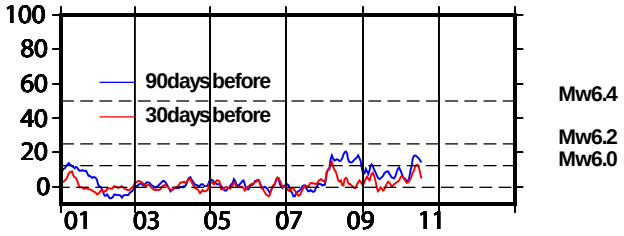
観測値（黒）と計算値（白）の比較
(2026-01-01/2026-10-18)



モーメント*時系列（試算）



モーメント変化量の時間変化(30日間及び90日間)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の３倍以上のグリッドを黒色で表示している。

使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
　　F5.1解(2024-07-20/　2026-10-03)+R5.1解　(2026-10-04/2026-10-18)
トレンド期間:2006-01-01/2009-01-01（年周・半年周成分は補正なし）
日向灘附近:2007-10-01/2009-03-01
モーメント計算範囲:左図の黒枠内側
観測値:カルマンフィルターで平滑化した値
黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al.,2008)
すべり方向:プレートの沈み込み方向に拘束
青丸:低周波地震（気象庁一元化震源）（期間:2024-08-06/2026-10-18）
固定局:三隅

＊電子基準点の保守等による変動は補正済み
＊豊後水道の地震(2024-04-17,M6.6)の地殻変動を除去している。
＊日向灘の地震(2024-08-08,M7.1)の地震時変動を除去している。
＊日向灘の地震(2025-01-13,M6.6)の地震時変動を除去している。
＊令和８年熊本地震の地殻変動を除去している。
＊平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震及び平成28年(2016年)熊本地震の粘弾性変形は補正している(Suito,2017;水藤,2017)。
＊共通誤差成分を推定している。
＊モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。

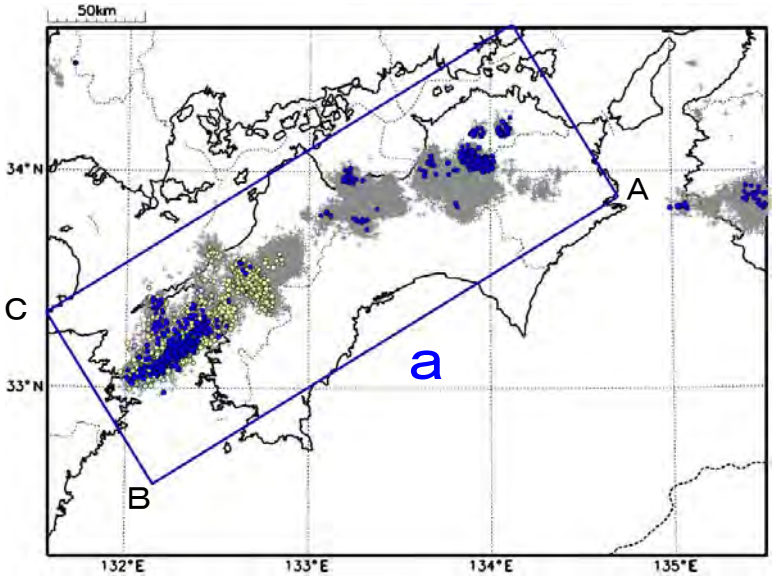
国土地理院

四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

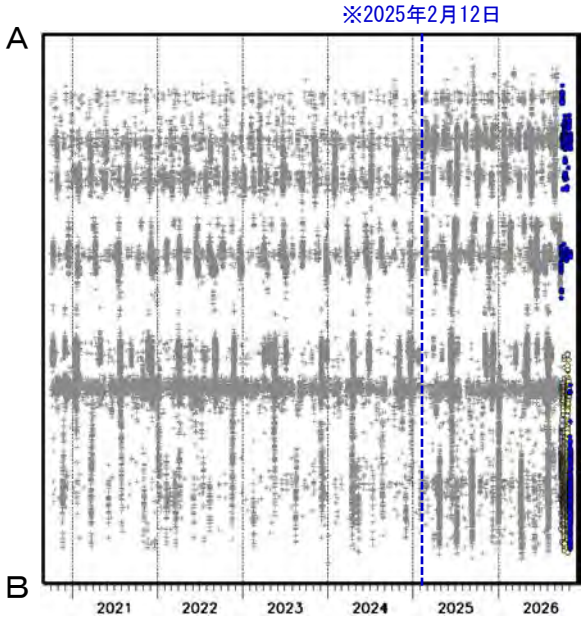
９月27日から10月12日にかけて、及び10月19日から11月１日にかけて、四国西部で深部低周波地震（微動）を観測した。
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

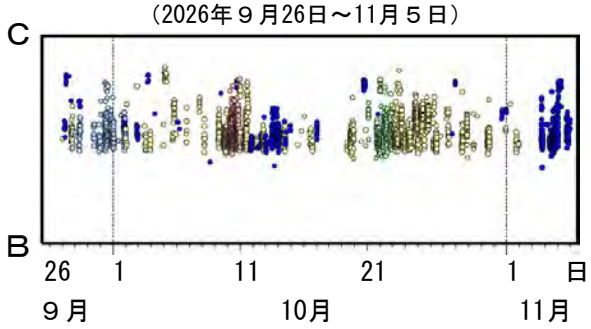
震央分布図
（2020年10月１日～2026年11月５日、
深さ０～60km、Mすべて）

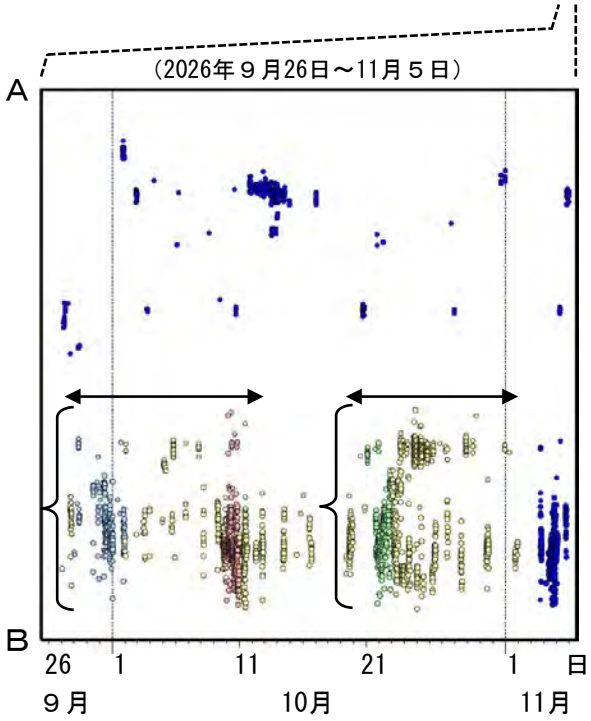


領域a内の時空間分布図
（Ａ－Ｂ投影）



領域a内の時空間分布図（Ｂ－Ｃ投影）
（2026年９月26日～11月５日）





凡例
＋：2020年９月１日～2026年９月26日
●：2026年９月27日～

ただし、ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動の色分けは以下のとおり。

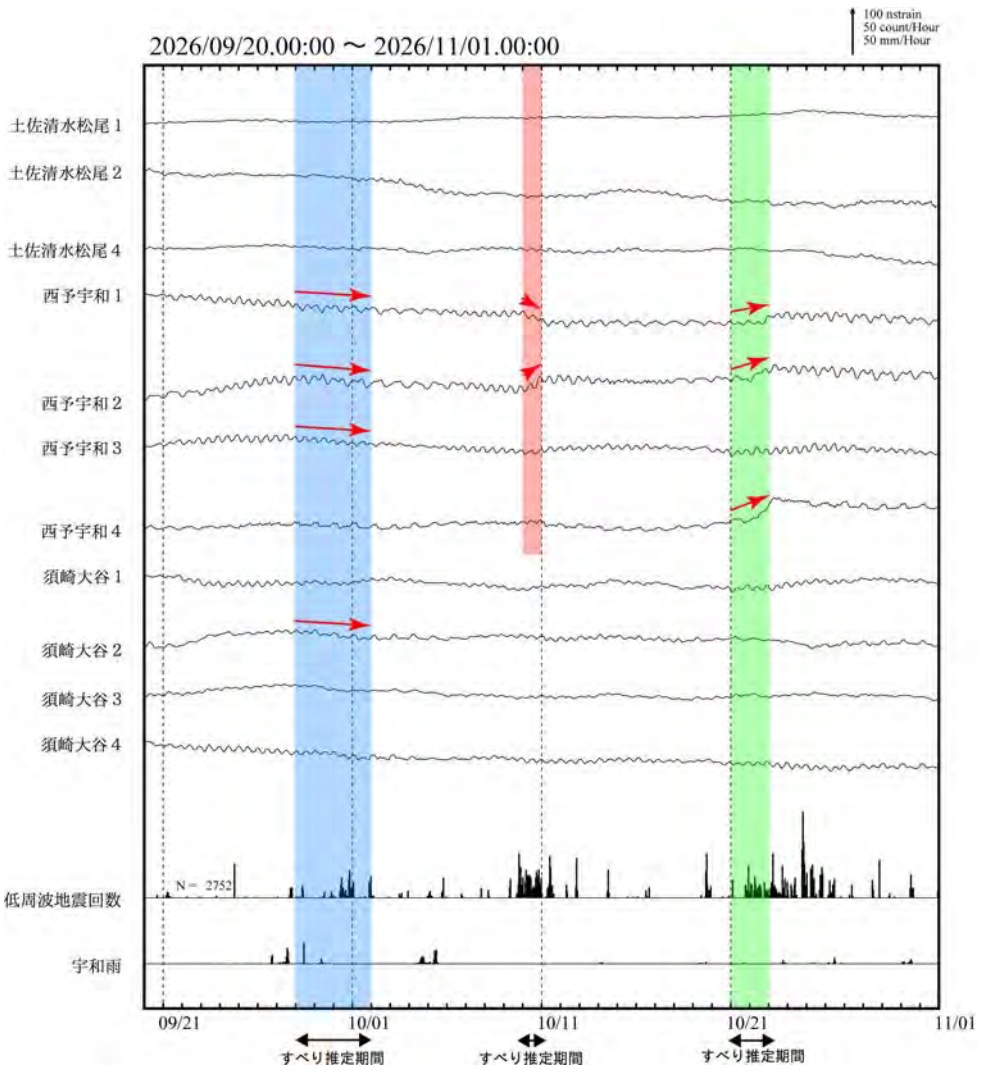
四国西部
○：９月27日00時～27日24時
○：９月28日00時～10月１日24時
○：10月２日00時～９日24時
○：10月10日00時～10日24時
○：10月11日00時～20日24時
○：10月21日00時～22日24時
○：10月23日00時～11月１日24時

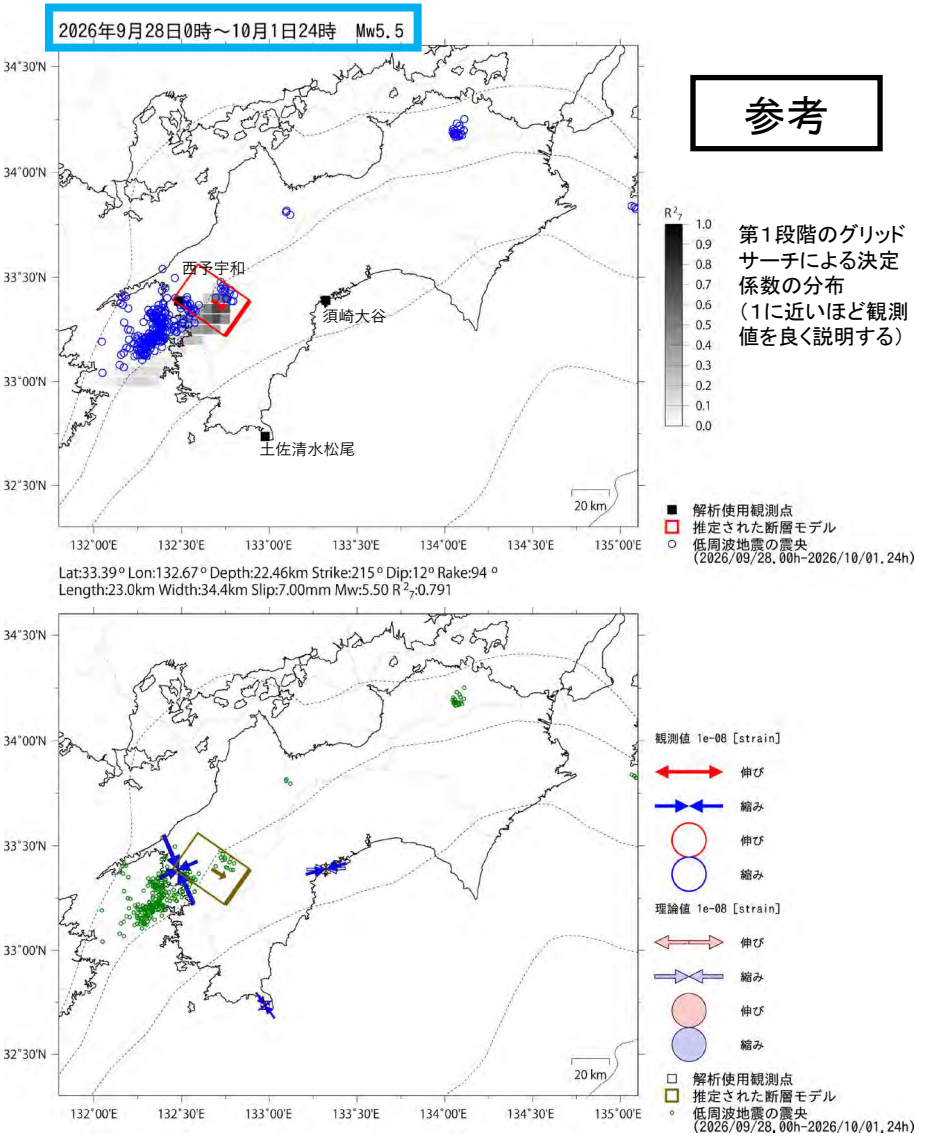
気象庁作成

※2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり（9月28日～10月22日）

高知県から愛媛県で観測されたひずみ変化





土佐清水松尾、西予宇和及び須崎大谷は産業技術総合研究所のひずみ計である。
解析に使用したチャネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャネルに赤矢印を描画している。
低周波地震回数はゆっくりすべりを示す断層モデル周辺で発生したものを積算している。

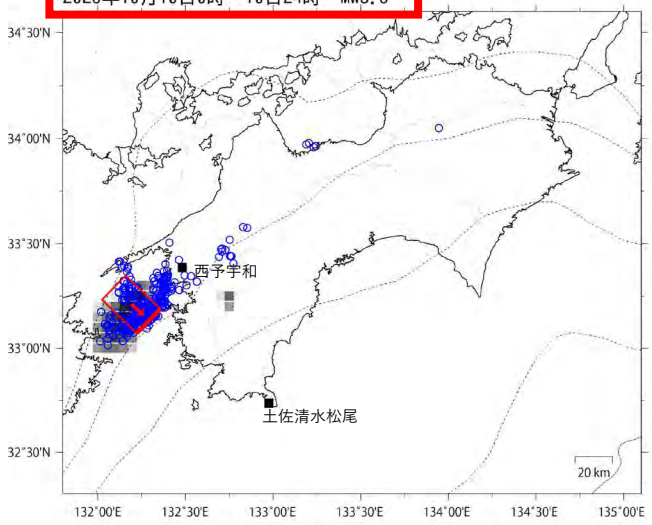
時系列図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

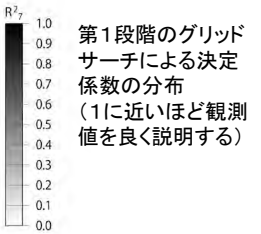
気象庁作成

四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり（9月28日～10月22日）

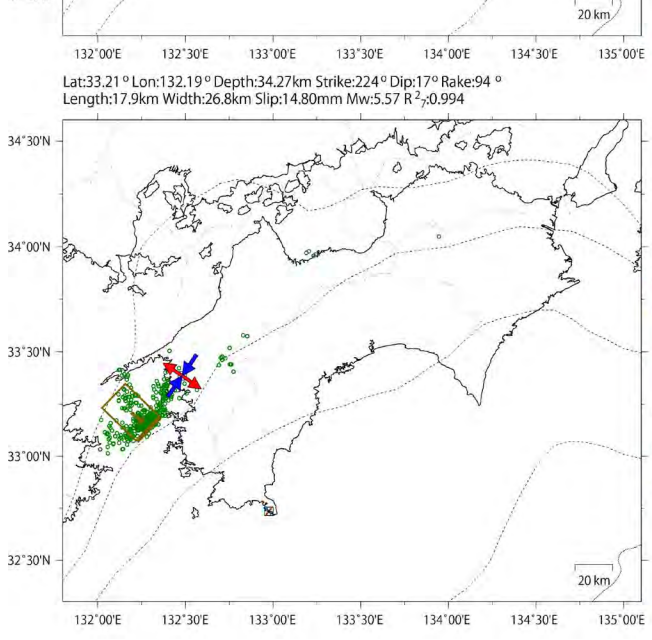
2026年10月10日0時～10日24時　Mw5.6



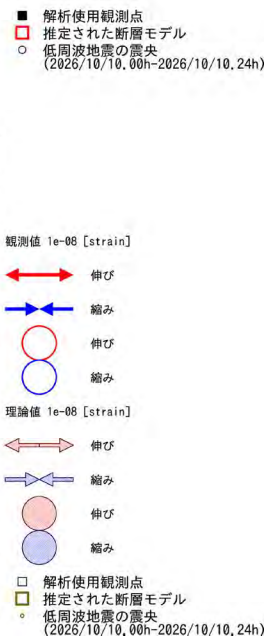
参考



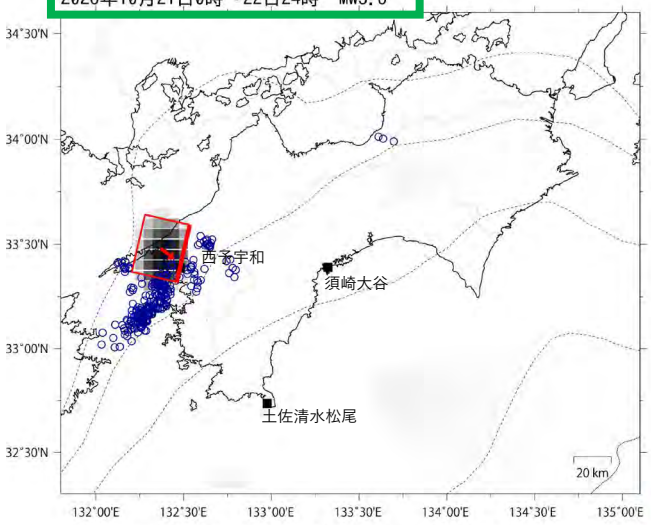
第１段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）



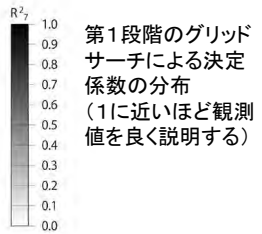
Lat:33.21° Lon:132.19° Depth:34.27km Strike:224° Dip:17° Rake:94°
Length:17.9km Width:26.8km Slip:14.80mm Mw:5.57 R^2_7:0.994



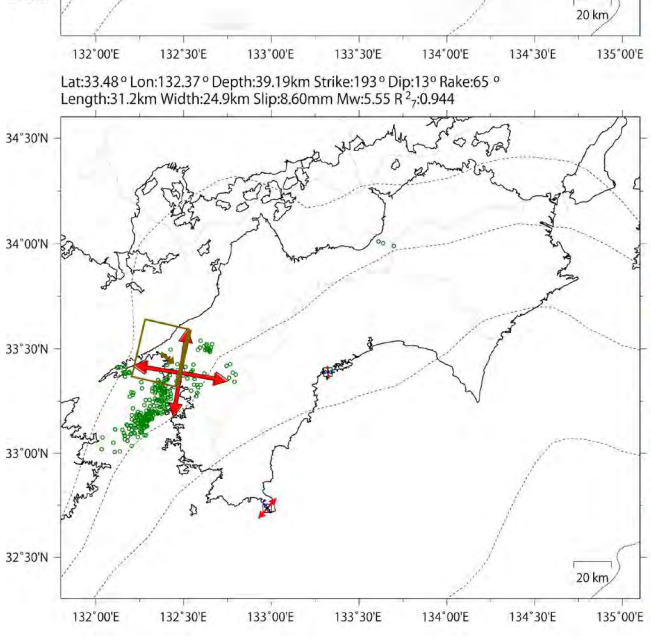
2026年10月21日0時～22日24時　Mw5.6



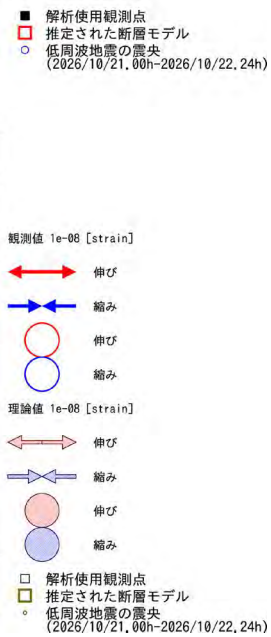
参考



第１段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）



Lat:33.48° Lon:132.37° Depth:39.19km Strike:193° Dip:13° Rake:65°
Length:31.2km Width:24.9km Slip:8.60mm Mw:5.55 R^2_7:0.944



時系列図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

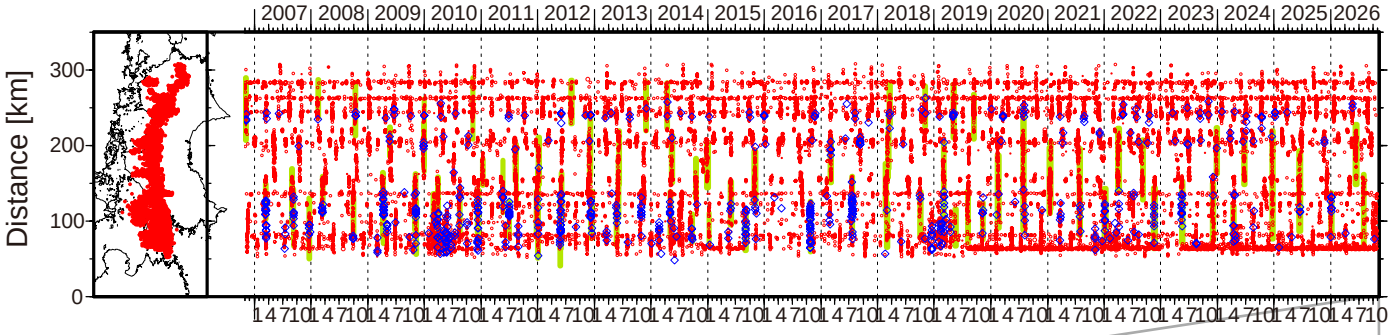
断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

四国の深部低周波微動活動状況　（2026 年 10 月）

防災科研 NIED　MOWLAS

- 10 月 9 ～ 14 日頃に豊後水道において，やや活発な微動活動
- 10 月 21 ～ 26 日頃に豊後水道から四国西部において，やや活発な微動活動.



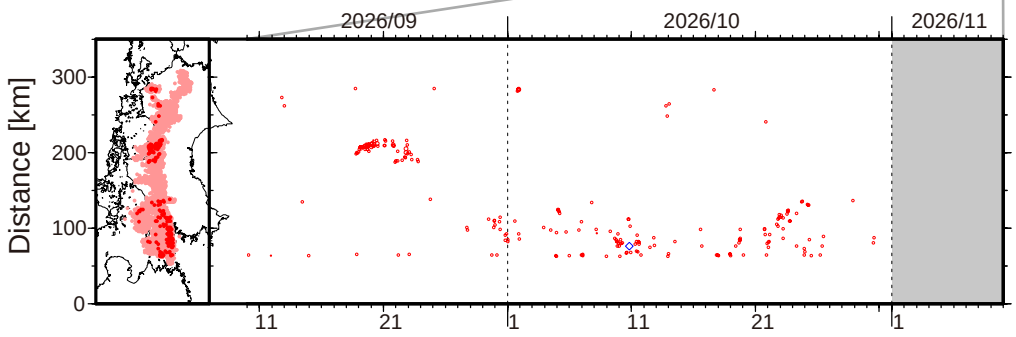


図 1．四国における 2006 年 11 月～ 2026 年 10 月 31 日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）．赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって 1 時間毎に自動処理された微動分布の重心である．青菱型は周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である．黄緑色太線は，これまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す．下図は 2026 年 10 月を中心とした期間の拡大図である．10 月 9 ～ 14 日頃には，は豊後水道において，やや活発な微動活動がみられた．この活動は開始後，12 日頃からやや低調となり，14 日頃に終息した．10 月 21 ～ 26 日頃には，豊後水道から愛媛県西部においてやや活発な活動がみられた．この活動は豊後水道での開始後，東方向への活動域の拡大がみられた．9 月 29 日～ 10 月 1 日頃には愛媛県西部において，小規模な活動がみられた．10 月 1 日頃には香川県付近において，10 月 5 日頃には伊予灘付近において，10 月 19 日頃には豊後水道において，それぞれごく小規模な活動がみられた．

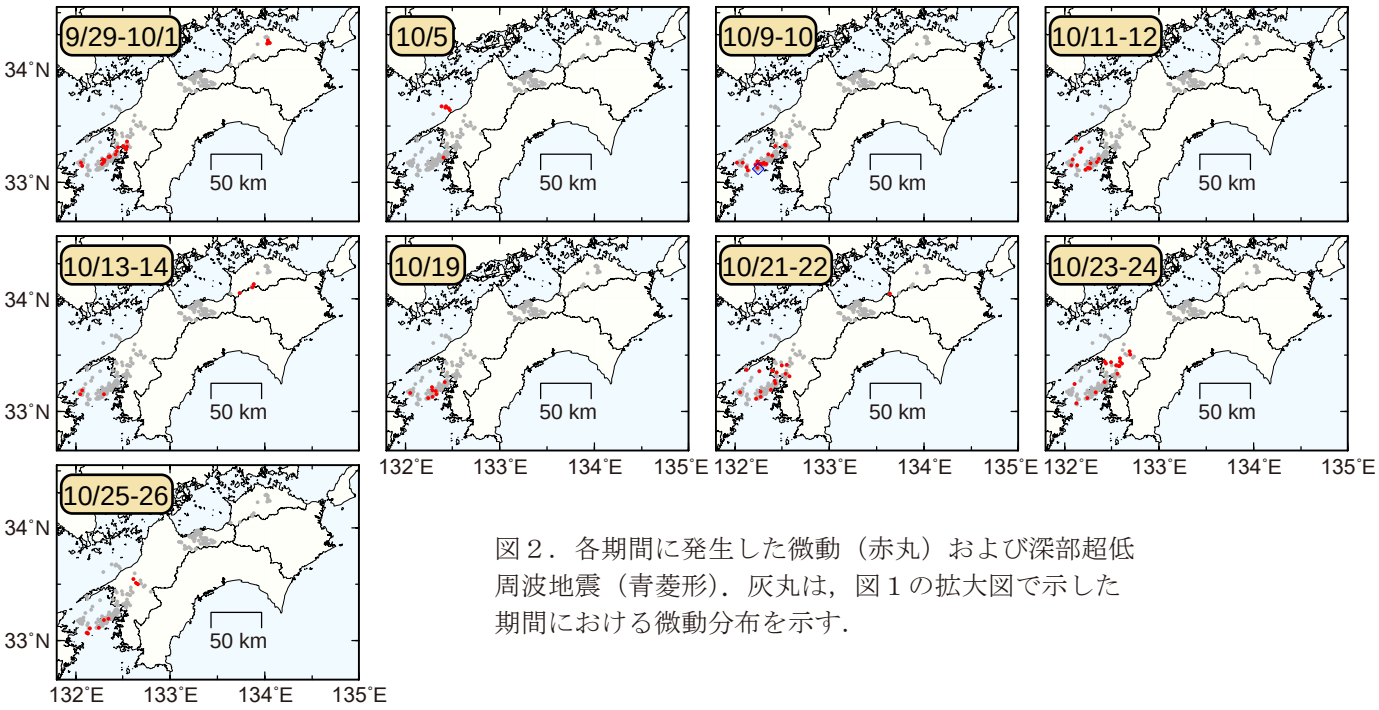


図 2．各期間に発生した微動（赤丸）および深部超低周波地震（青菱形）．灰丸は，図 1 の拡大図で示した期間における微動分布を示す.

防災科学技術研究所資料

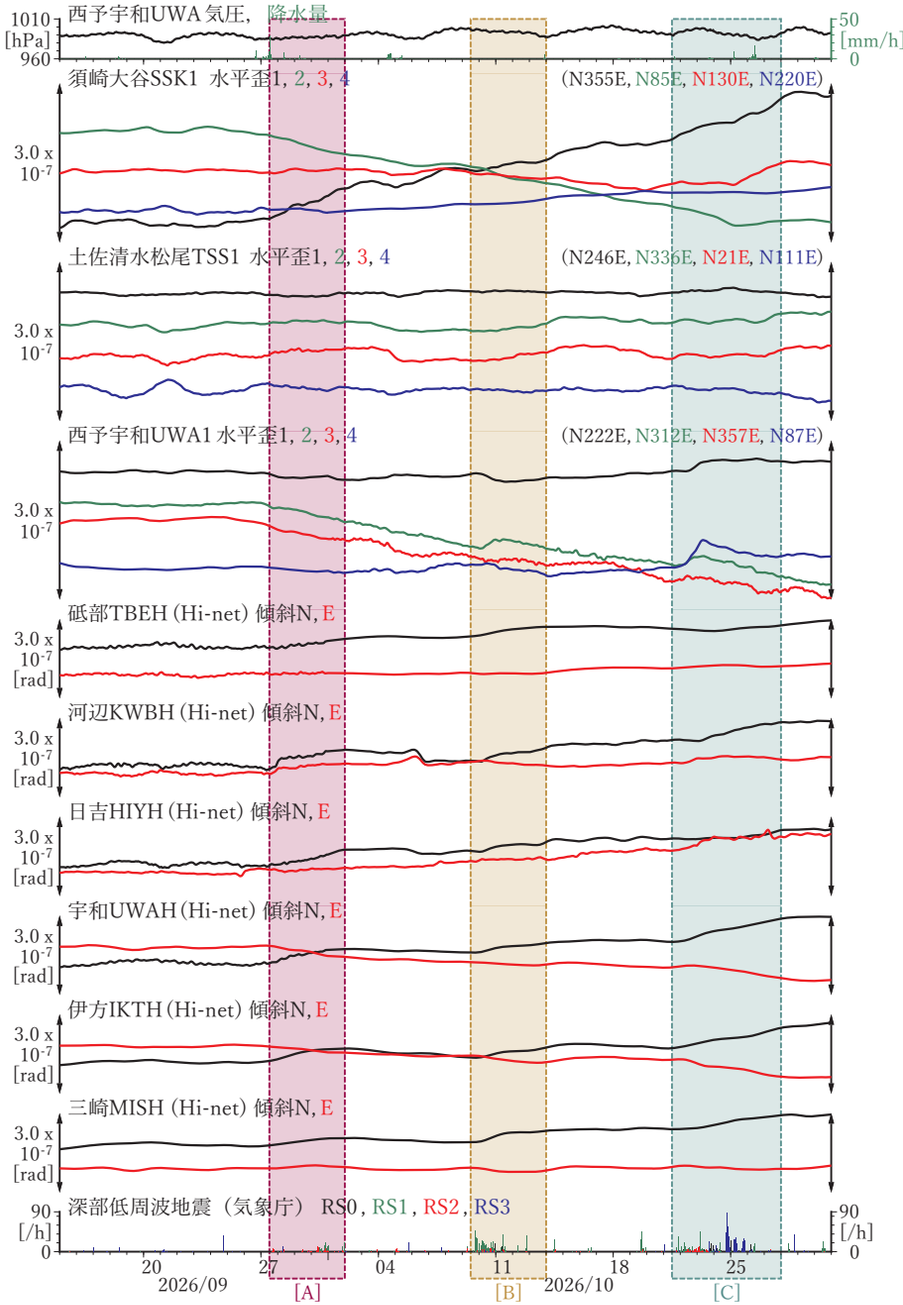
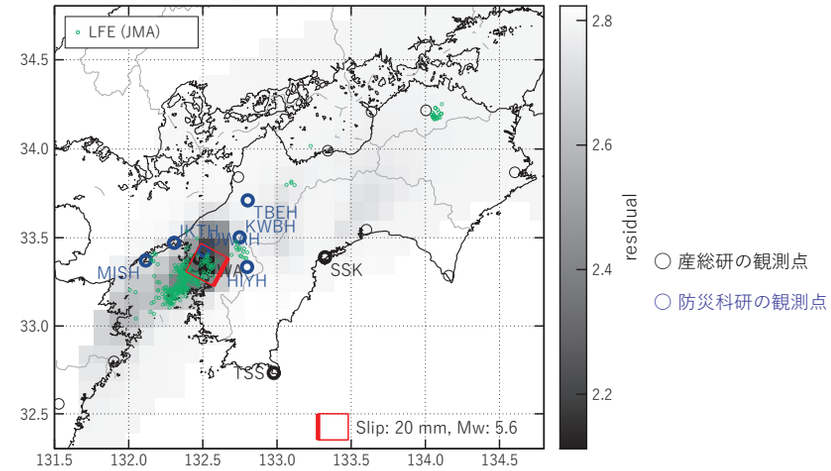


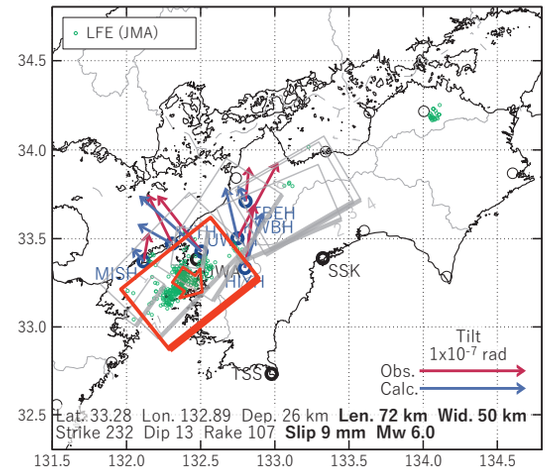
図11 四国地方における歪・傾斜観測結果（2026/09/15 00:00 - 2026/10/31 00:00 (JST)）

[A] 2026/09/27PM-10/01

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

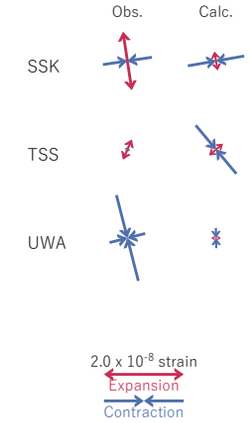


図12 2026/09/27PM-10/01の歪・傾斜変化（図11[A]）を説明する断層モデル。

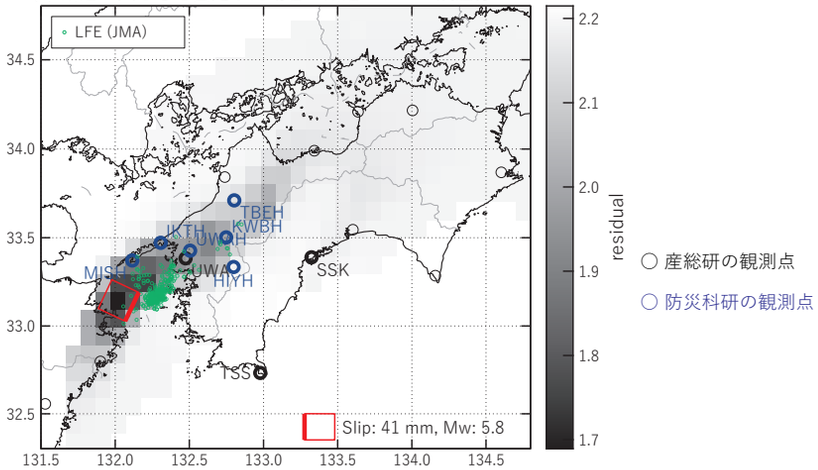
(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。
1: 2026/04/06-09 (Mw5.8), 2: 2026/05/01PM-08AM (Mw6.0), 3: 2026/06/10-14 (Mw6.0), 4: 2026/06/15-17 (Mw5.8), 5: 2026/07/29PM-08/01AM (Mw5.7), 6: 2026/08/01PM-02AM (Mw5.8), 7: 2026/08/02PM-04AM (Mw5.9)

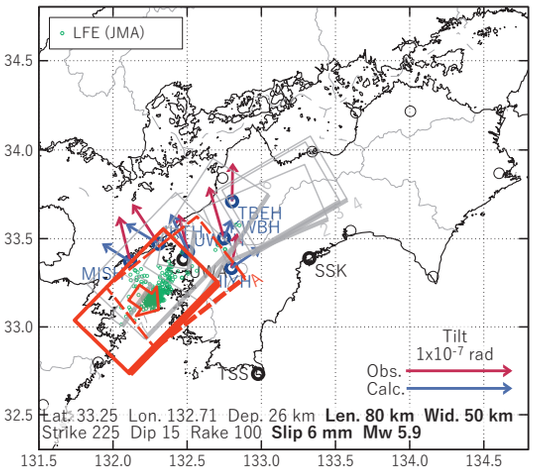
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2026/10/09PM-13

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

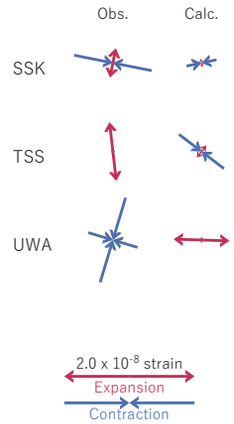


図13　2026/10/09PM-13の歪・傾斜変化（図11[B]）を説明する断層モデル。

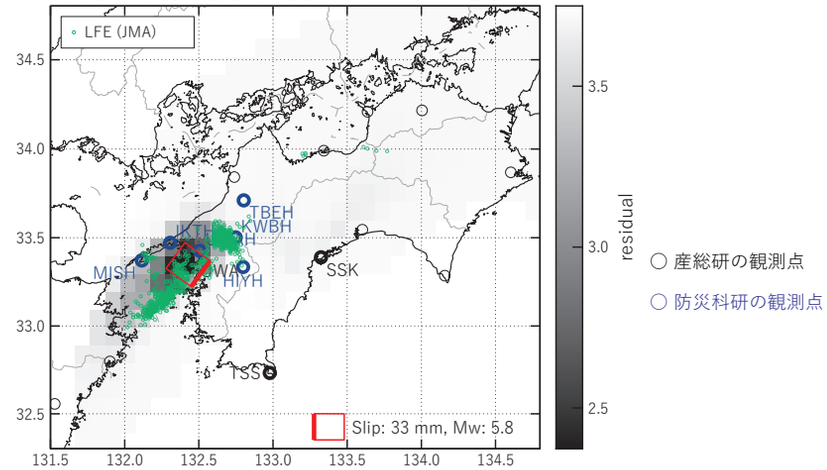
(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。
1: 2026/04/06-09 (Mw5.8), 2: 2026/05/01PM-08AM (Mw6.0), 3: 2026/06/10-14 (Mw6.0), 4: 2026/06/15-17 (Mw5.8),
5: 2026/07/29PM-08/01AM (Mw5.7), 6: 2026/08/01PM-02AM (Mw5.8), 7: 2026/08/02PM-04AM (Mw5.9),
A: 2026/09/27PM-10/01 (Mw6.0)

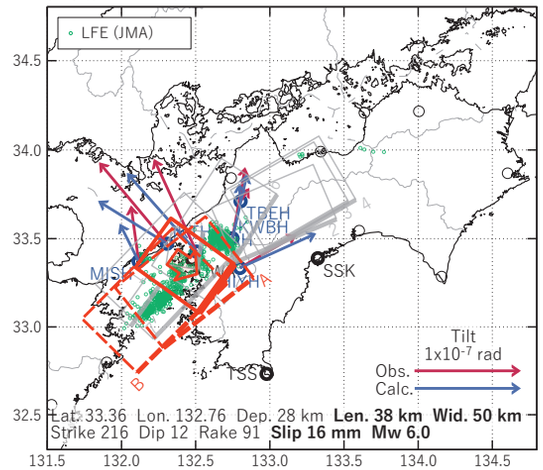
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[C] 2026/10/21PM-27

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

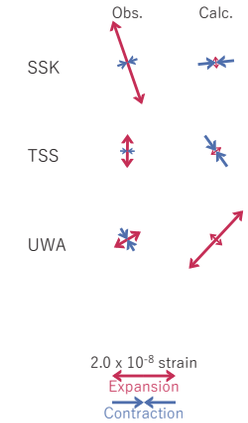


図14　2026/10/21PM-27の歪・傾斜変化（図11[C]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。
1: 2026/04/06-09 (Mw5.8), 2: 2026/05/01PM-08AM (Mw6.0), 3: 2026/06/10-14 (Mw6.0), 4: 2026/06/15-17 (Mw5.8),
5: 2026/07/29PM-08/01AM (Mw5.7), 6: 2026/08/01PM-02AM (Mw5.8), 7: 2026/08/02PM-04AM (Mw5.9),
A: 2026/09/27PM-10/01 (Mw6.0), B: 2026/10/09PM-13 (Mw6.0)

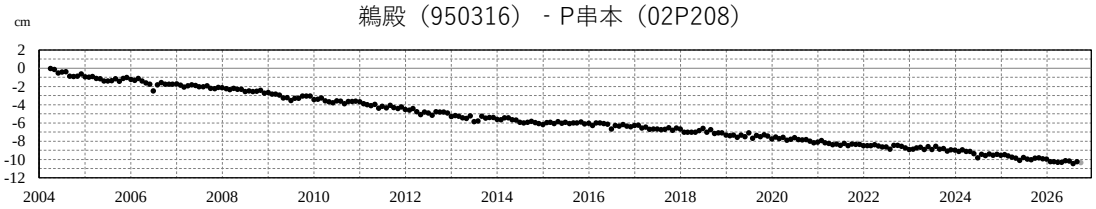
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

紀伊半島及び室戸岬周辺　電子基準点の上下変動

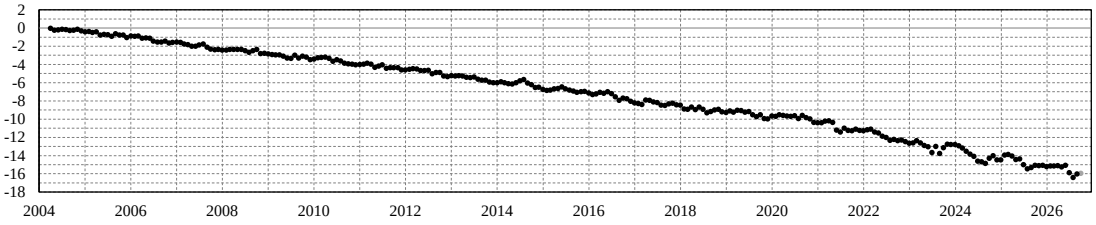
水準測量とGNSS連続観測

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

鵜殿（950316） - P串本（02P208）

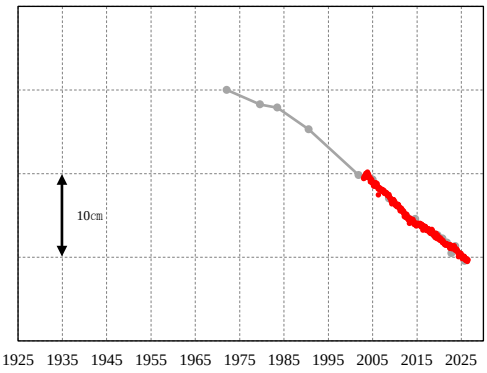


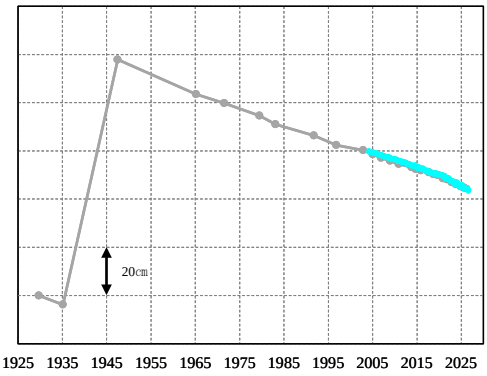
安芸（950442） - 室戸4（031122）

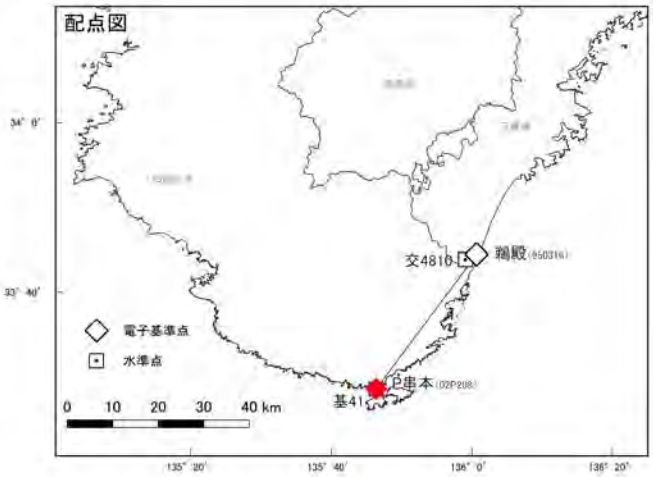


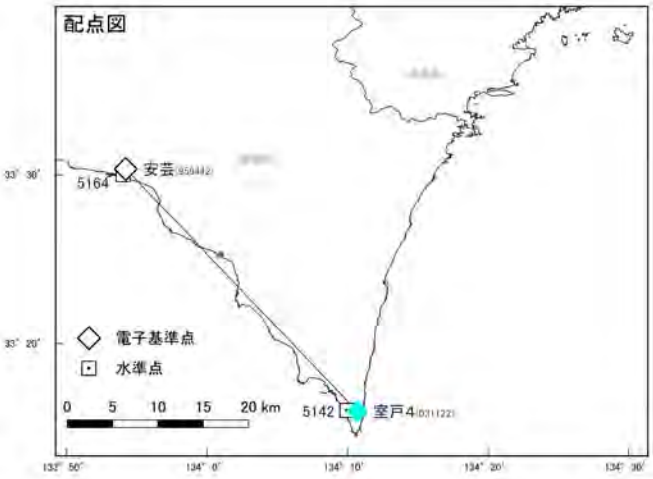
● ---［F5.1：最終解］ ● ---［F5.1：最終解］2026-10-01/2026-10-10 + ［R5.1：速報解］2026-10-11/2026-10-24

【長期間の上下変動】









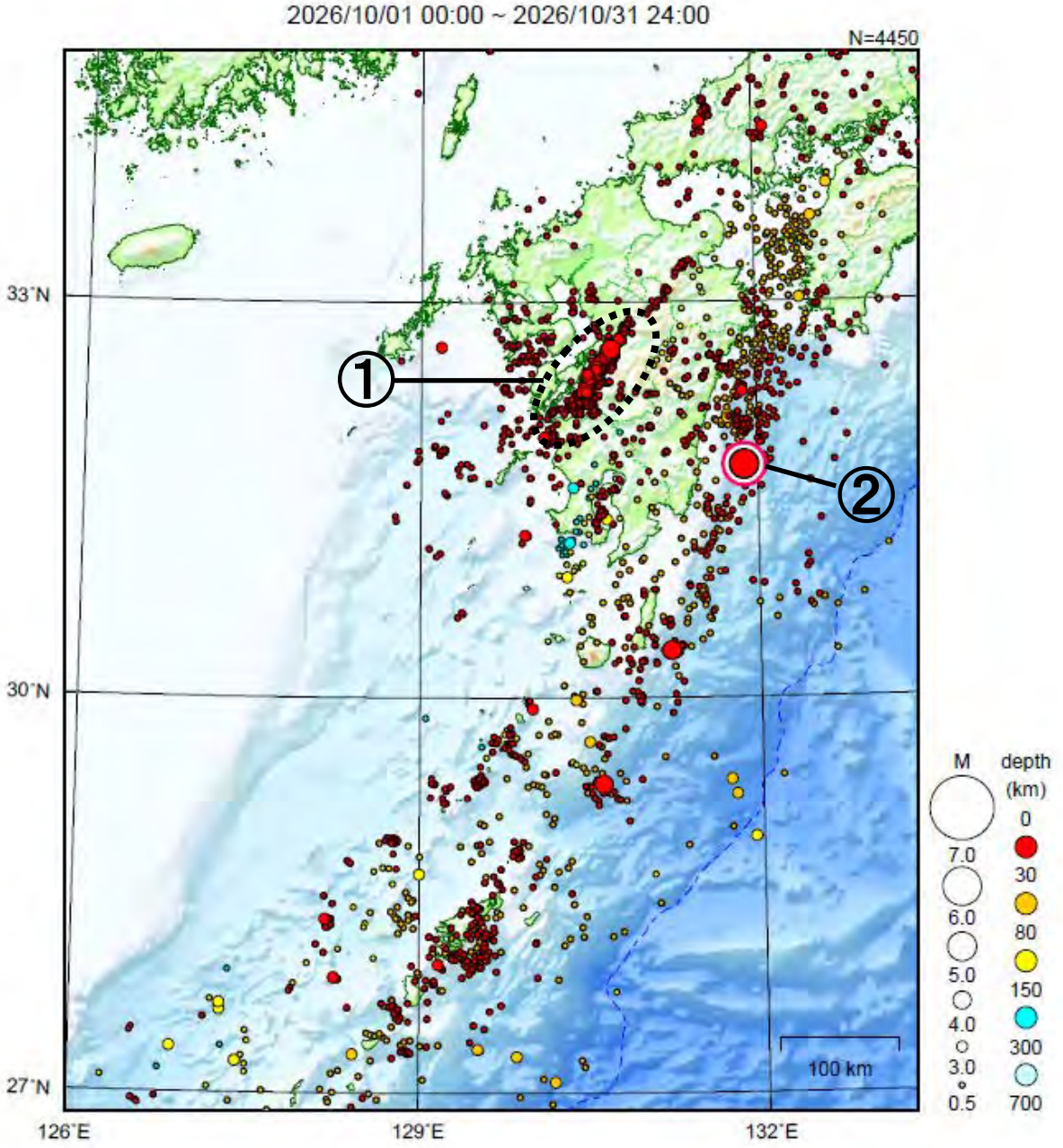
- GNSS 連続観測のプロット点は，GEONET による日々の座標値（F5.1：最終解及びR5.1:速報解）から計算した値の月平均値.
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点の水準測量結果を示している（固定：交4810，5164）.

※　2021 年2 月2 日に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した.

※　2024 年11 月25 日に電子基準点「鵜殿」のアンテナ更新を実施した.

国土地理院

九州地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

① 「令和８年熊本地震」の地震活動域では、10 月中に震度１以上を観測した地震が 66 回（震度３：３回、震度２：19 回、震度１：44 回）発生した。

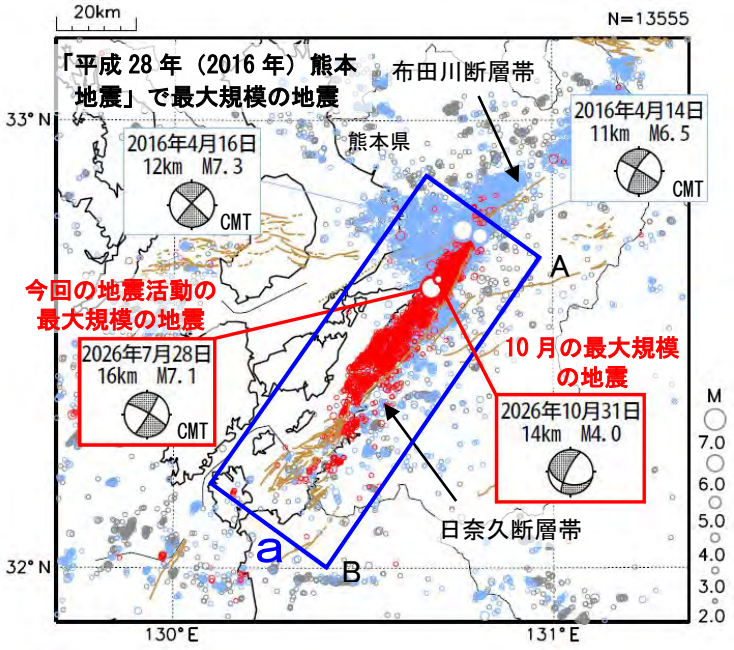
② 10 月 25 日に日向灘で M5.2 の地震（最大震度３）が発生した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

「令和８年熊本地震」の地震活動

震央分布図
（2000 年 10 月 1 日～2026 年 10 月 31 日
深さ 0～20km、M≧2.0）
2016 年 4 月 14 日 21 時より前に発生した地震を灰色○
2016 年 4 月 14 日 21 時以降の地震を水色○、
2026 年 7 月 28 日 16 時以降の地震を赤色○で表示
茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による
活断層を示す



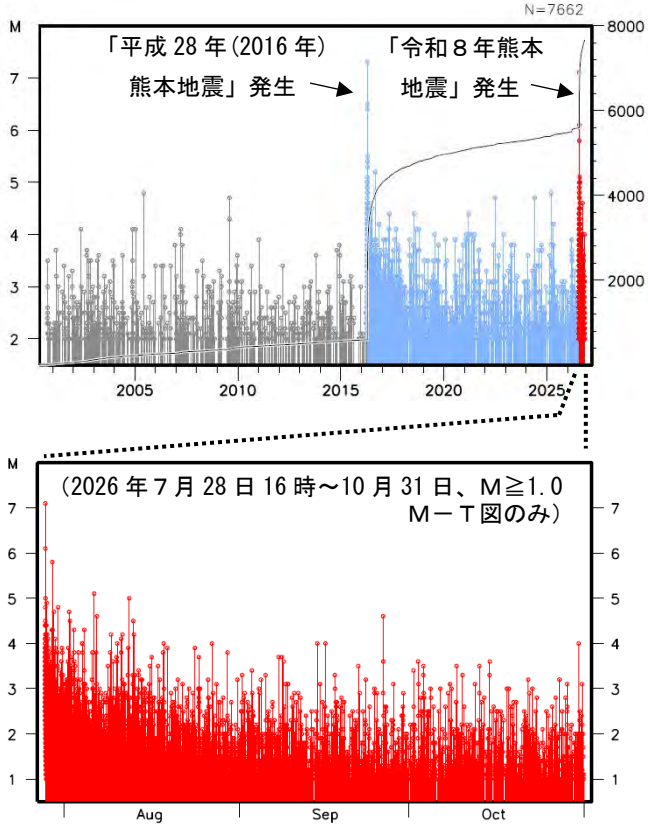
「令和８年熊本地震」の地震活動は、地震の発生数は平常時と比べて多い状態が継続しているが、大局的には緩やかに減少している。

10月中に震度１以上を観測した地震は、66回（震度３：３回、震度２：19回、震度１：44回）発生した。このうち最大規模の地震は、31日01時45分に発生したM4.0の地震（深さ14km、最大震度３）である。この地震は地殻内で発生した。発震機構は北北西－南南東方向に張力軸を持つ型である。

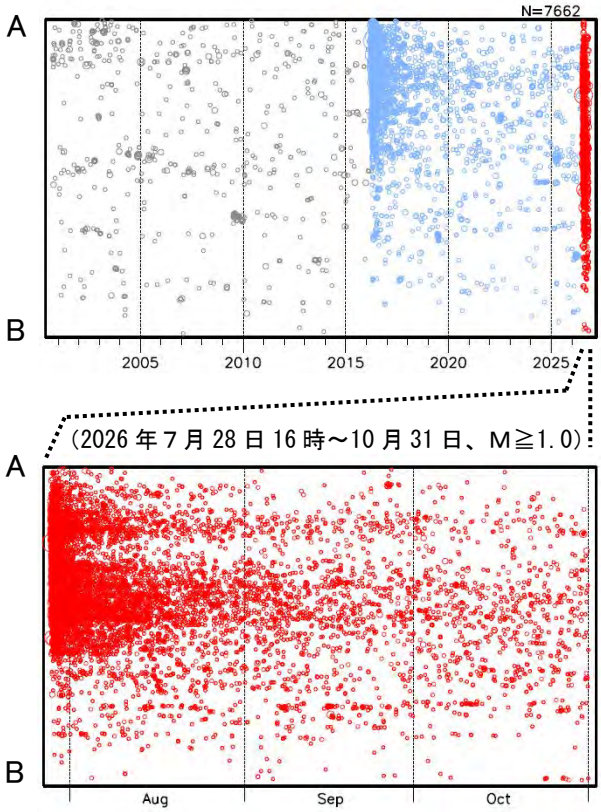
今回の地震活動により、死者38人（災害関連死の可能性がある死者を含む）、負傷者376人、住家全壊2,408棟、半壊7,802棟などの被害が生じた（被害は2026年10月５日12時00分現在、総務省消防庁による）。

2000年10月以降の活動を見ると、今回の地震活動域の周辺（領域ａ）では「平成28年（2016年）熊本地震」が発生している。「平成28年（2016年）熊本地震」では、熊本県で死者275人、大分県で死者３人などの被害が生じた（熊本県は2025年４月11日現在、熊本県による、その他は2019年４月12日現在、総務省消防庁による）。

領域ａ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



領域ａ内の時空間分布図（Ａ－Ｂ投影）



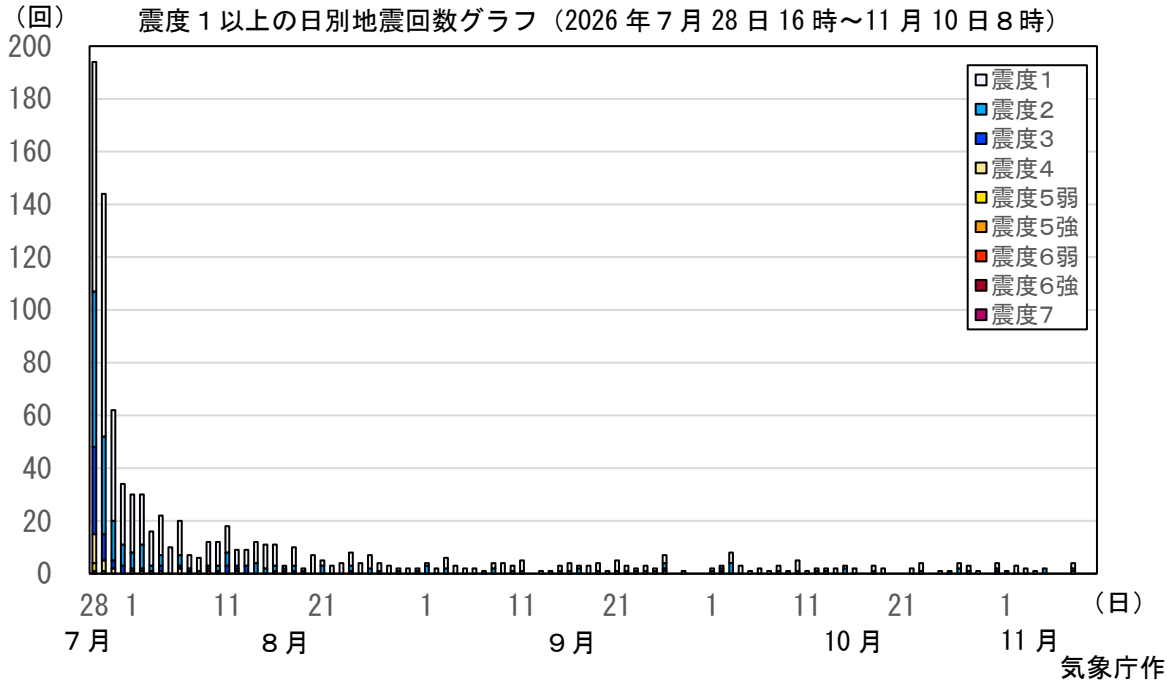
気象庁作成

「令和８年熊本地震」の最大震度別地震回数表（11 月 10 日 08 時時点）

期間	最大震度別回数									合計	累計
	震度1	震度2	震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7		
7月28日-31日	244	119	49	17	4	0	0	0	1	434	434
8月1日-31日	216	56	22	6	1	0	0	0	0	301	735
9月1日-30日	54	19	4	2	0	0	0	0	0	79	814
10月1日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	816
10月2日	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	819
10月3日	4	4	0	0	0	0	0	0	0	8	827
10月4日	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	830
10月5日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	831
10月6日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	833
10月7日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	834
10月8日	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	837
10月9日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	838
10月10日	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	843
10月11日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	844
10月12日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	846
10月13日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	848
10月14日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	850
10月15日	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	853
10月16日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	855
10月17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	855
10月18日	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	858
10月19日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	860
10月20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	860
10月21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	860
10月22日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	862
10月23日	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	866
10月24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	866
10月25日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	867
10月26日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	868
10月27日	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4	872
10月28日	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	875
10月29日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	876
10月30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	876
10月31日	2	1	1	0	0	0	0	0	0	4	880
11月1日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	881
11月2日	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	884
11月3日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	886
11月4日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	887
11月5日	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	889
11月6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	889
11月7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	889
11月8日	2	1	0	1	0	0	0	0	0	4	893
11月9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	893
11月10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	893
合計	566	217	78	26	5	0	0	0	1		893

※この資料は速報値であり、後日の調査で変更されることがある。

震度１以上の日別地震回数グラフ（2026 年７月 28 日 16 時～11 月 10 日８時）

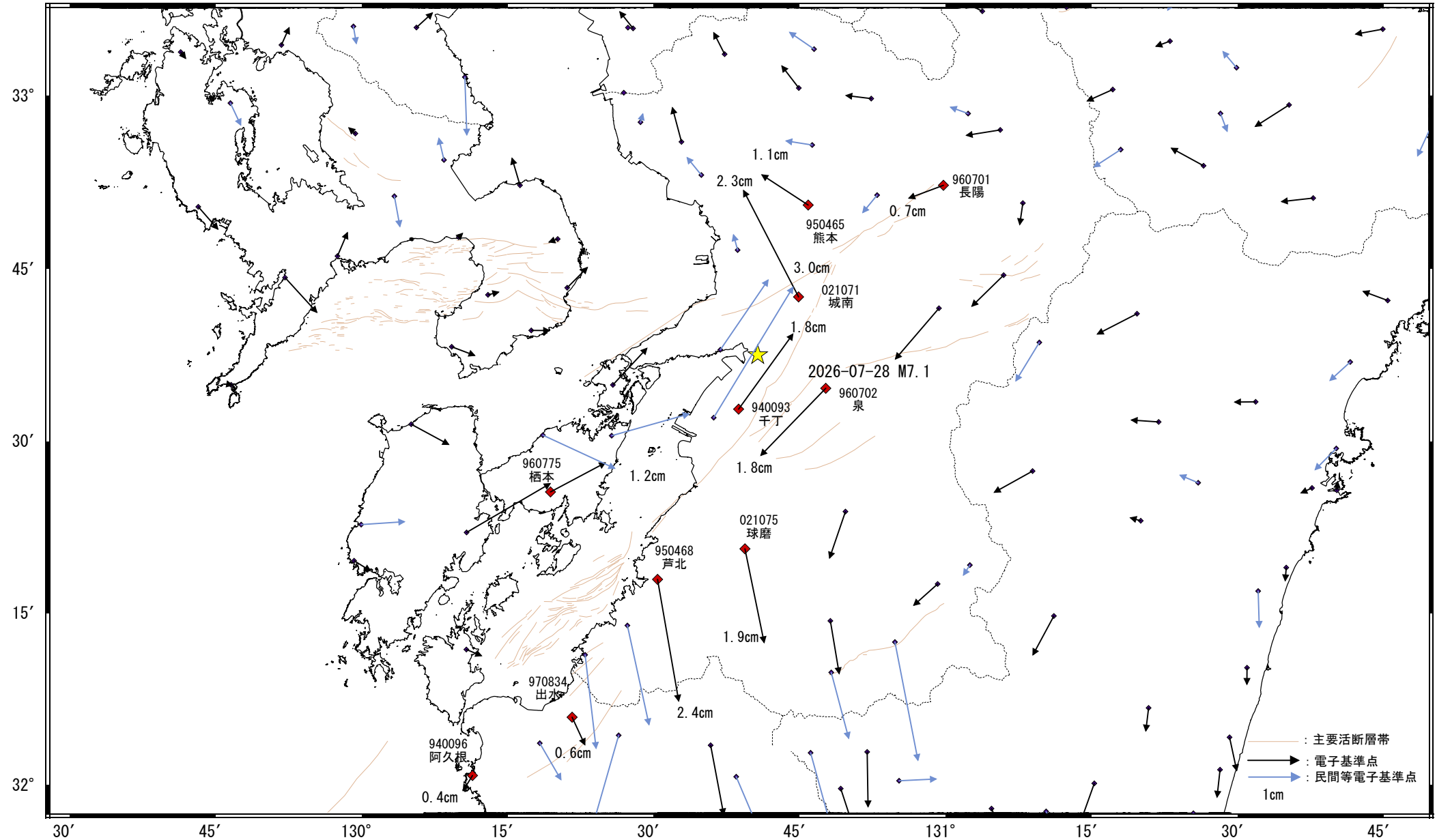


気象庁作成

令和８年熊本地震(7月28日 M7.1)後の地殻変動(暫定)

地殻変動(水平)

基準期間:2026-07-29～2026-07-29[F5.1:最終解]
比較期間:2026-10-23～2026-10-24[R5.1:速報解]



☆ 震央
☆ 固定局:上対馬(950456)(長崎県)
◆ 観測局（グラフ表示）

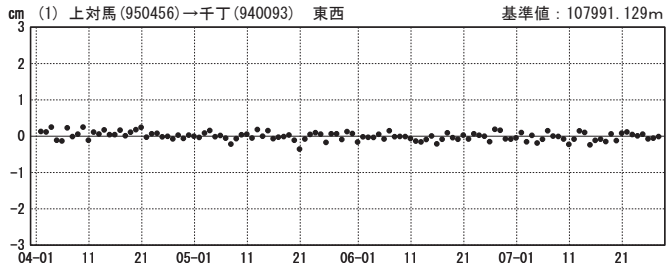
※民間等電子基準点：株式会社NTTドコモ
※城南：傾斜による局所的な変化が含まれている
※主要活断層帯（地震調査研究推進本部による）を重ねて表示

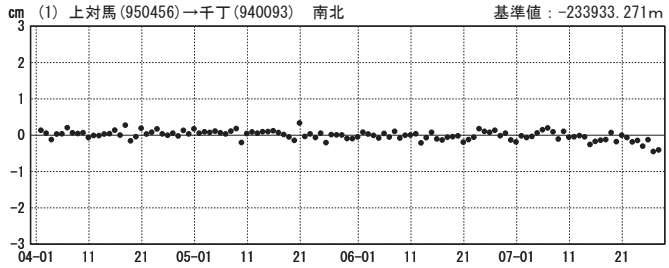
国土地理院

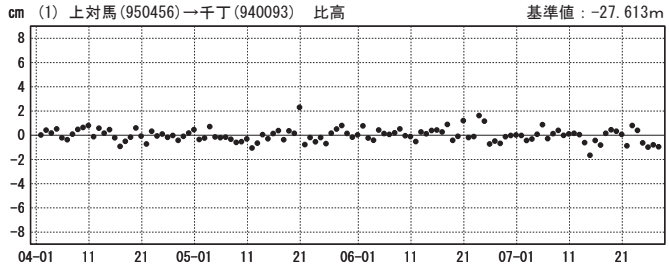
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

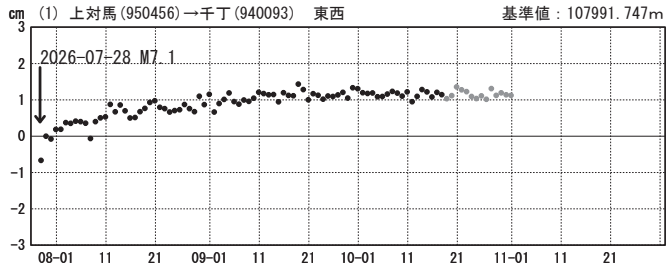
期間: 2026-04-01～2026-07-27 JST

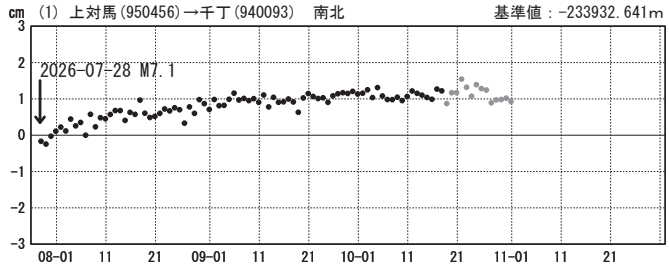


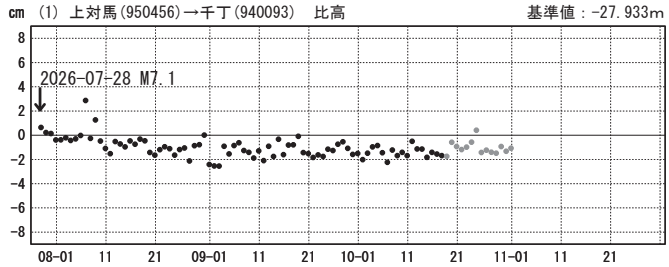




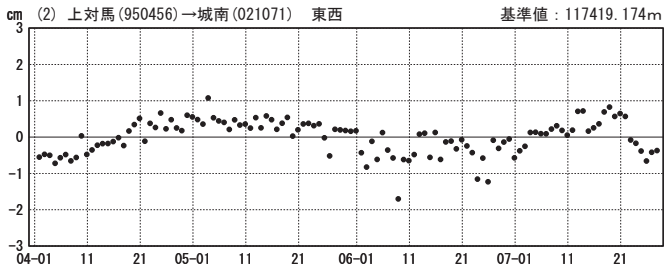
期間: 2026-07-28～2026-11-30 JST

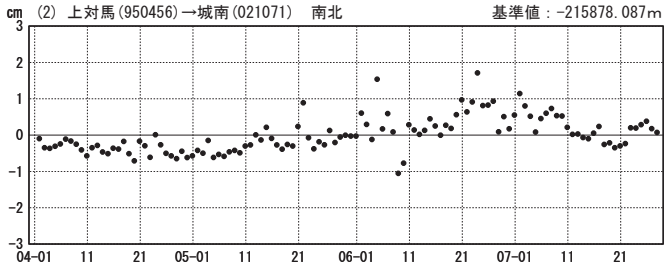


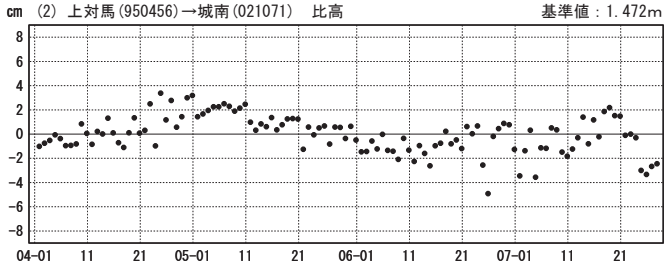




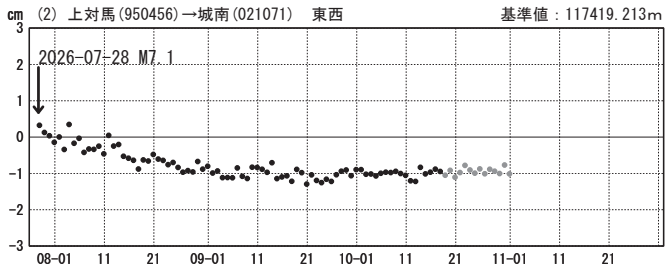
期間: 2026-04-01～2026-07-27 JST

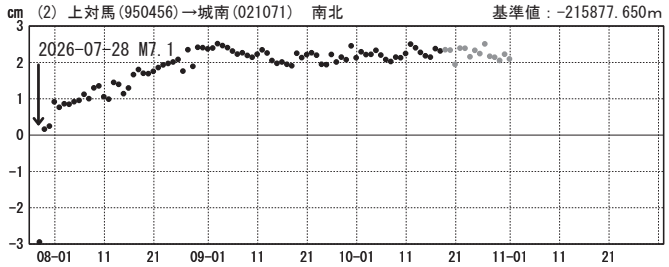


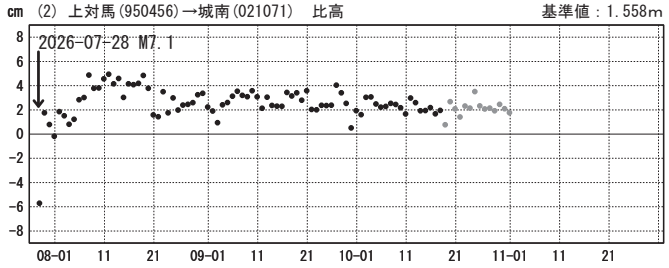




期間: 2026-07-28～2026-11-30 JST







※城南：傾斜による局所的な変化が含まれている

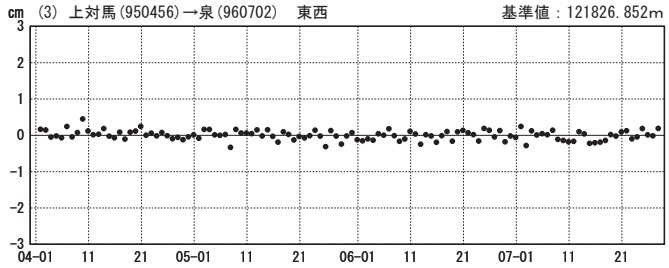
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

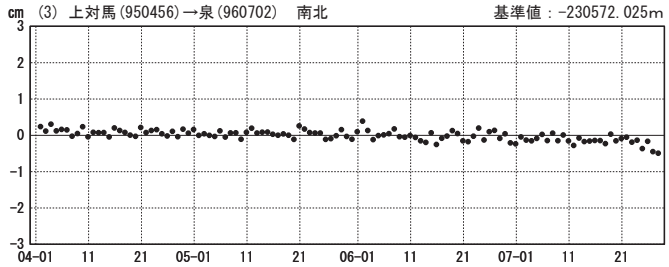
国土地理院

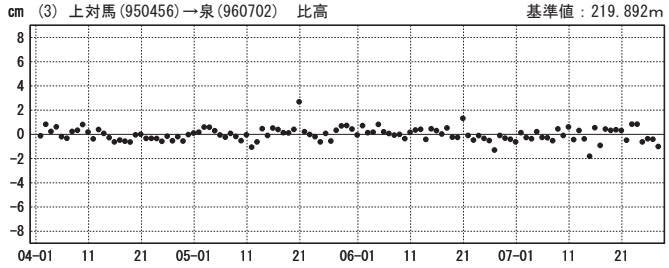
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

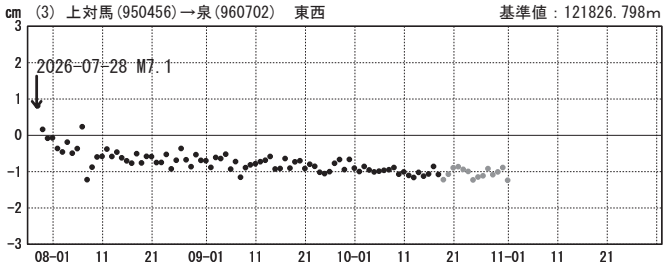
期間: 2026-04-01～2026-07-27 JST

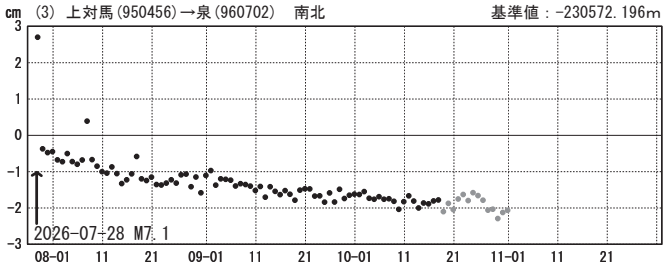


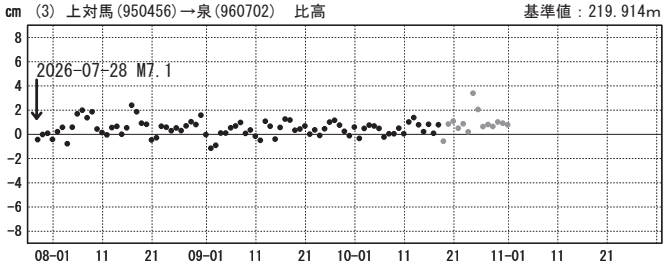




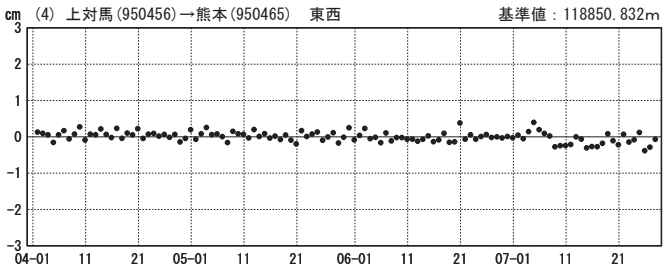
期間: 2026-07-28～2026-11-30 JST

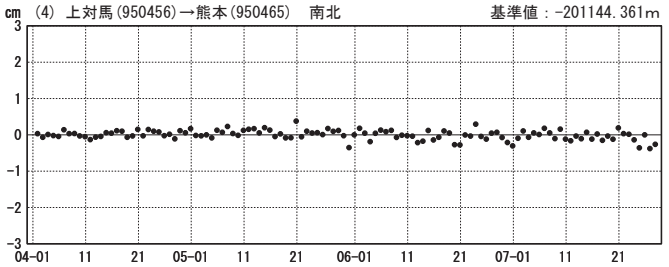


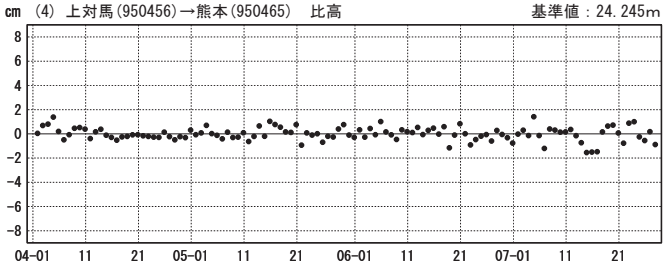




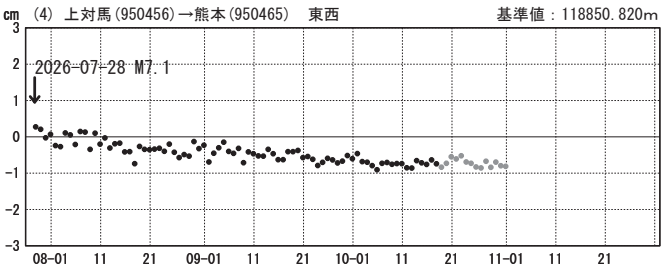
期間: 2026-04-01～2026-07-27 JST

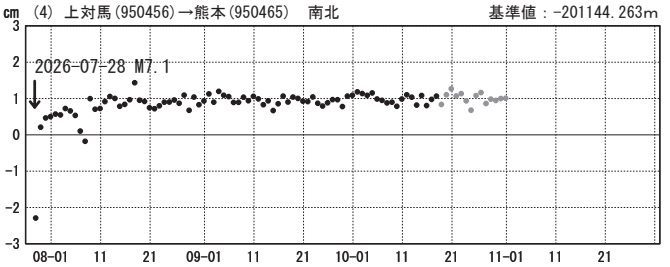


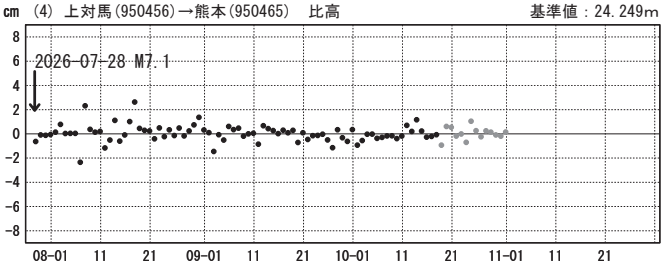




期間: 2026-07-28～2026-11-30 JST







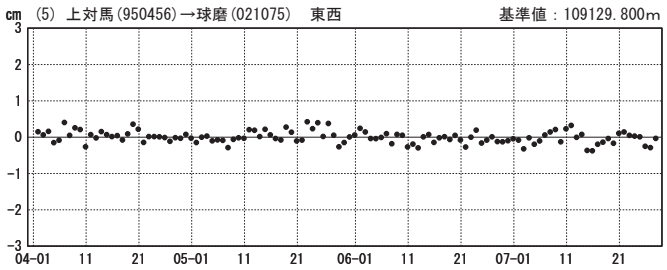
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

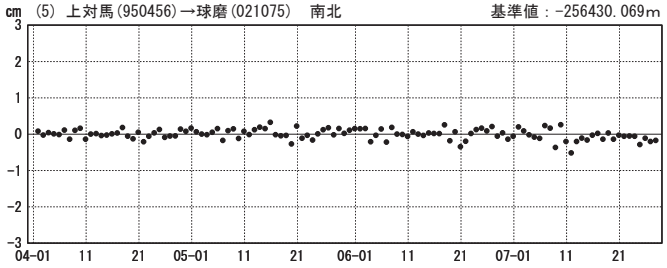
国土地理院

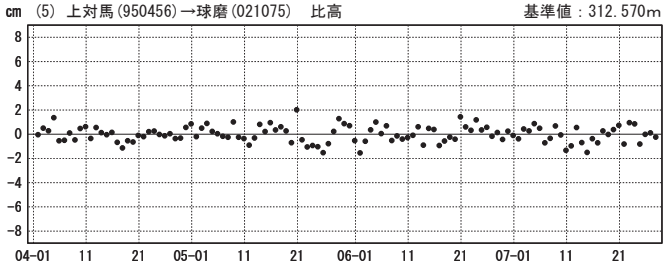
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

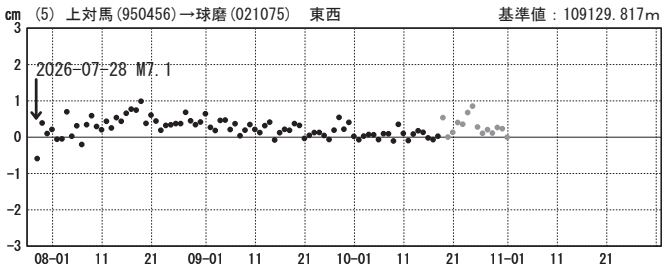
期間: 2026-04-01～2026-07-27 JST

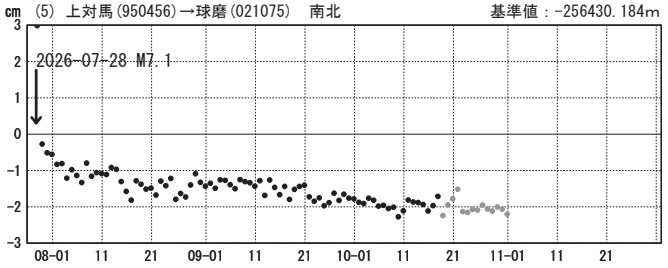


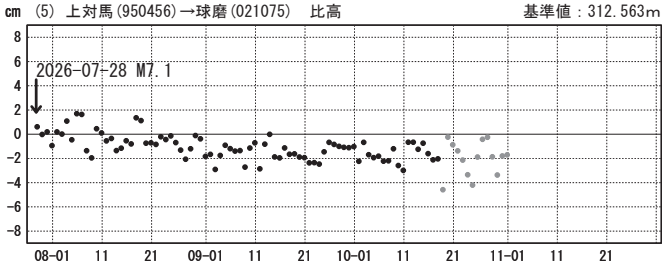




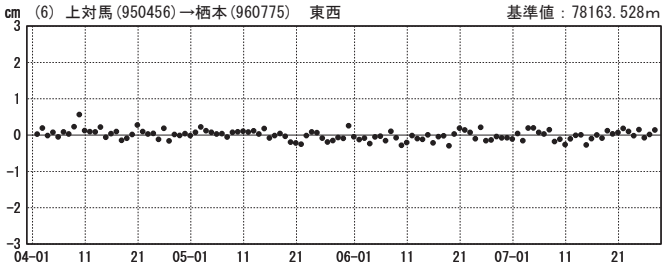
期間: 2026-07-28～2026-11-30 JST

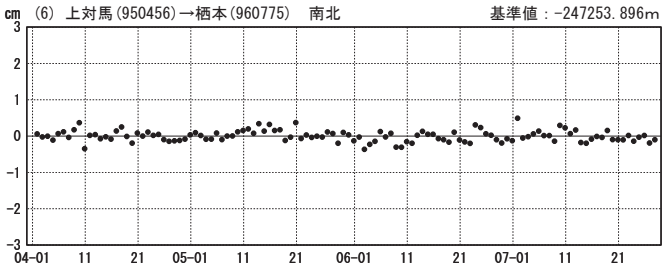


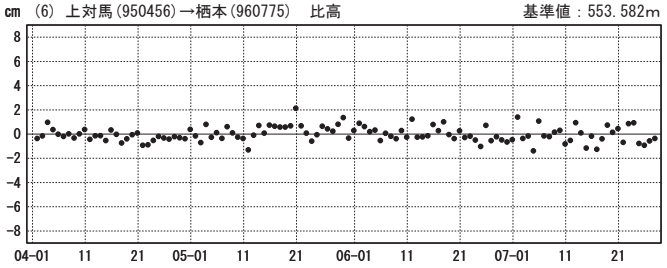




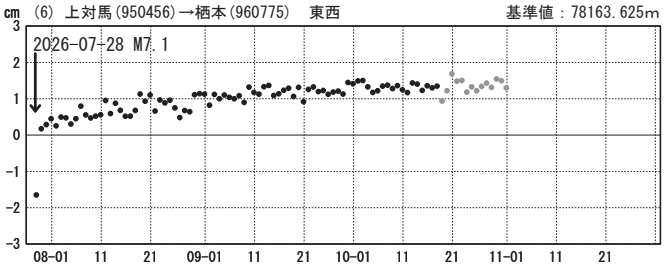
期間: 2026-04-01～2026-07-27 JST

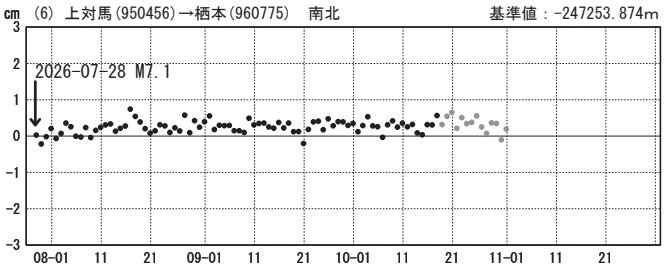


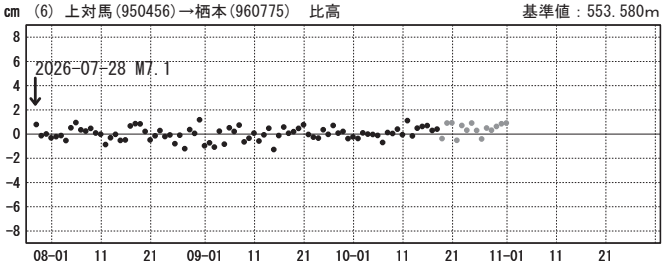




期間: 2026-07-28～2026-11-30 JST







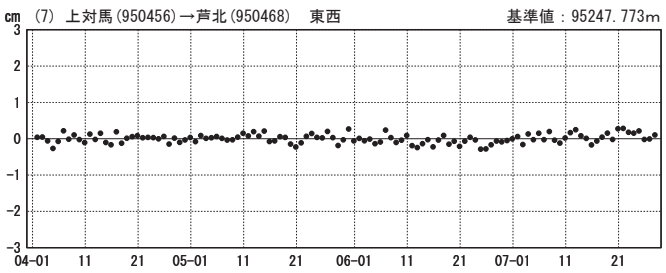
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

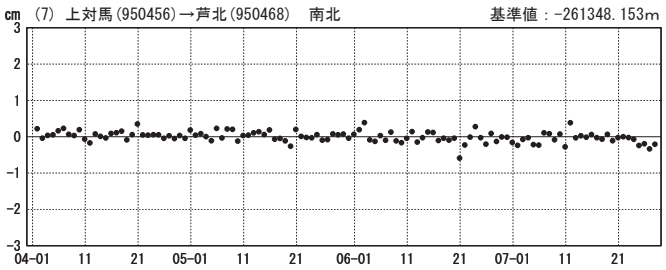
国土地理院

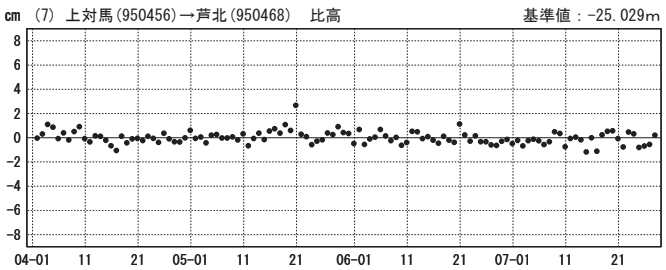
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

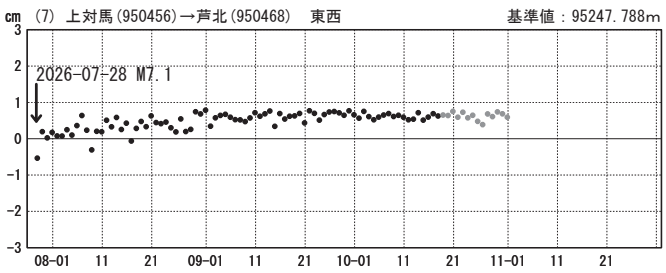
期間: 2026-04-01～2026-07-27 JST

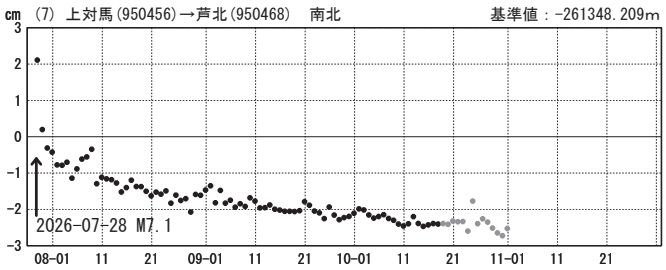


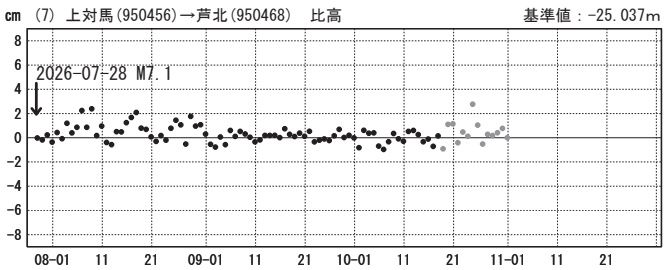




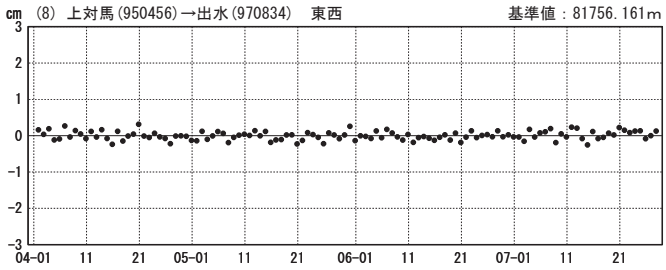
期間: 2026-07-28～2026-11-30 JST

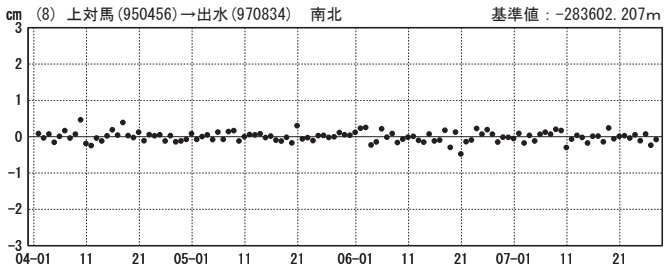


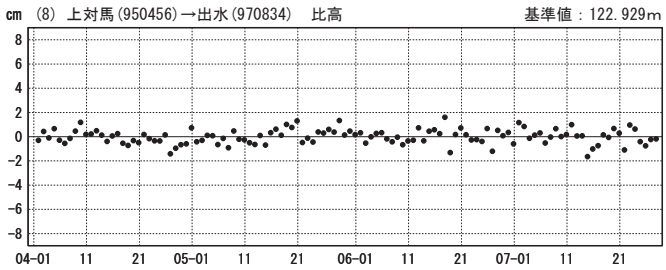




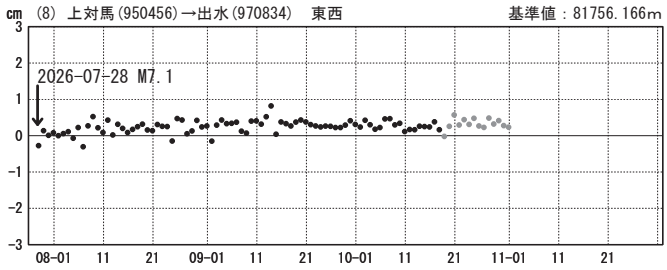
期間: 2026-04-01～2026-07-27 JST

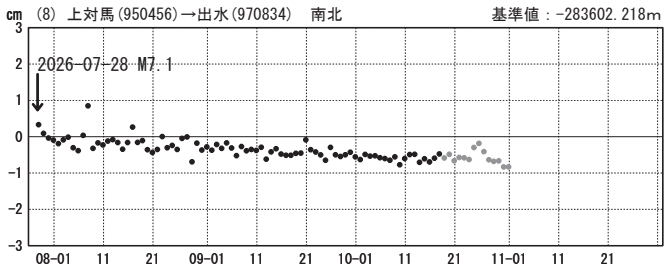


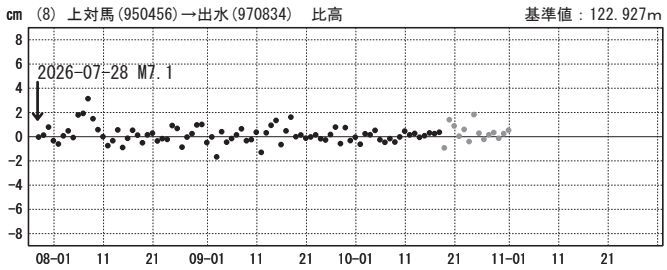




期間: 2026-07-28～2026-11-30 JST







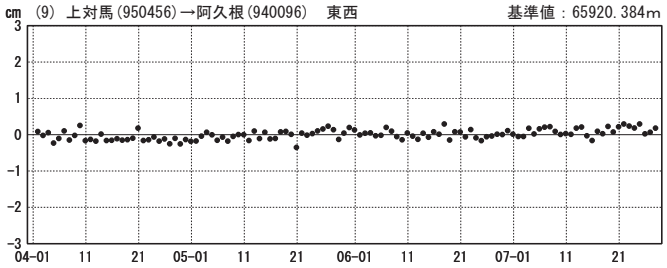
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

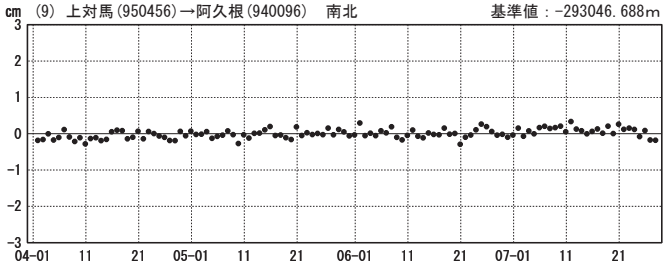
国土地理院

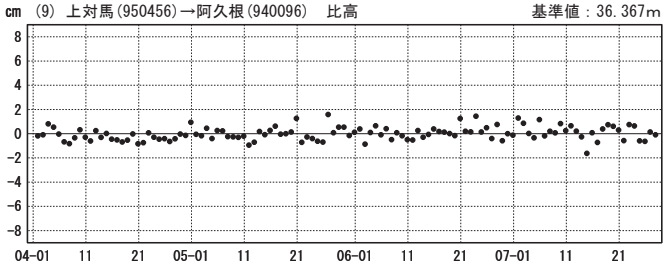
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

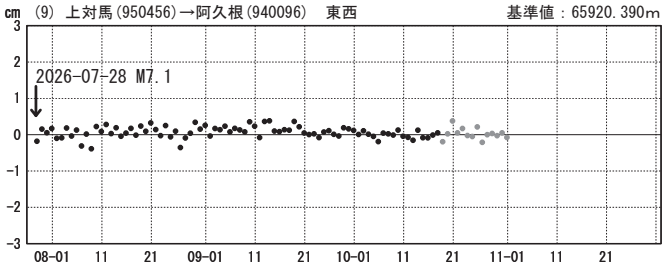
期間: 2026-04-01～2026-07-27 JST

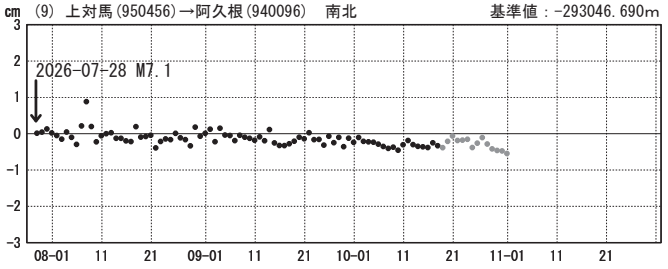


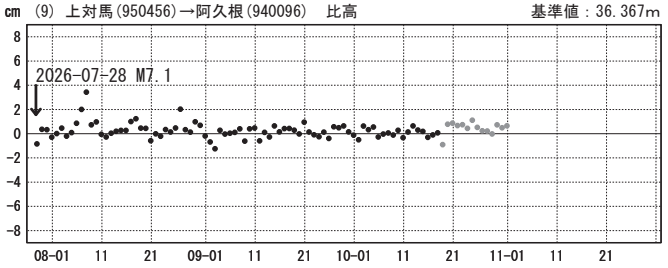




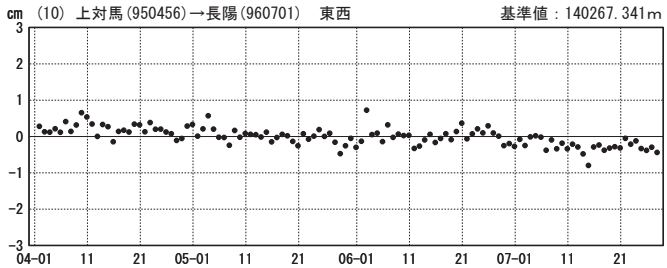
期間: 2026-07-28～2026-11-30 JST

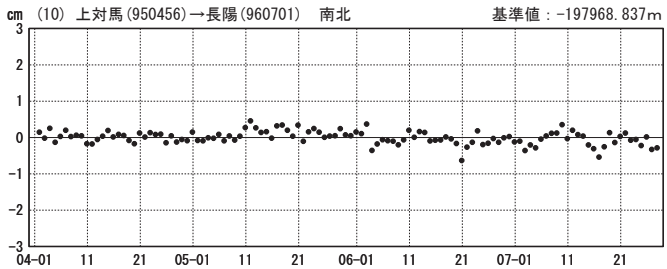


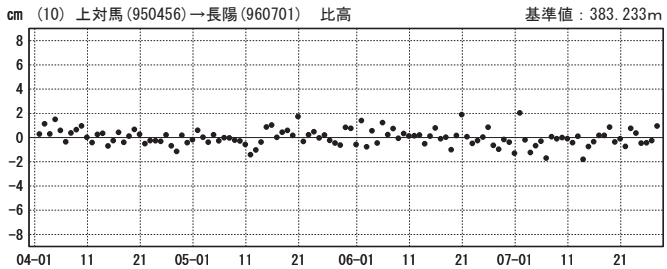




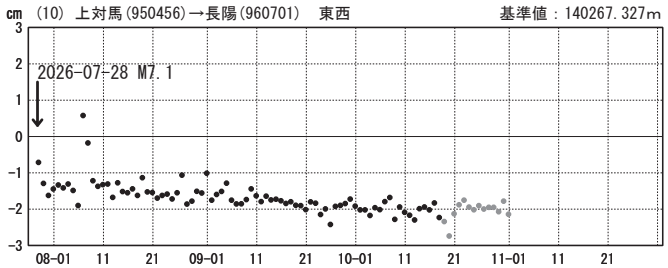
期間: 2026-04-01～2026-07-27 JST

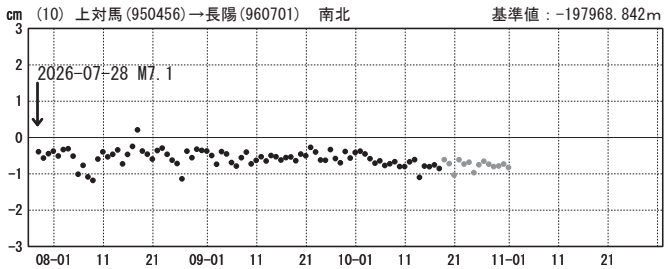


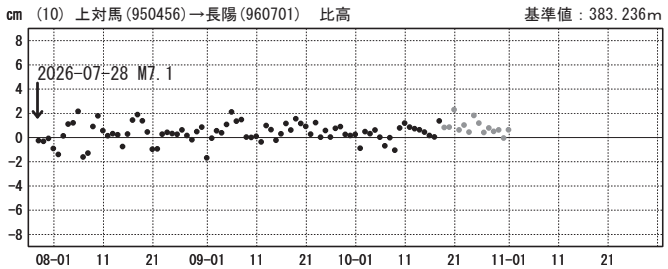




期間: 2026-07-28～2026-11-30 JST



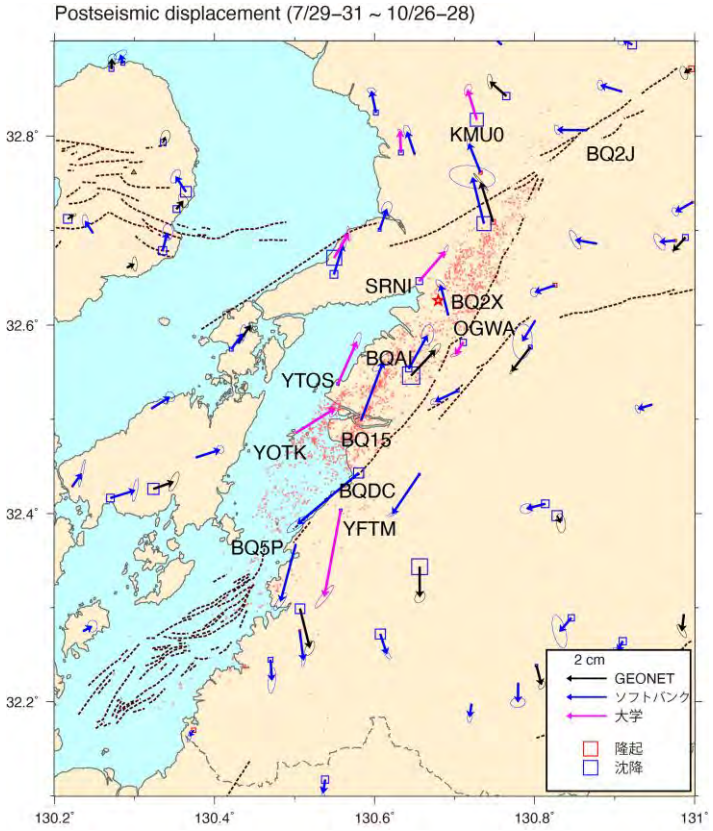




●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

国土地理院

(a)



(b)

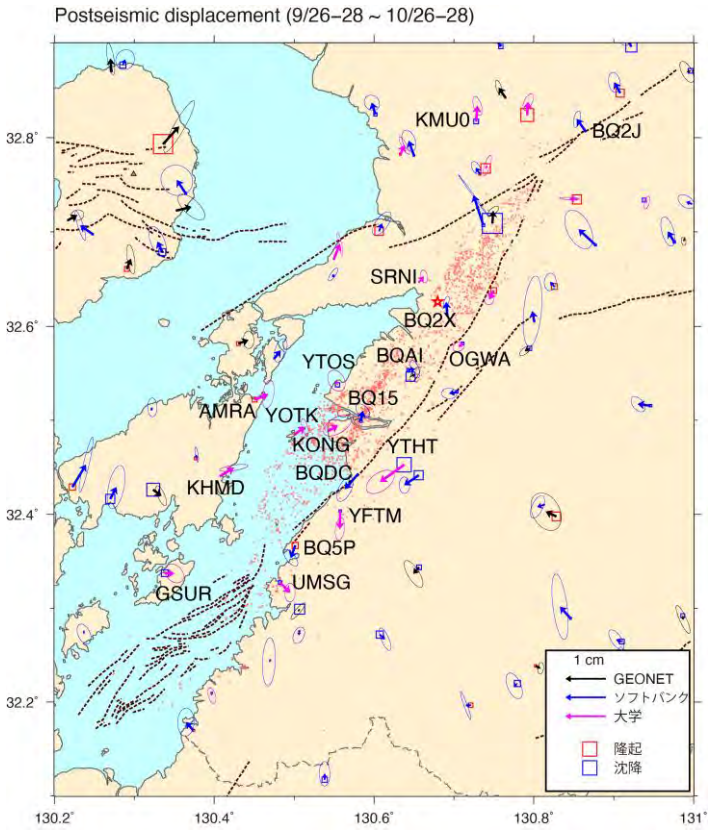


図 1　GNSS 統合解析による令和 8 年熊本地震の地震後地殻変動。星印および赤点は、気象庁一元化震源による本震および M2 以上の震央を表す。茶色の破線は、地震本部による主要活断層を表す。(a)地震後 3 ヶ月間（7 月 29-31 日から 10 月 26-28 日まで）の地殻変動。 (b)最近 1 ヶ月間（9 月 26-28 日と 10 月 26-28 日）の地殻変動。

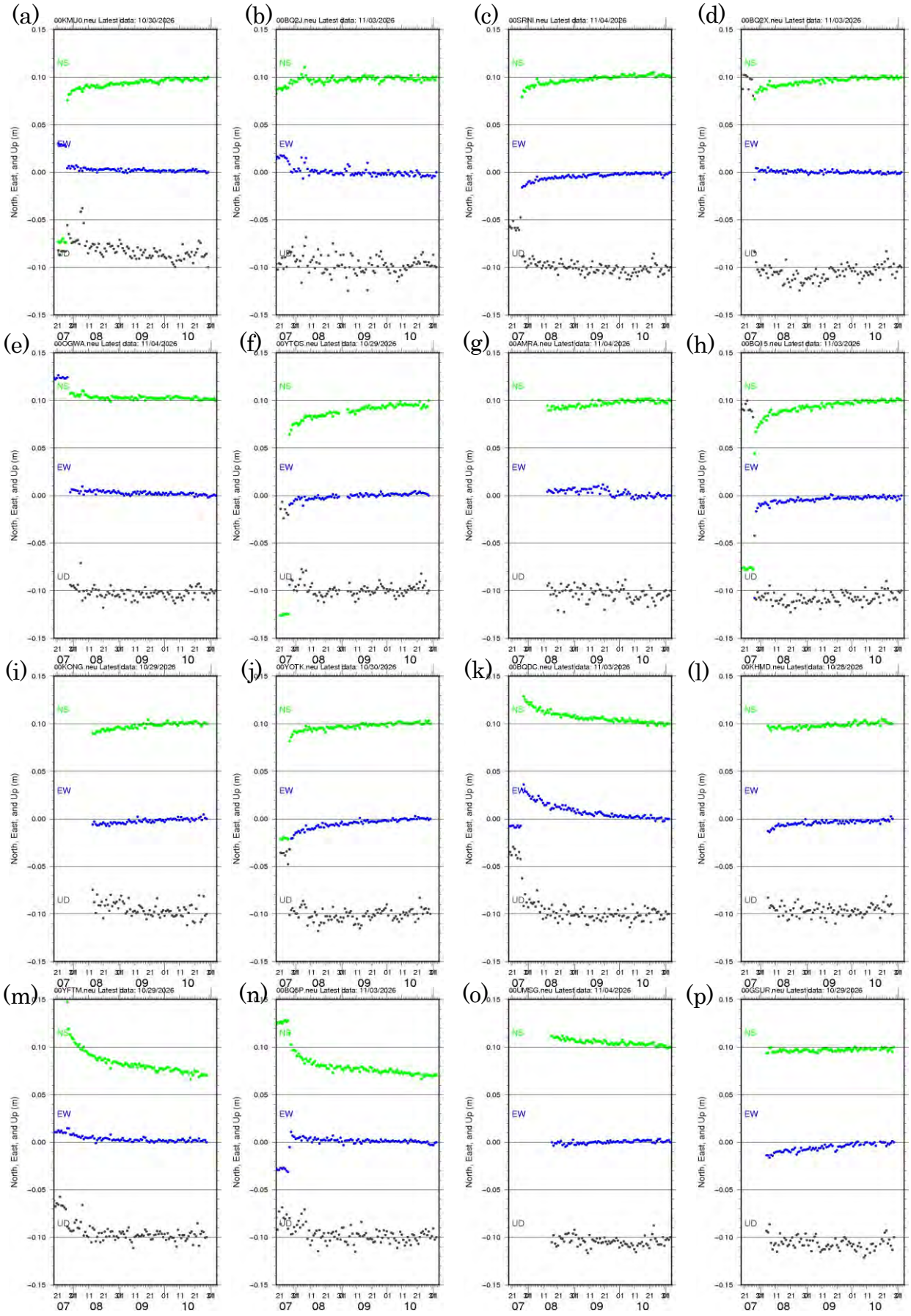
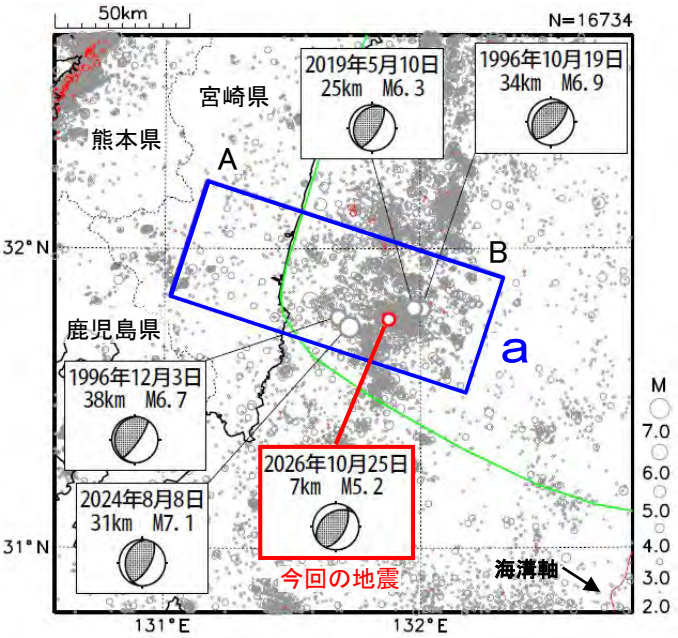


図２　熊本地震余震域周辺の地震前後の GNSS 時系列（日座標値）。（a）KMU0。（b）BQ2J。（c）SRNI。（d）BQ2X。（e）OGWA。（f）YTOS。（g）AMRA。（h）BQ15。（i）KONG。（j）YOTK。（k）BQDC。（l）KHMD。（m）YFTM。（n）BQ5P。（o）UMSG。（p）GSUR。

10 月 25 日　日向灘の地震

震央分布図
（1994 年 10 月 1 日～2026 年 10 月 31 日
深さ 0～80km、M≧2.0）
2026 年 10 月の地震を赤色○で表示
図中の発震機構は CMT 解
緑色の実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す

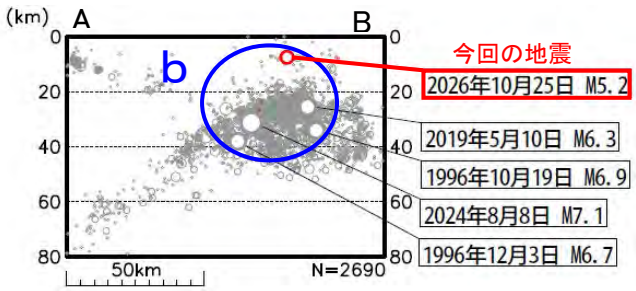


2026年10月25日08時59分に日向灘の深さ７kmでM5.2の地震（最大震度３）が発生した。この地震は発震機構（CMT解）が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

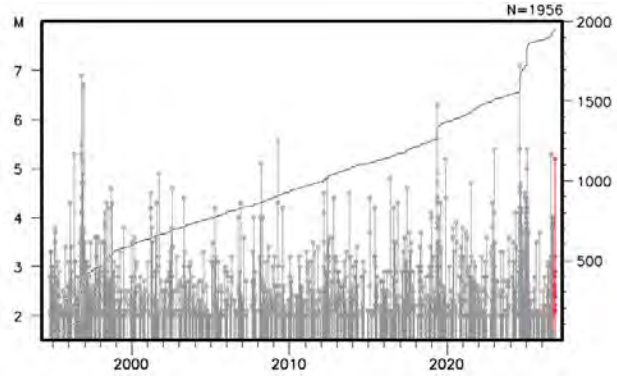
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）ではM6.0以上の地震が４回発生している。2019年５月10日にM6.3の地震（最大震度５弱）が発生し、負傷者３人の被害が生じた（被害は2020年９月30日現在、総務省消防庁による）。また、2024年８月８日にM7.1の地震（最大震度６弱）が発生し、宮崎県の宮崎港（国土交通省港湾局）で最大51cmの津波を観測したほか、千葉県から鹿児島県にかけて津波を観測した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）ではM7.0以上の地震が４回発生している。1961年２月27日に発生したM7.0の地震により、高知県の土佐清水で95cm、宮崎県の油津で90cm（いずれも全振幅）などの津波を観測した（「日本被害津波総覧」による）。

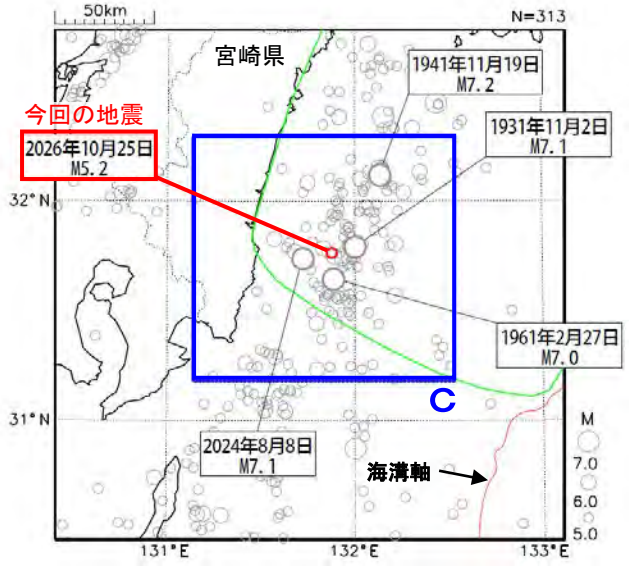
領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



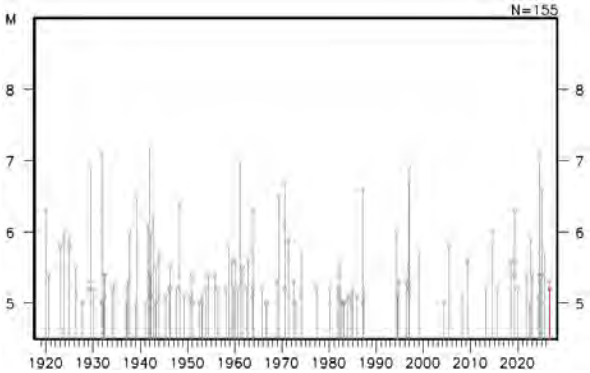
領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



震央分布図
（1919 年 1 月 1 日～2026 年 10 月 31 日、
深さ 0～100km、M≧5.0）
2026 年 10 月の地震を赤色○で表示
緑色の実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す

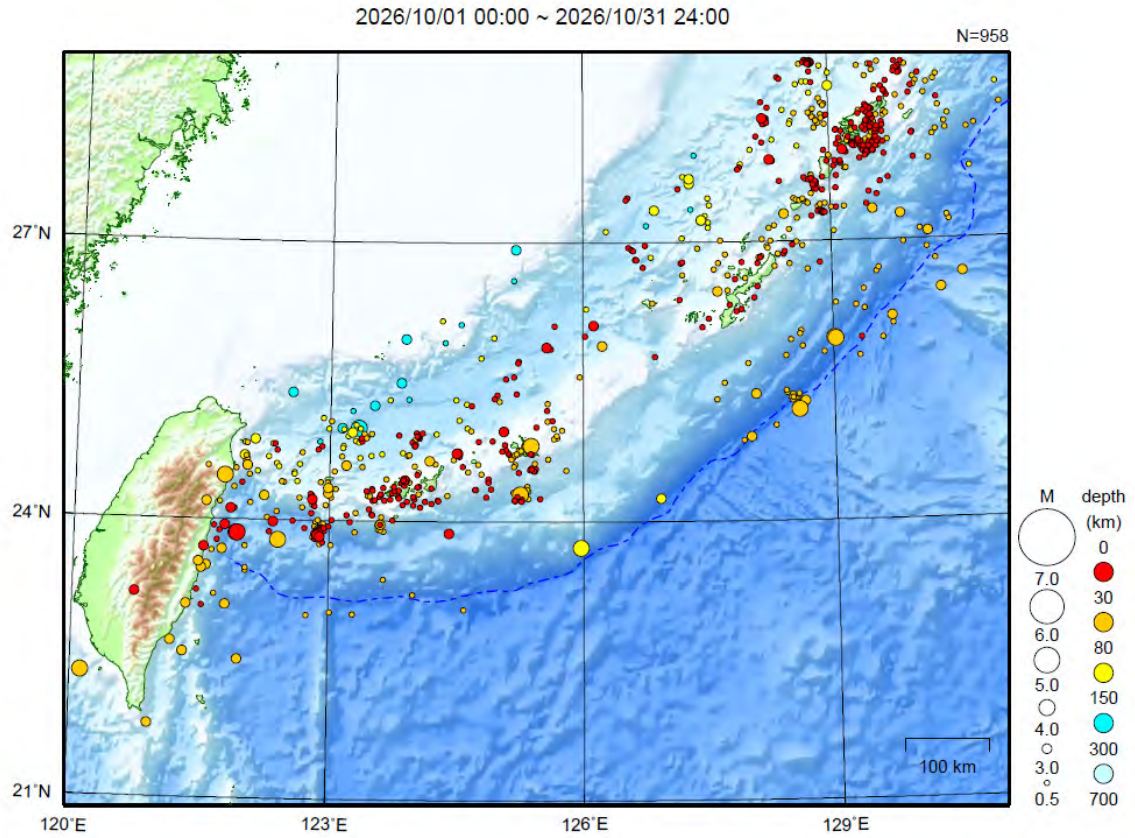


領域ｃ内のＭ－Ｔ図



気象庁作成

沖縄地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省